

YAPOO, THE HUMAN CATTLE
Egawa Tetsuya x Numa Shozo

家畜人ヤプー

からくじん

BIRZ
COMICS

家畜人ヤプー

Egawa Tetsuya x Numa Shozo

作画 江川達也
原作 沼正三
発行 幻冬舎
コミックス



9784344807822

ISBN4-344-80782-0

C9979 ¥590E



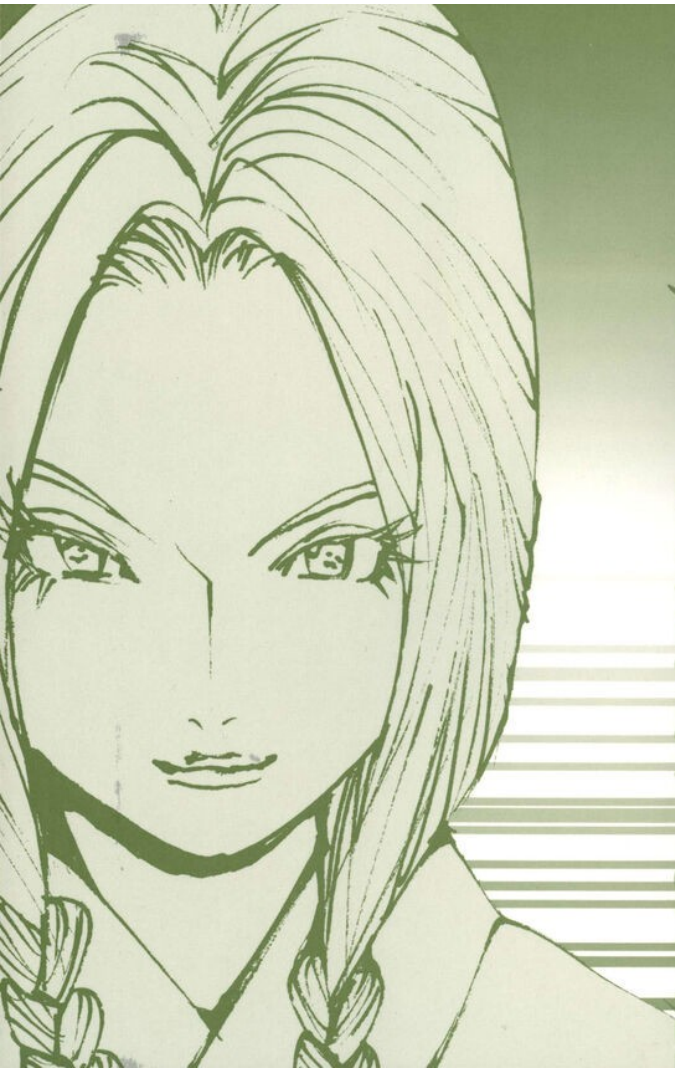
1929979005900

雑誌 54245-05
定価: 本体590円 + 税
発行 = 幻冬舎コミックス
発売 = 幻冬舎

YAPOO

作画 江川達也
原作 沼正三

BIRZ
COMICS



BIRZ
COMIC

家畜人ヤプー

作 田 江川 浩 世

原 作 江川 浩 世

発行 幻冬舎
コミックス

YAPOO, THE HUMAN CATTLE

YAP

ヴァス・ウィルド・アオス・イーム
彼は何になるだろうか？

戦後最大の奇書 第8巻 江川達也 沼正三

家畜の去勢に、慈悲も麻酔もいらぬ。

も、家畜として生きる以外に道はないのか。

20世紀の地球は、未来帝国イースがやって来たアラクと闘い、愛し合う二人の関係は、その道中に「貴族と家畜」へと大きく変化を遂げる。エース文明に惹かれてゆくアラク、家畜となりをがらアラクを信じて待つ闘一部。そして遂に再会を果たす二人の運命を左右する、決定的な事件が起ころー。

作画 江川達也 原作 沼正三

月刊コミックバースは毎月30日発売!!

YAPOO, THE HUMAN CAT
Egawa Takuya × Numo Shozo

家畜

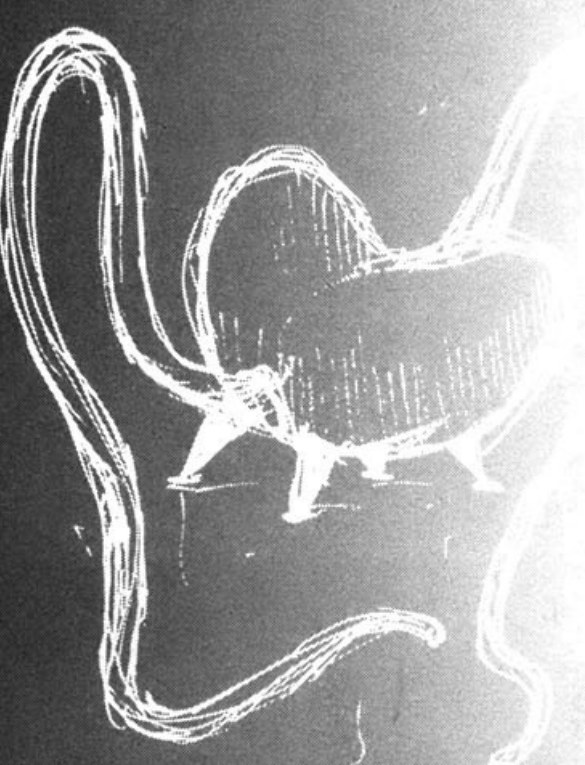
かちく
じん

ヤプー

Y
A
P
O
O

八

作画 **江川達也**
原作 **沼正三**



YAPOO, THE HUMAN CATTLE 8 CONTENTS

第十三章 美女と野獣

第二話 ————— 5

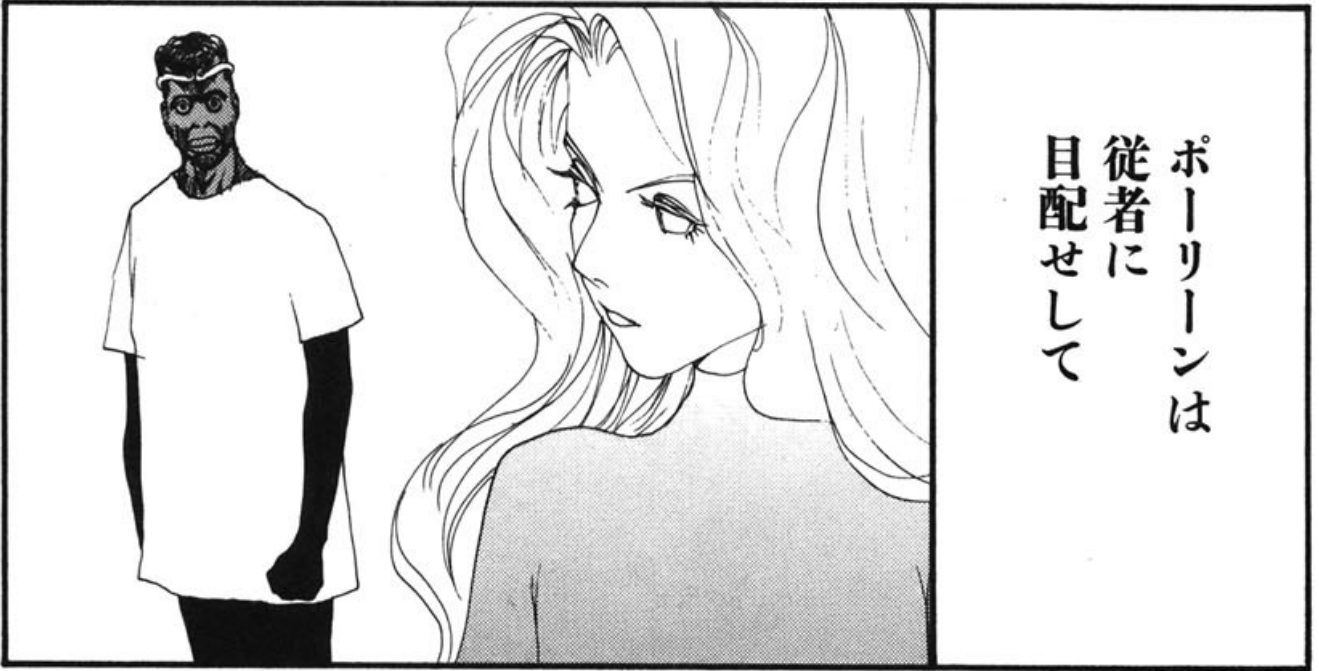
第三話 ————— 23

第四話 ————— 59

第十四章 二つの手術

第一話 ————— 97

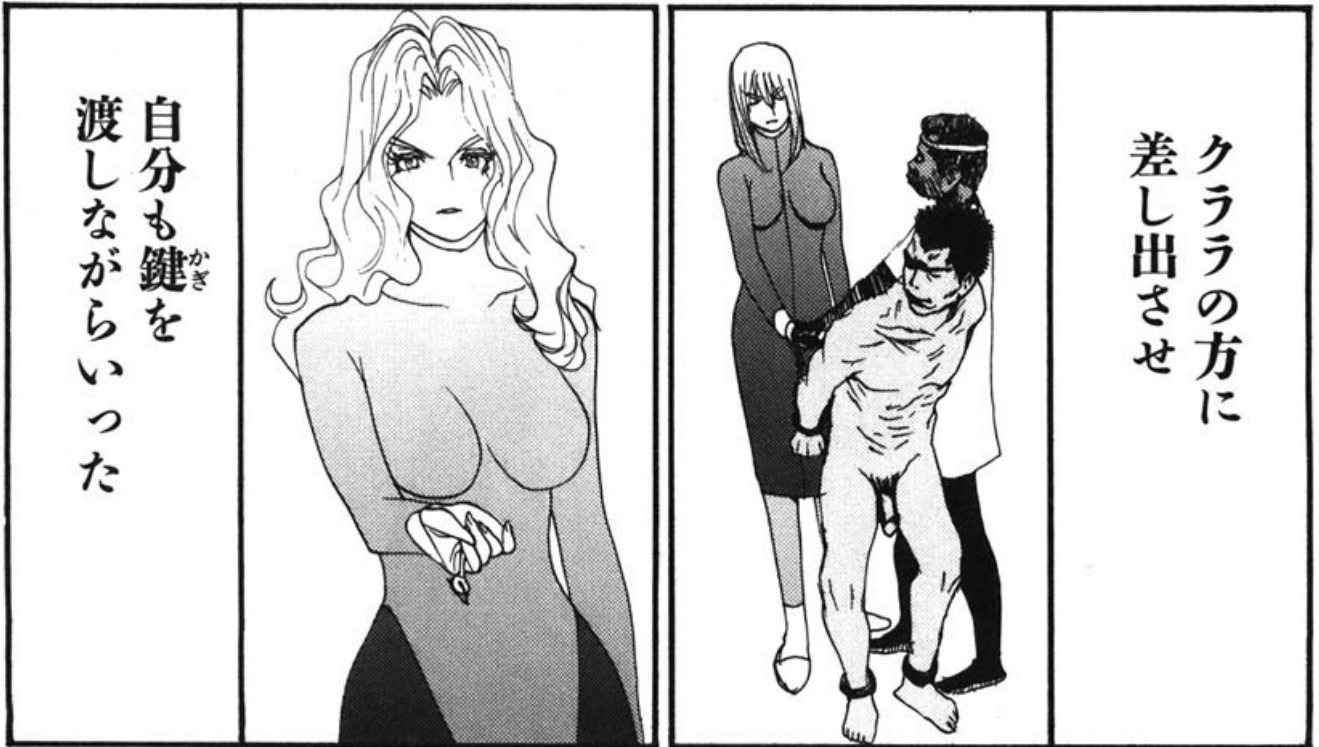
第二話 ————— 133



ポーリーンは
従者に
目配せして



鎖の端を



自分も鍵かぎを
渡しながらいった

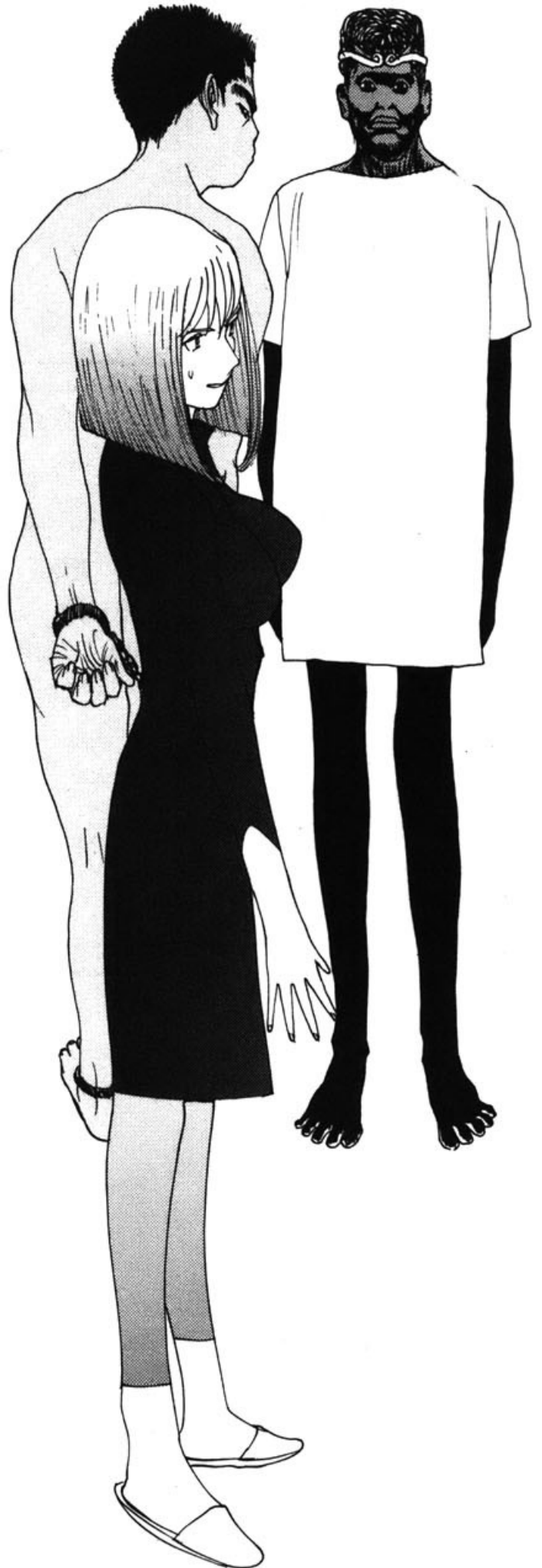
クララの方に
差し出させ

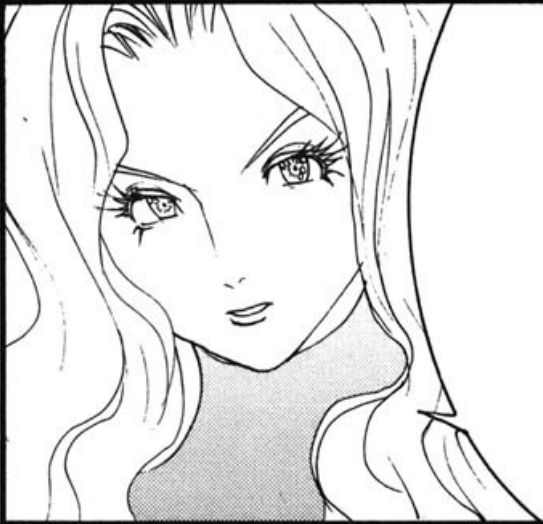
な
お
緩解してやったら
ひどく
あば
暴れてね



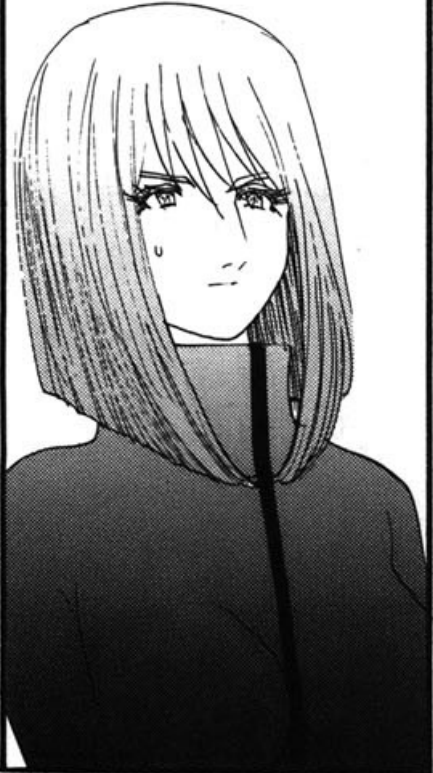
第十三章 美女と野獣 — 第二話 —

仕方ないから
鎖を掛けて
来たの






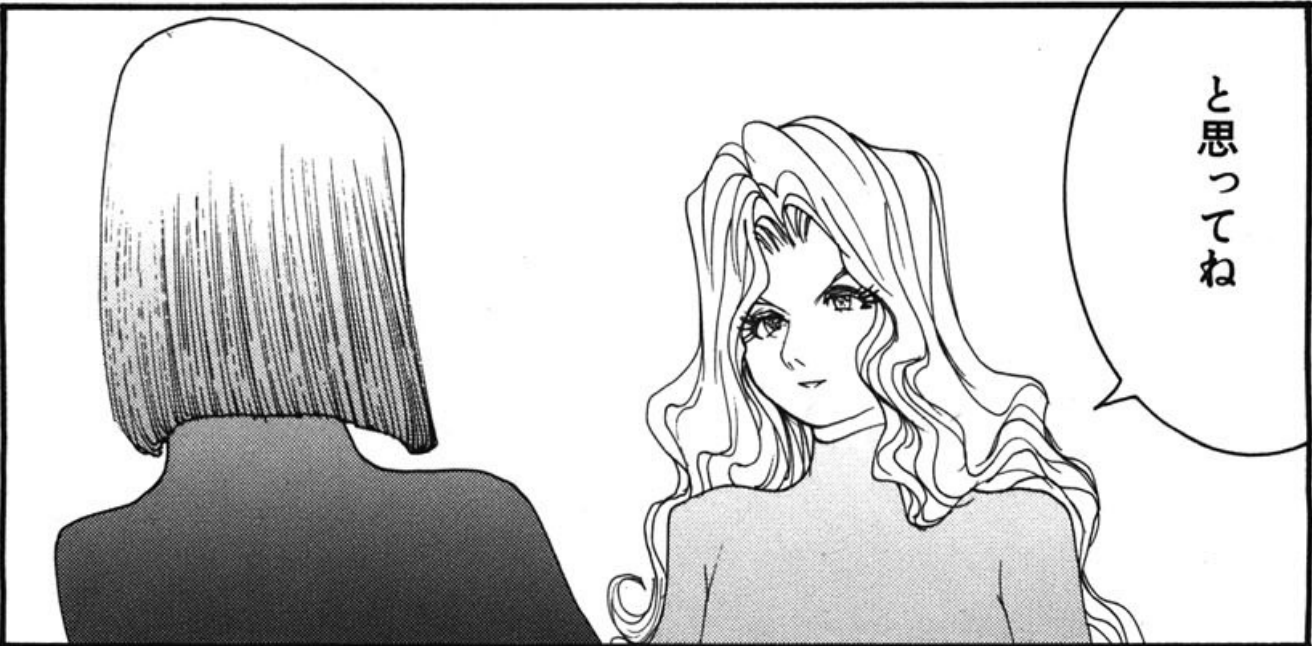
檻おりに入れてから
連絡しようか
とも思っただけど



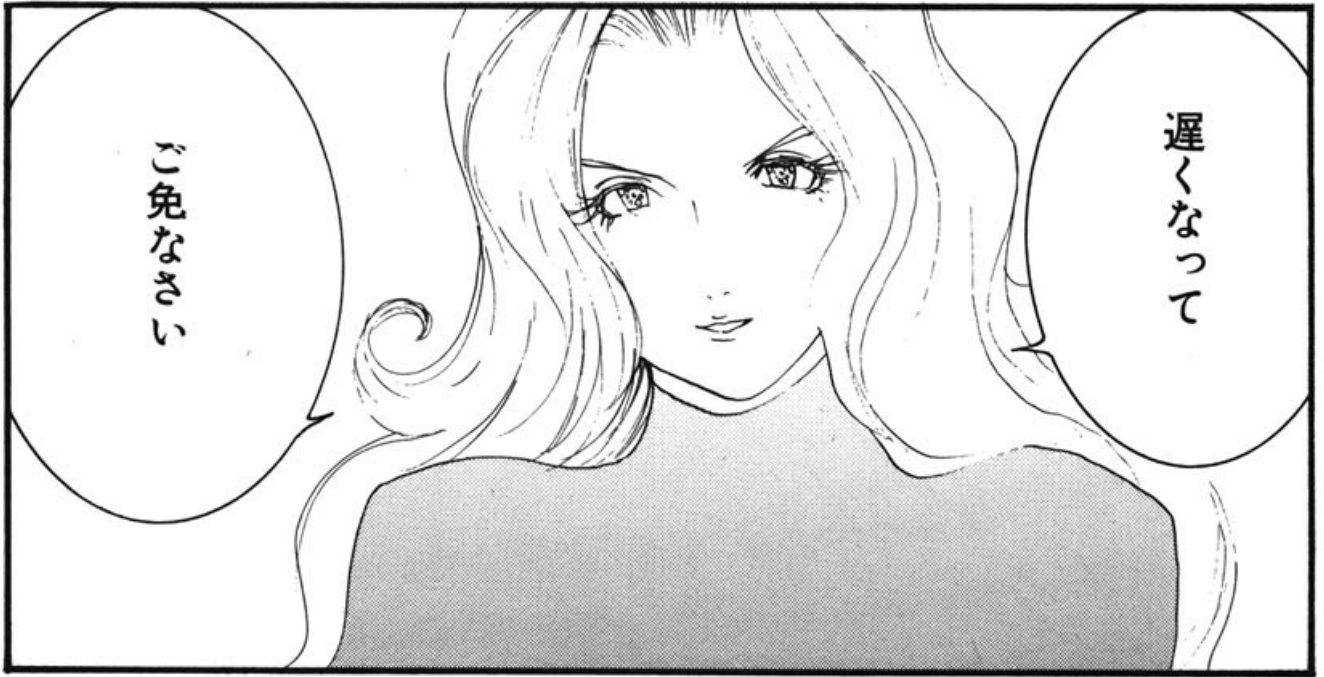
いちおう
あなた
貴方の手に



緩・解・し・て・返・す。
っ・て・約・束
だ・っ・た・か・ら

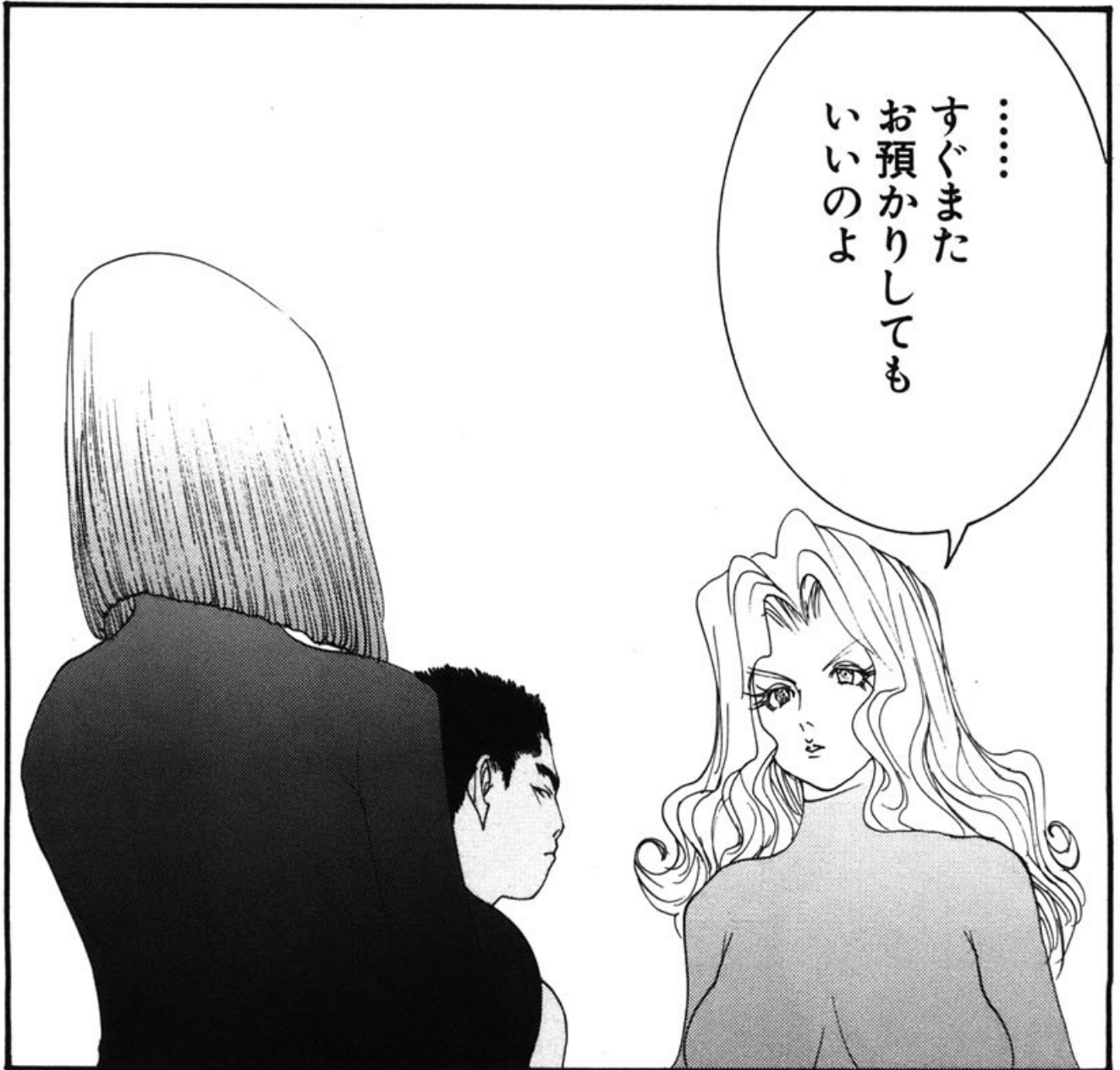


と思っ
てね

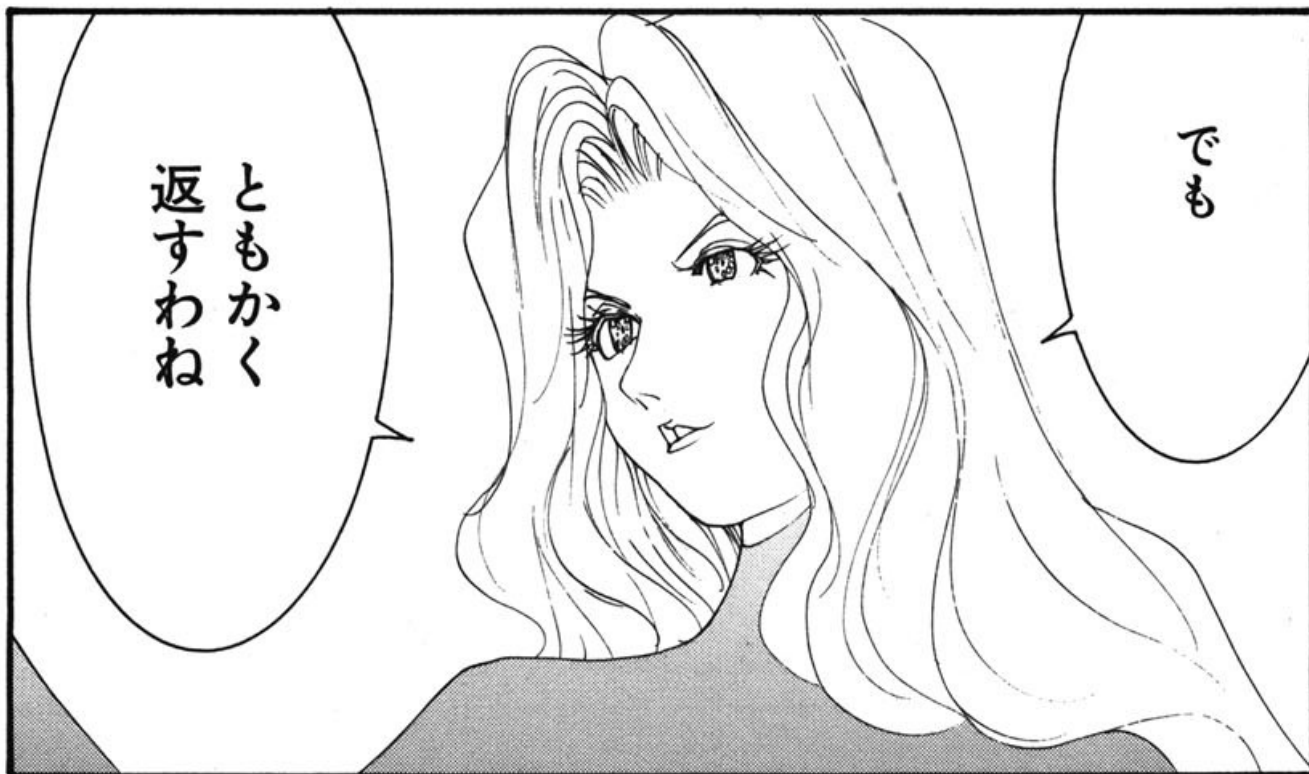


遅くなって

ご免なさい



……
すぐまた
お預かりしても
いいのよ



ともかく
返すわね

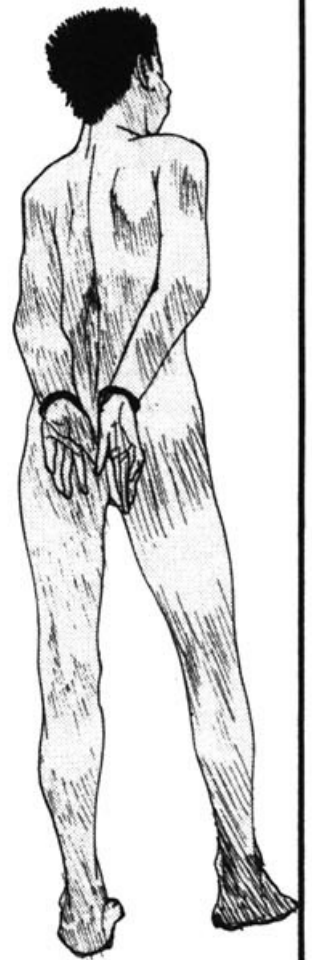
でも



ありがとう

確かに

鎖を
放し
垂らして



手錠の
鍵を
クララが
あけようと
すると



そばから
ウイリアムが
あわてて

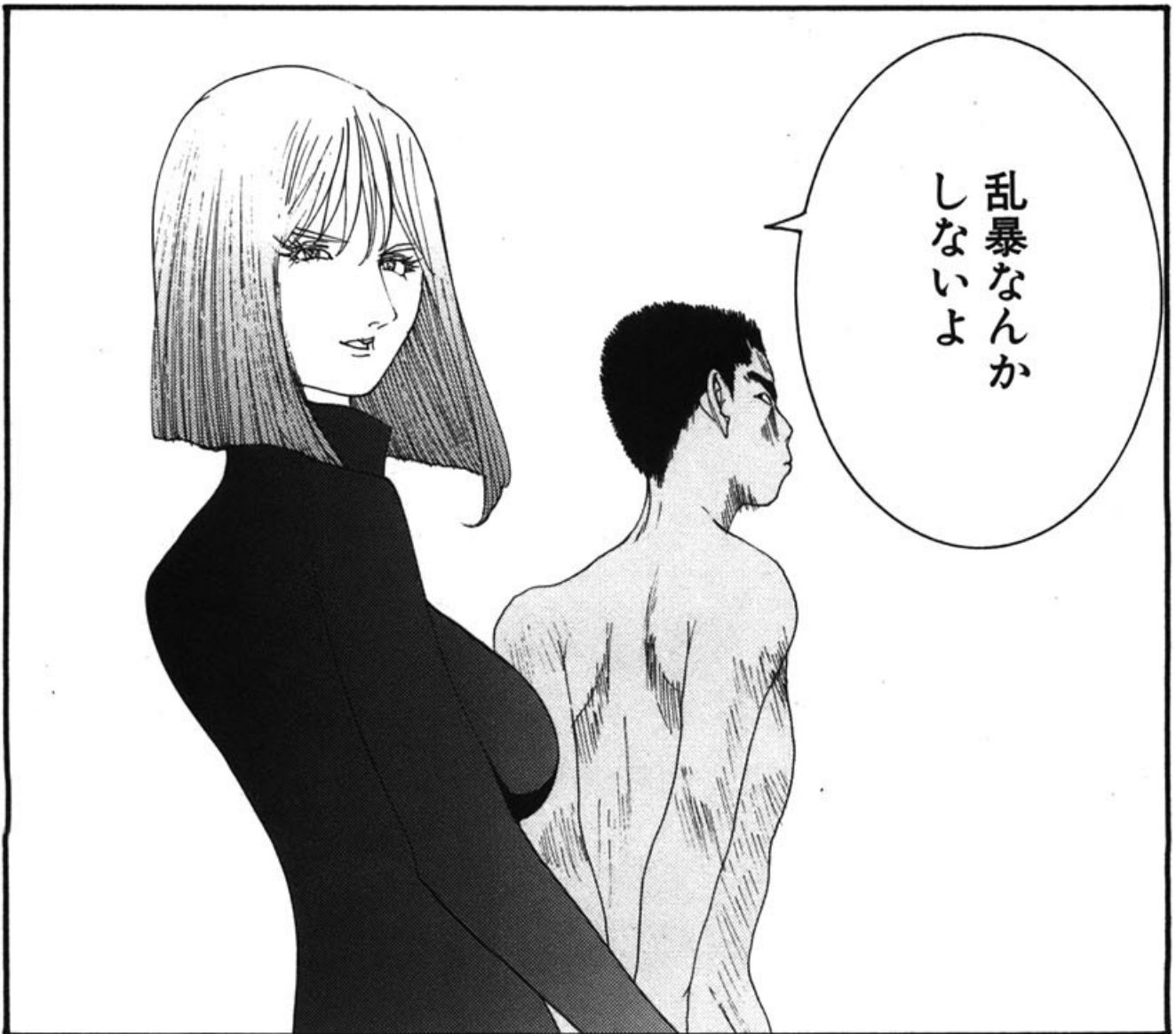


口をはさんだ



クララ
あぶないですよ

……
そんな
乱暴なヤプーを



乱暴なんか
しないよ



麟一郎は
怒りを
いじらしいまでの
努力で
抑えながら



それでも
精一杯の抗議を
こめていった



クララとの間の
言葉であった

ドイツ語で
……

着物をくれ
といたら

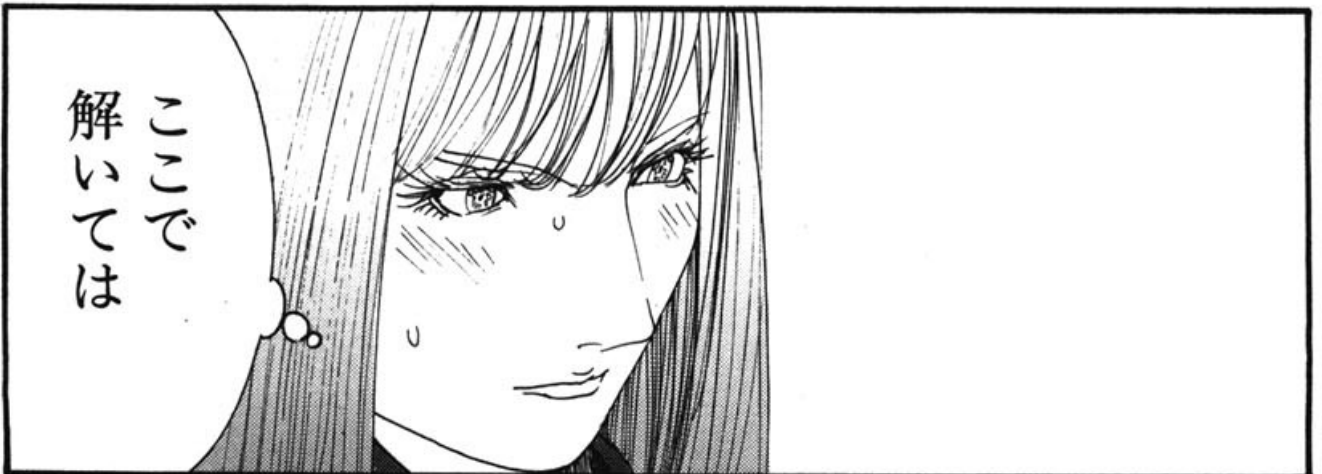
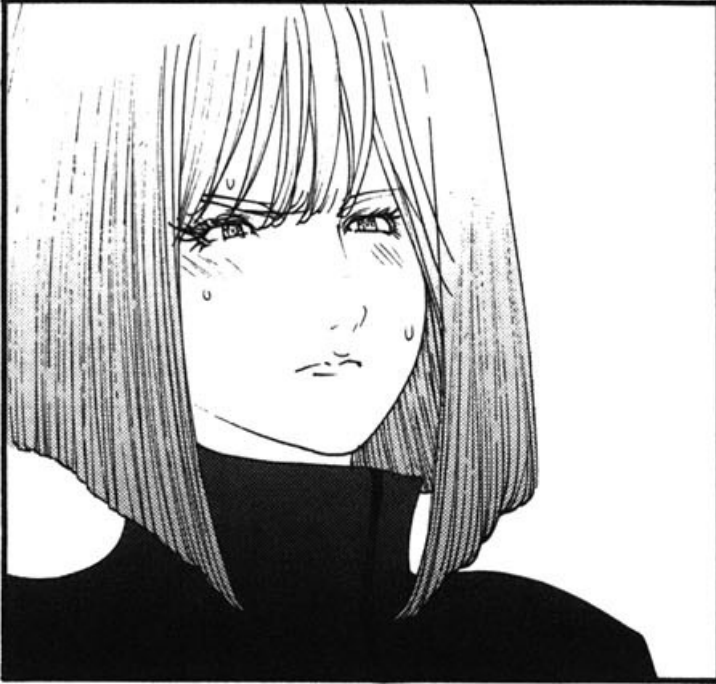
皆で
ひどい目に
あわせるから
それで抵抗したんだ

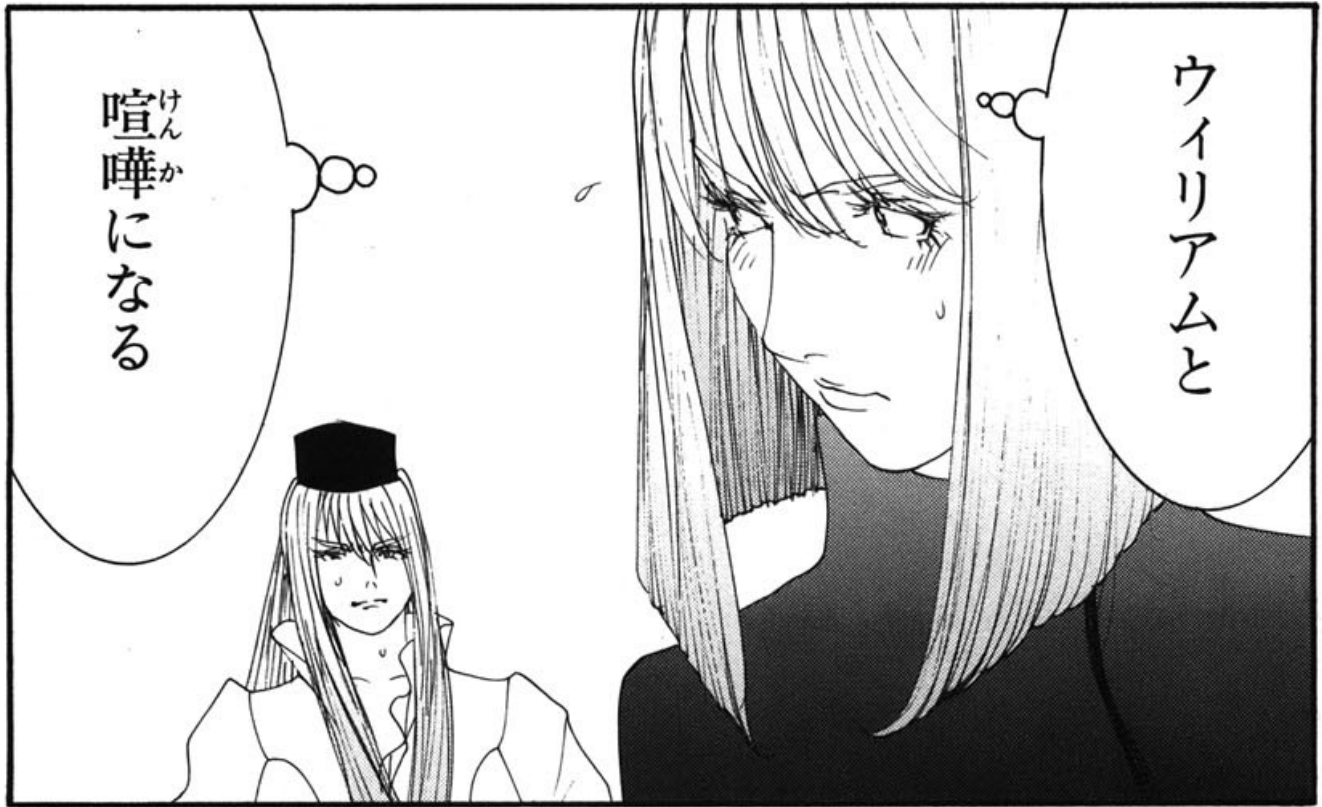
ひどい奴ら
ばかりだよ
……



ほとんど
哀願する
ような目で
恋人の顔を
仰ぎ見た

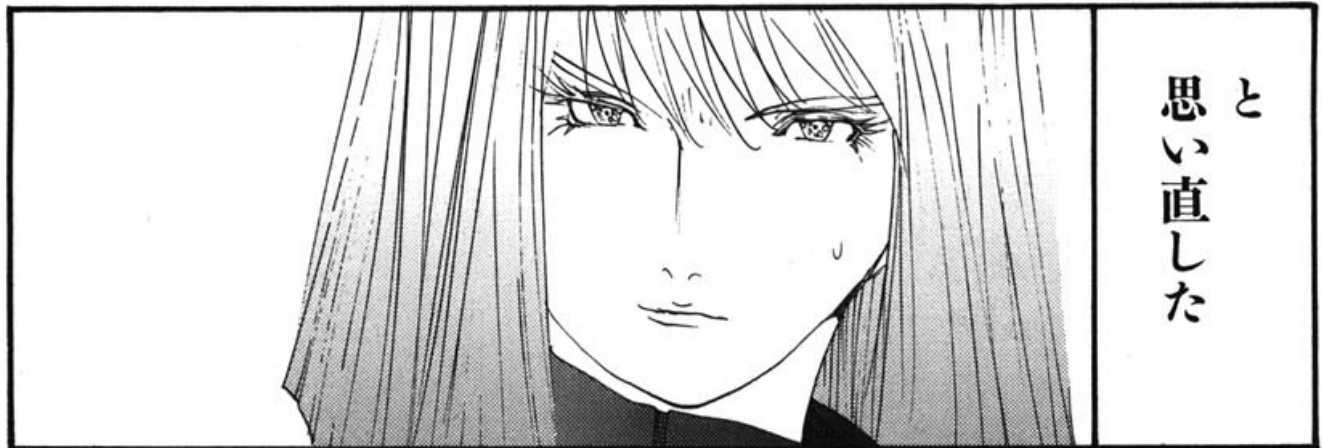
クララは
すぐにも
鎖を解いて
やりたい
気持で
あった



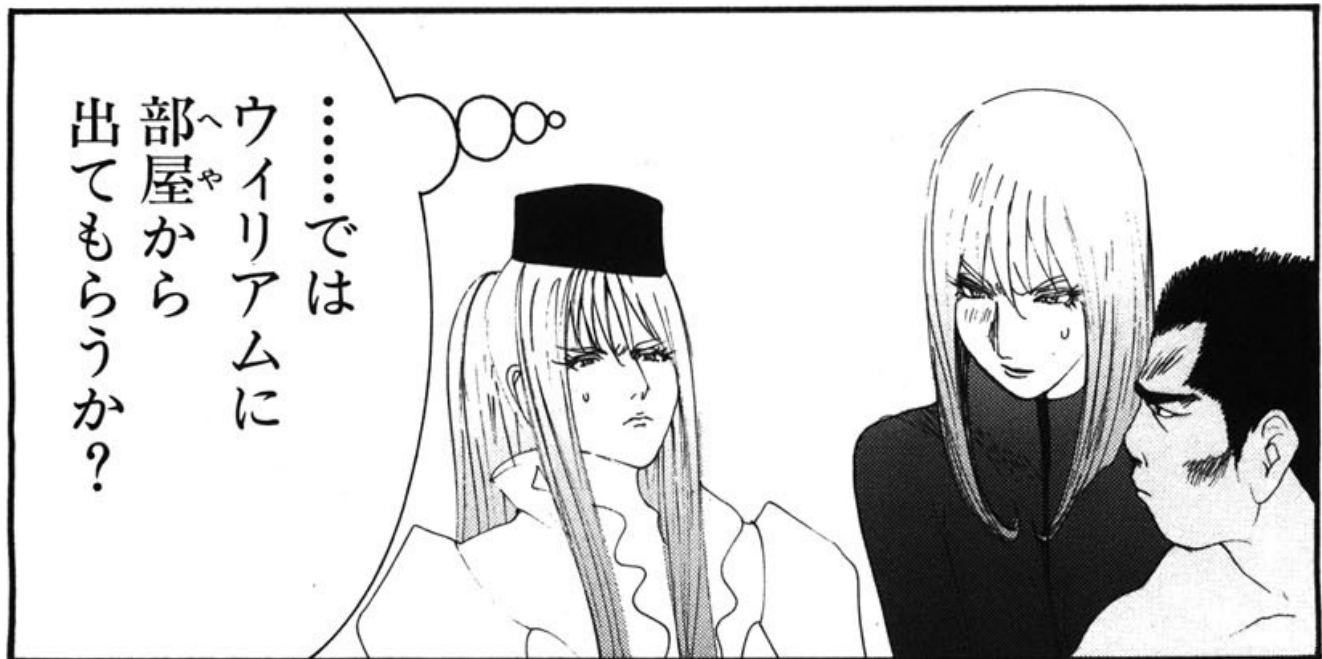


喧嘩けんかになる

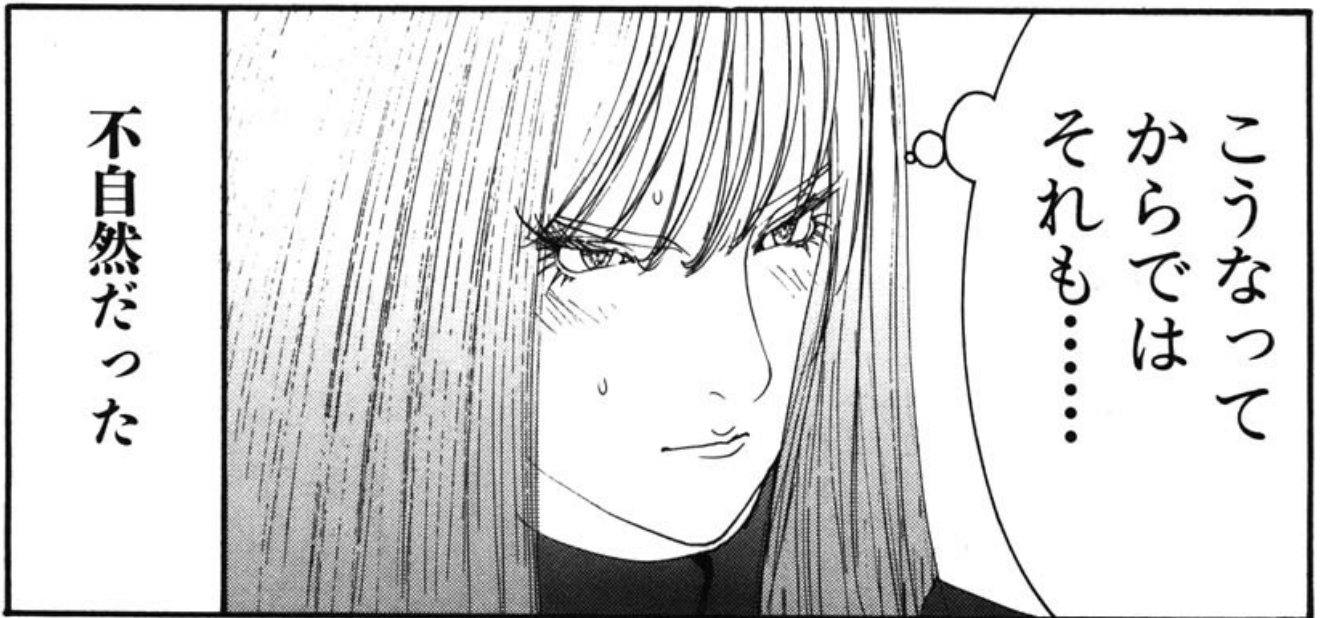
ウィリアムと



と
思い直した

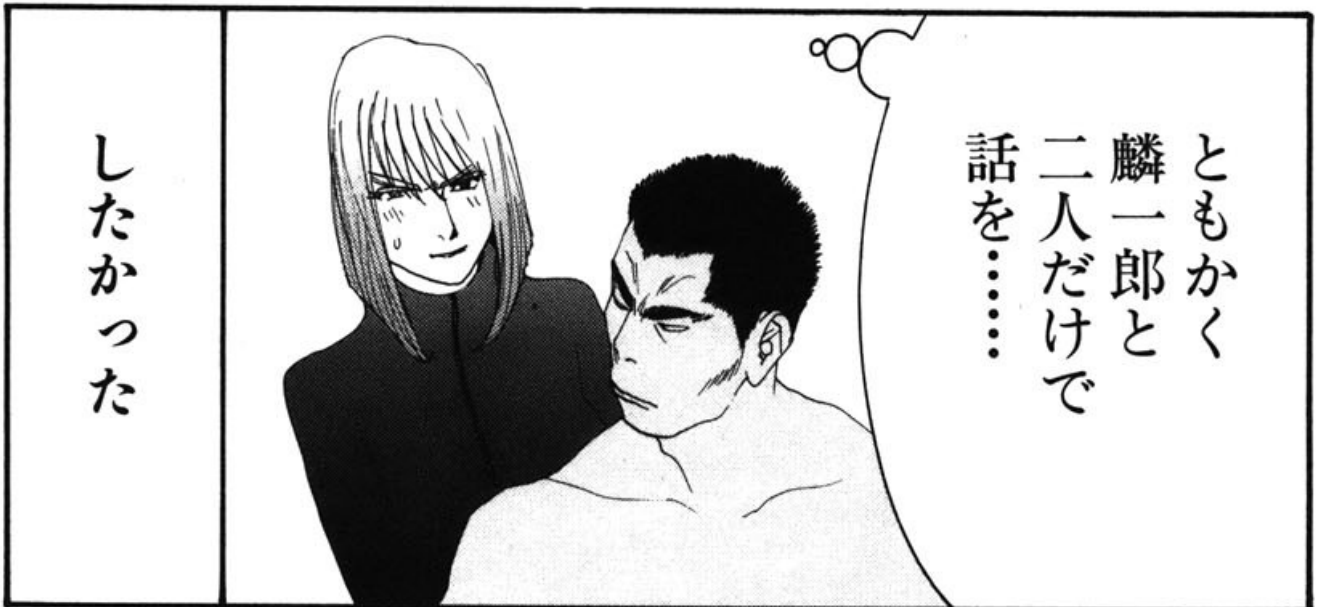


……では
ウィリアムに
部屋へやから
出てもらうか?



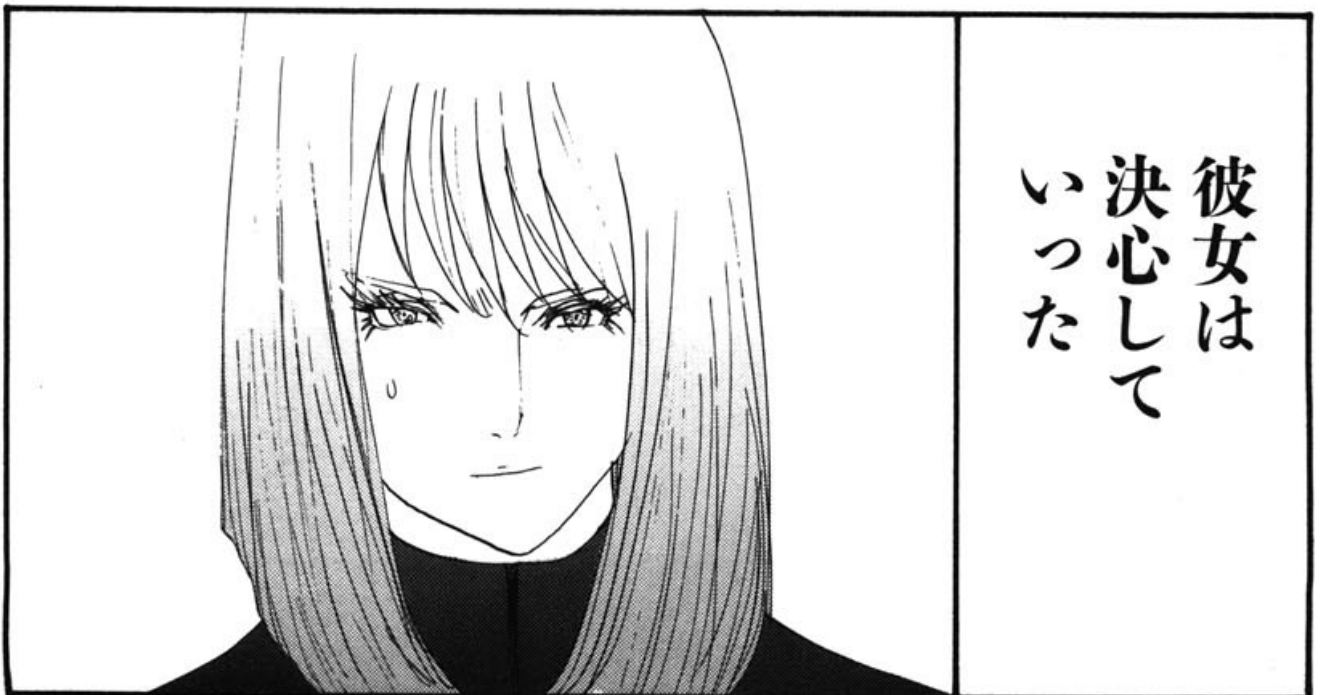
こうなつて
からでは
それも……

不自然だった



ともかく
麟一郎と
二人だけで
話を……

したかった



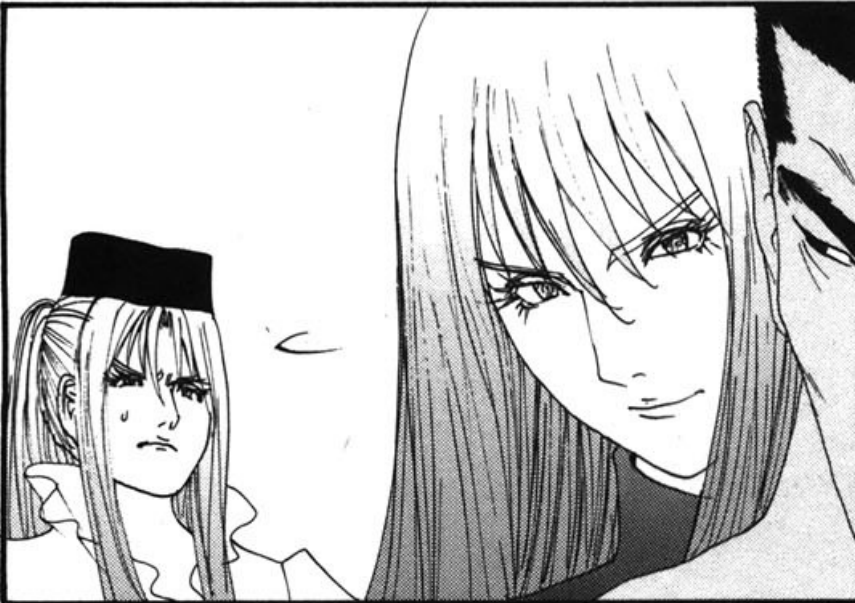
彼女は
決心して
いった

となり
隣室で
彼と話し合って
みたいの

お待ち下さるなり
お引き取りいただくなり
どちらでも……

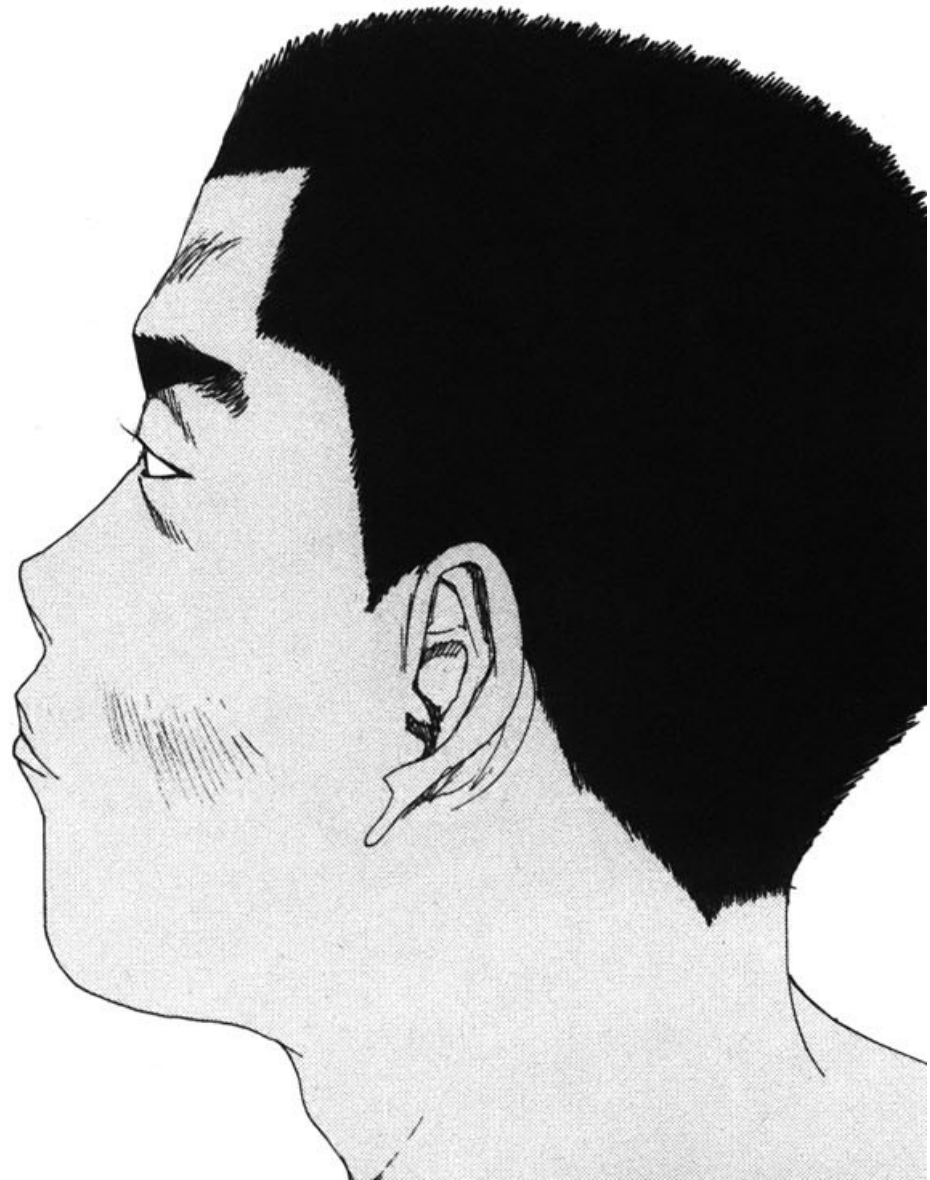


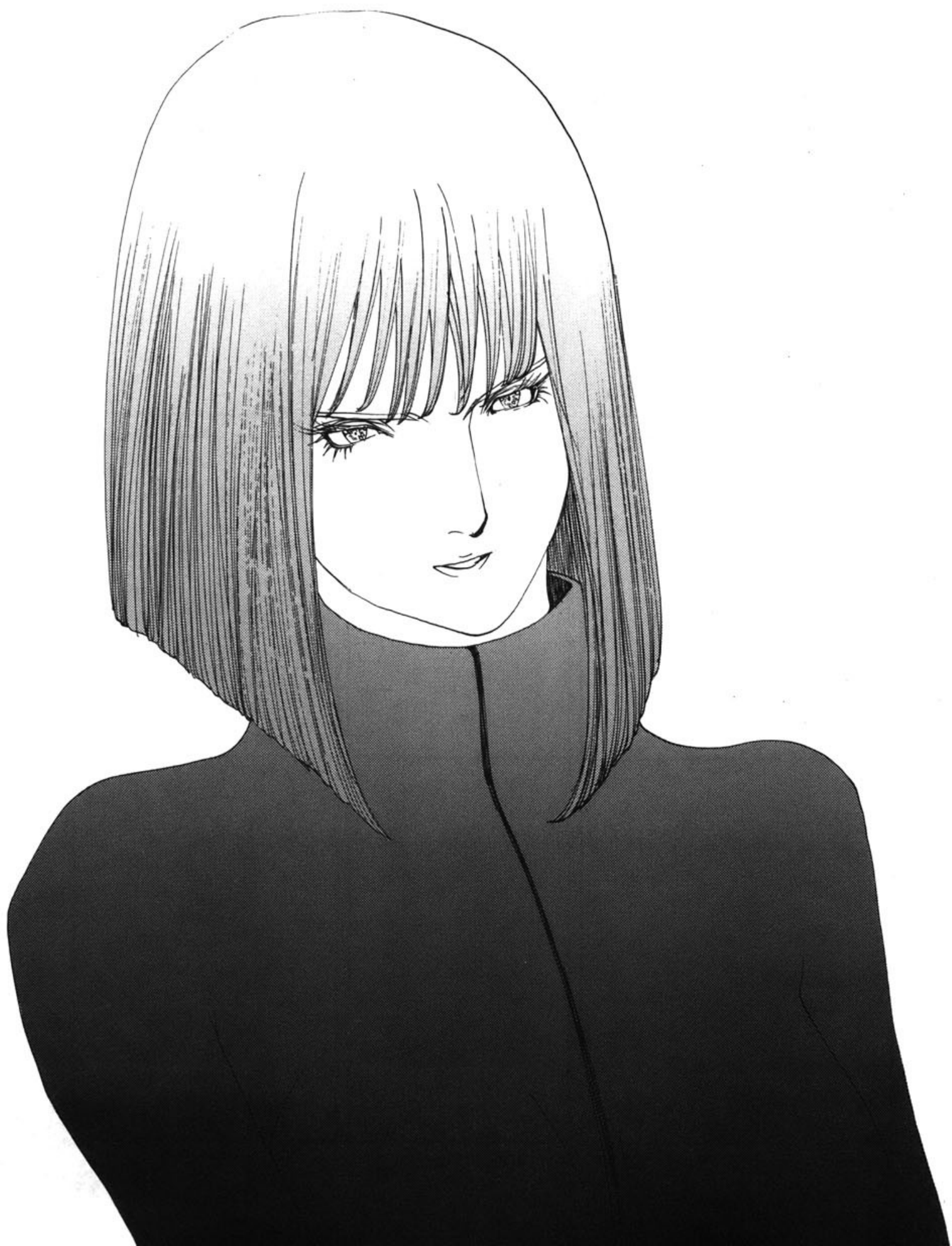
そして
隣一郎を
顧みては
わざと英語で
命令した





**Come along
Rin!**





「このちいさいらしい
隣！」

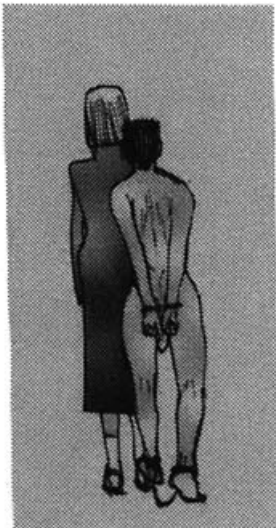
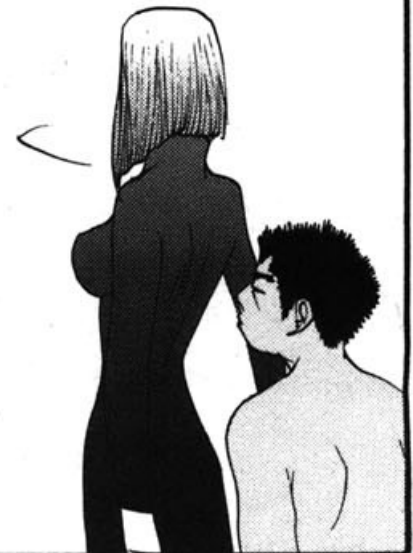


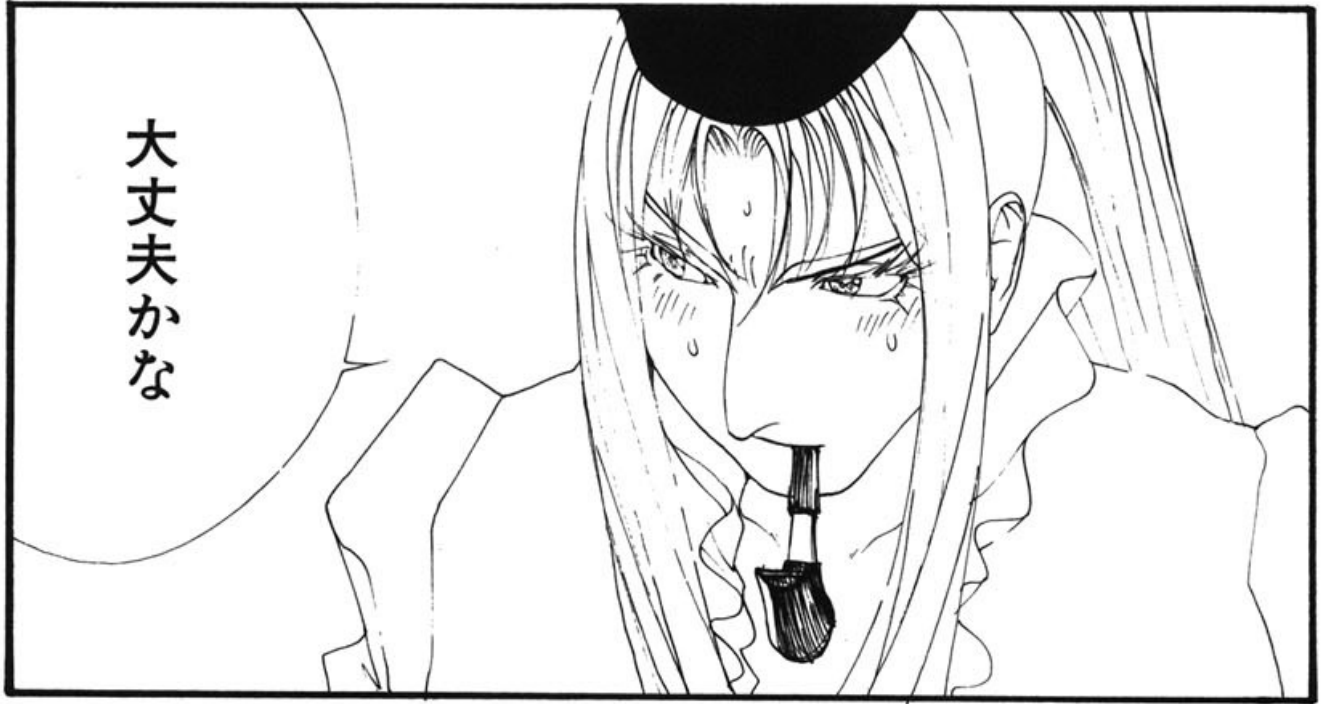
あるいは
「ついでにおいでリン」と
訳したほうが
この場合クララの意図した
語感により近いかもしれない

オート・チェア
自動椅子を
使うのも忘れて

隣室に
消えた
クララの背後に

後ろ手錠から
引鎖をぶら下げ
足錠に
歩き悩みながら
隣一郎が続いた





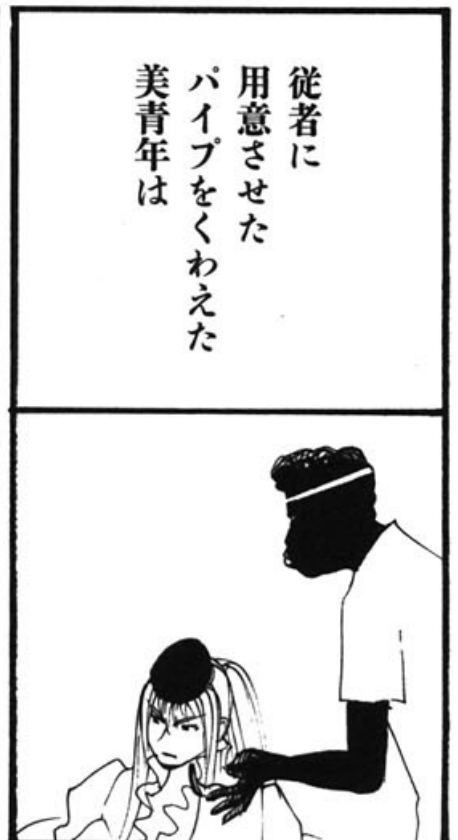
大丈夫かな



うん
奴^{あれ}はもともとは
よく馴^なれてたから



手^て真^ま似^ねて
彼^からを
追^おい出^だしながら
つ^つぶやいた



従^じ者に
用^{よう}意^いさせた
パイ^{パイ}プ^プをくわえた
美^み青^{せい}年^{ねん}は

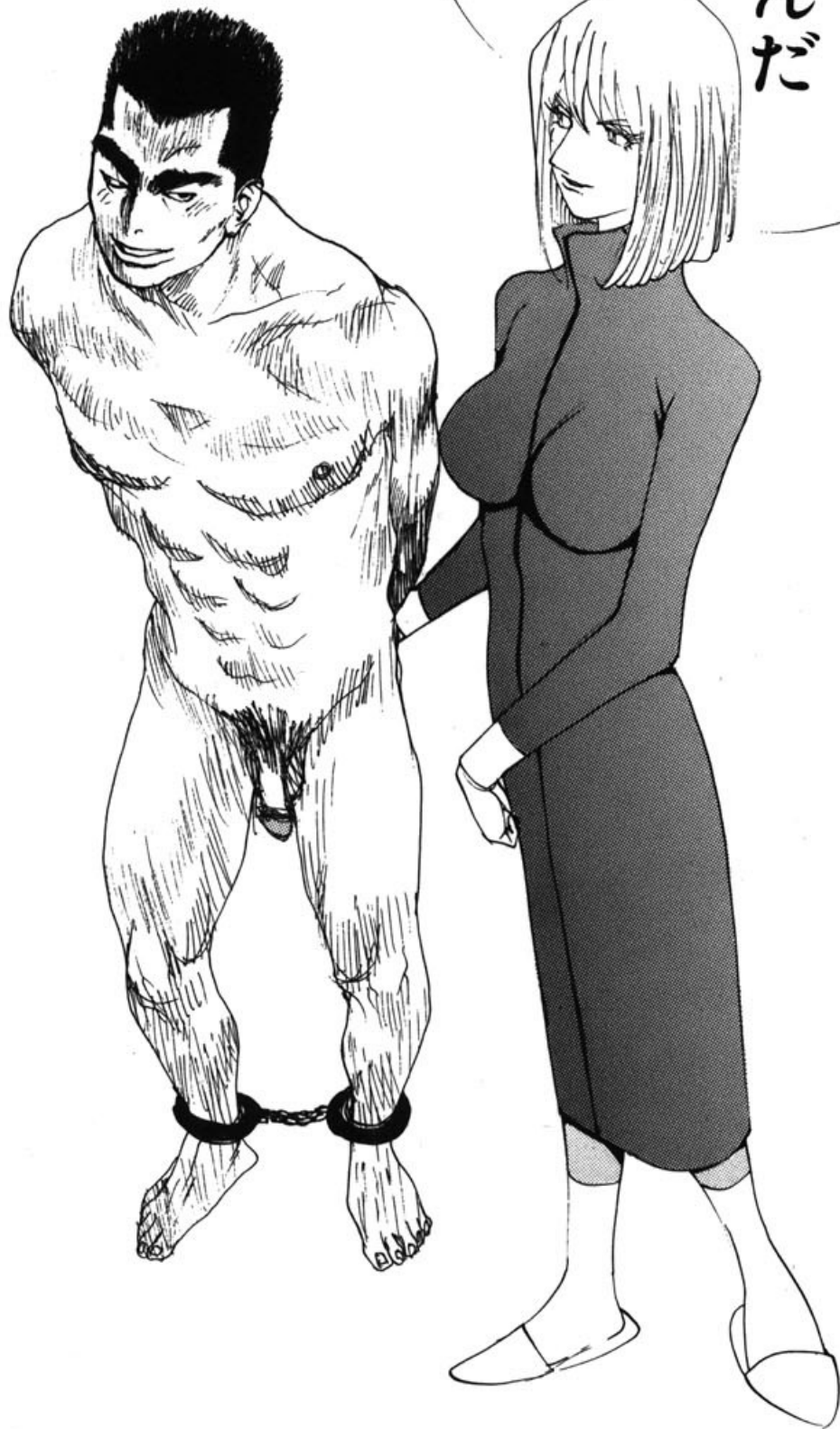


ポー^ポリー^ーン
僕^{ぼく}の心^{こころ}配^{はい}して
いる^いのは
違^{ちが}うんだよ



彼^{かの}女^{にょ}に對^{たい}して
乱^{らん}暴^{ぼう}する^{こと}は
決^{けつ}してない^と
思^{おも}うわ

……僕
知ってるんだ
真相を




第十三章 美女と野獣 — 第三話 —


あのヤプーは
馴れてた
どころか

彼女の婚約者
なんだね







まあ
彼女が
打ち明けたの？



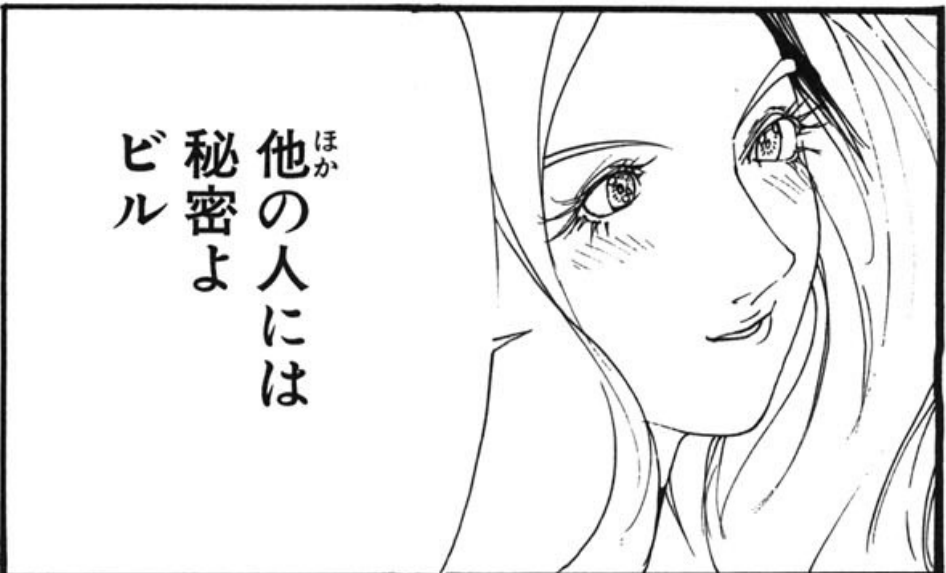
僕のほうが
嗅ぎつけたんだ
彼女が
旧世界の人に
違いないってね



……そうお
いずれはわかる
とは思ってたけど
……



それは
大丈夫だが
……
心配だな



ほか
他の人には
秘密よ
ビル

何が……？

ポーリーンは
高笑いした

ホホホホ……

……
寝室に
はいつて

ばかな
いくら何でも

……
彼女に対して
失礼だわ

でも初め
手錠を
はずそうと
してただろ？

考えても
ごらんなきい
そんな気があれば
人の前で
寝室にはいれて？

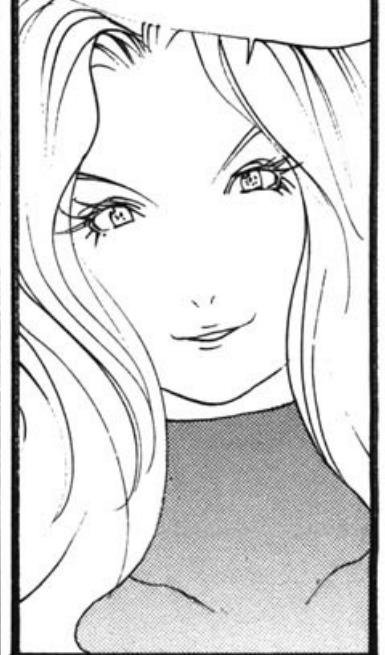
そりゃ
ヨット
円盤の中では
ファイアンセ
本気に婚約者扱い
してるよう
だったわ

でも
今はもう
違うはずよ

そういわれれば
そうかな

だからこそ
平気で寝室に
連れ込めたのよ

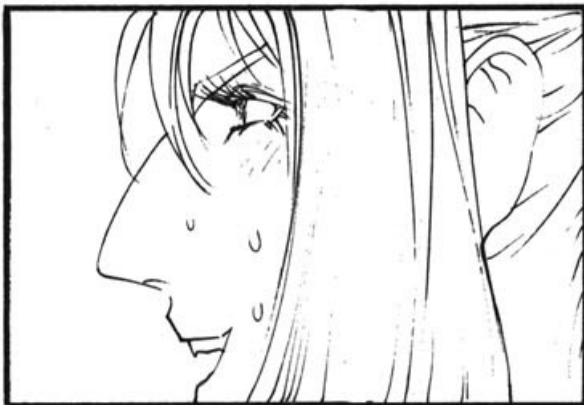
古代語を
聞かれたたく
なかつたからじゃ
ないかしら



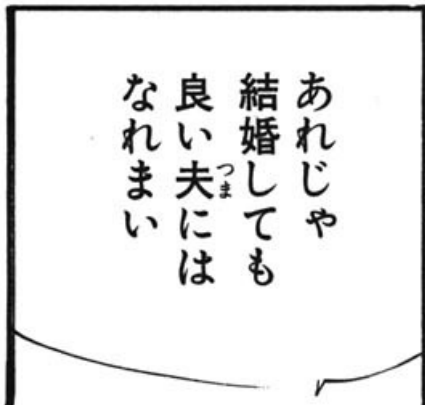


好きだ
一目見たときから
.....

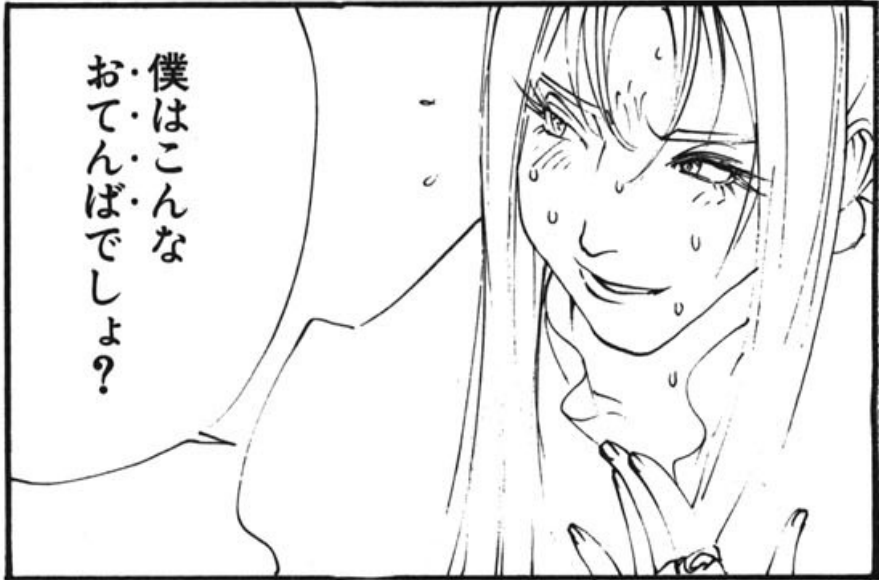
ツキツキ
ツキツキ
ツキツキ
ツキツキ



青年は
急に雄弁に
なった

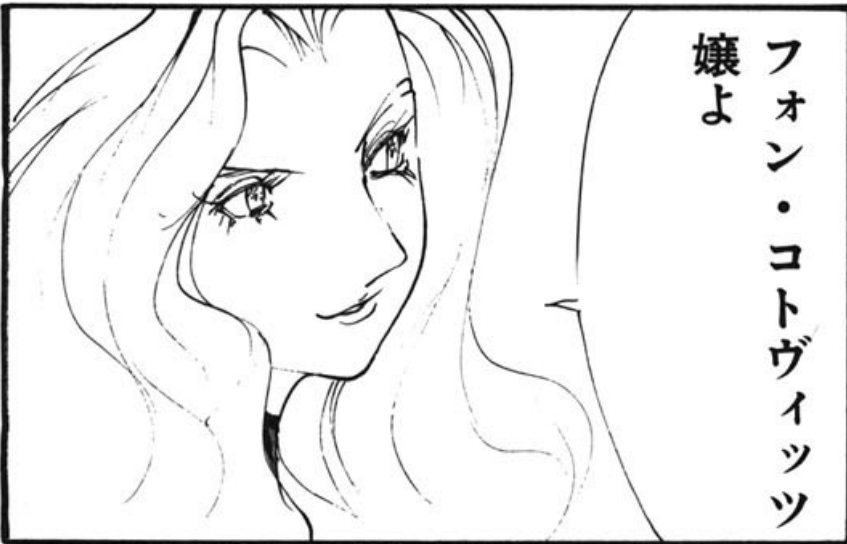
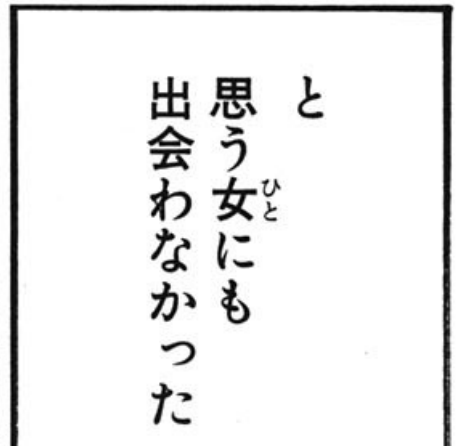
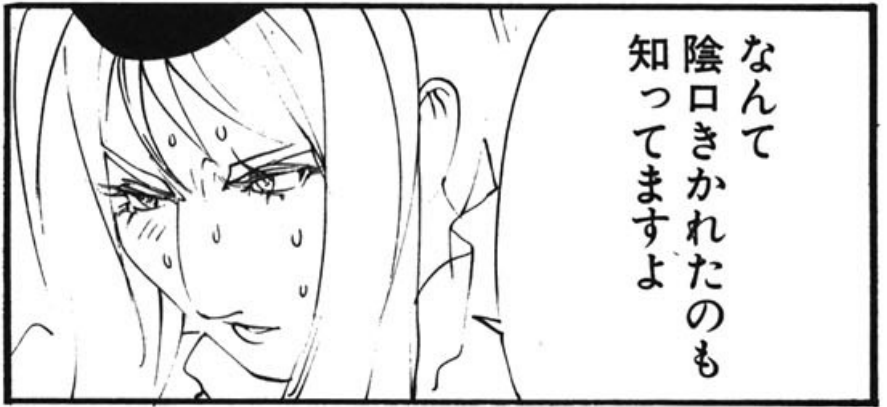


あれじゃ
結婚しても
良い夫には
なれまい



僕はこんな
おてんばでしょ？






フォン・コトヴィッツ嬢は
違うんだ
前史時代の女性は
みんなあんなに
しとやかなのかな

とても
内気なところが
あって……


そう
妾^{めかけ}たちより
遠慮深いわね
男みたい

そうなんだ
さつきも
僕に会ってから
あのヤプーに対する
気持が変わったって
いったけど


きつと
遠まわしに
僕が嫌^{きら}いじゃない
ってことを表現
したんだと思う




普通の女性の
ズバリとした
求婚とは違うよ



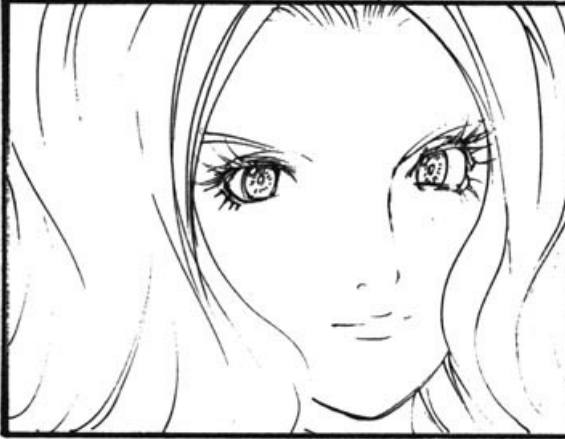
お・て・ん・ば・の
貴方には……




……
似合いの
おと
妻だろうと
思うのさ



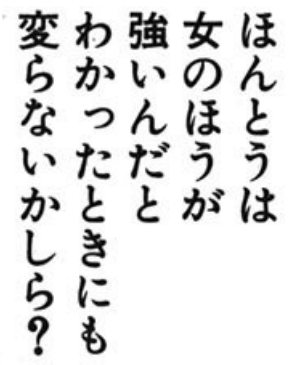
なるほど
貴方が
彼女に惹かれた
気持もわかるけど




ポーリーンは
考えぶかそうに
いった



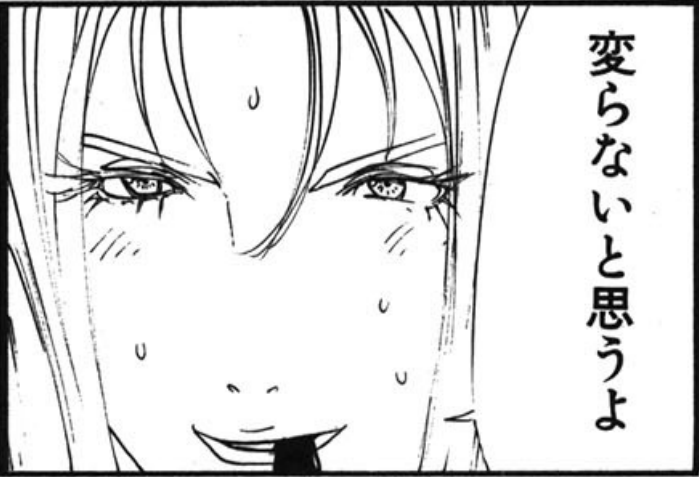
クララは
いつまでも
そんなままかしら？



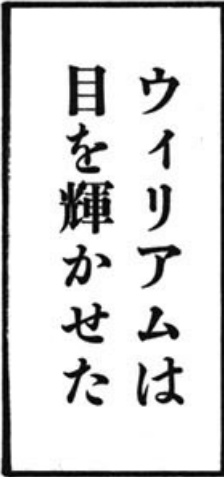
ほんとうは
女のほうが
強いんだと
わかったときにも
変わらないかしら？



彼女は
まだ何も
知らないんだから
……



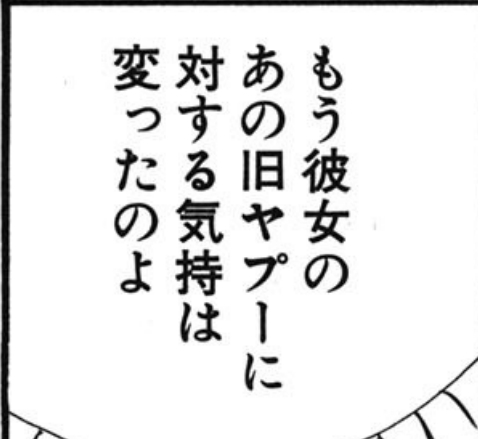
変わらないと思うよ




ウイリアムは
目を輝かせた



前史時代人
だもの



もう彼女の
あの旧ヤプーに
対する気持は
変わったのよ



でも
ヤプーが
どんなものかを
ちよつと
知っただけでも

男が
どんなものか



貴方に
対する気持も
変らない
とは
いえないわ

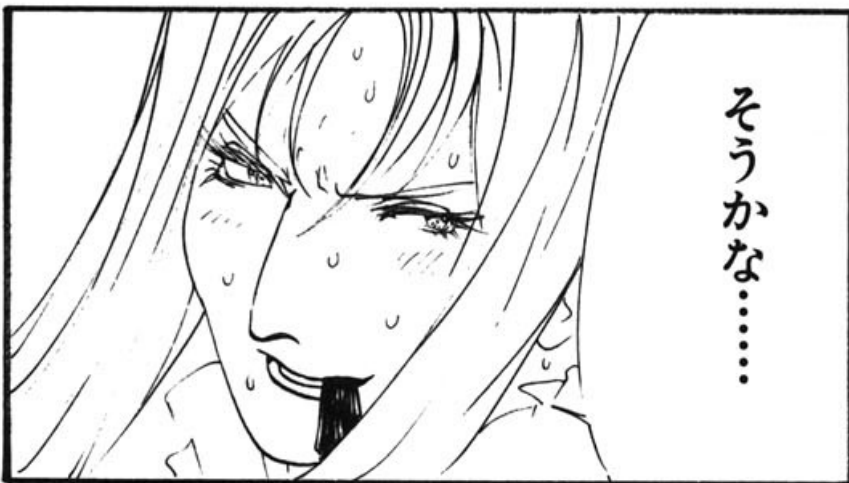


それを
知ったときに
ビル

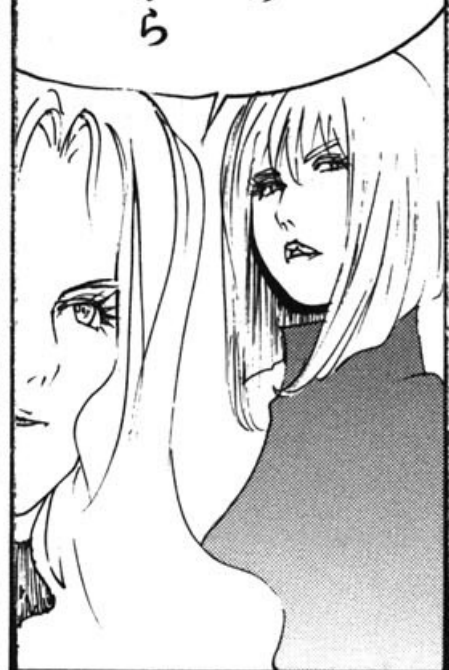


とにかく
彼女はまだ
妻たちの世界の
ことは何にも
知らないんだから
……

そうかな……



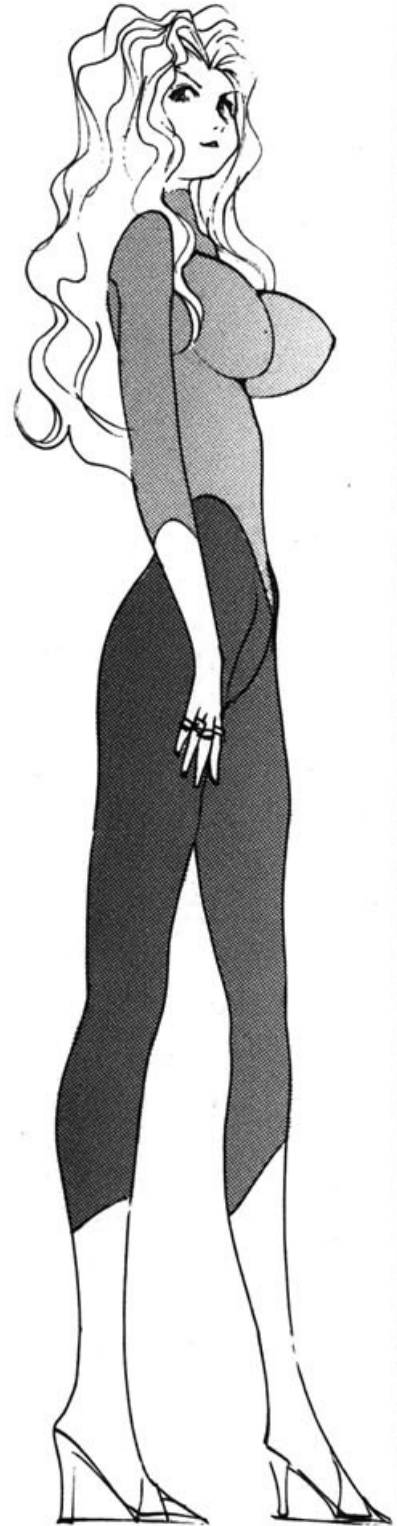
あまり
歓迎もできないことを
ズケズケいわれて



ウイリアムは
黙って考え込んで
しまった



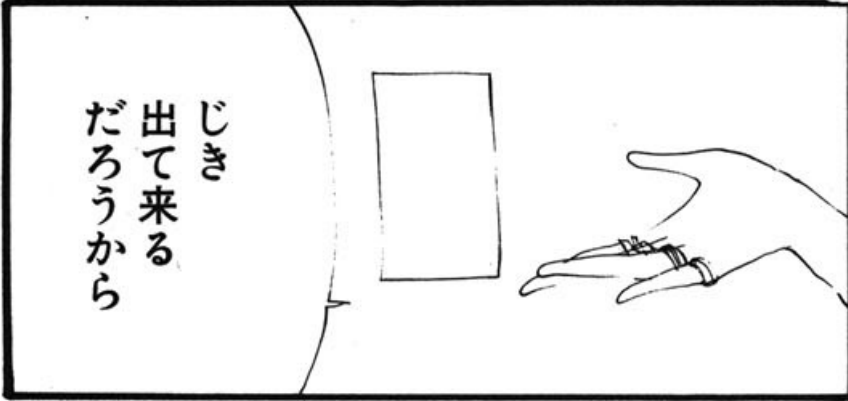
ポーリーンは
立ち上りながら
いった



ま
貴方はここで
待ってたほうが
よさそうね



じき
出て来る
だろうから



それから
あのヤプーを
どうするか
相談にのって
あげるといいわ



……妾^{めかけ}
打合せが
残ってるの





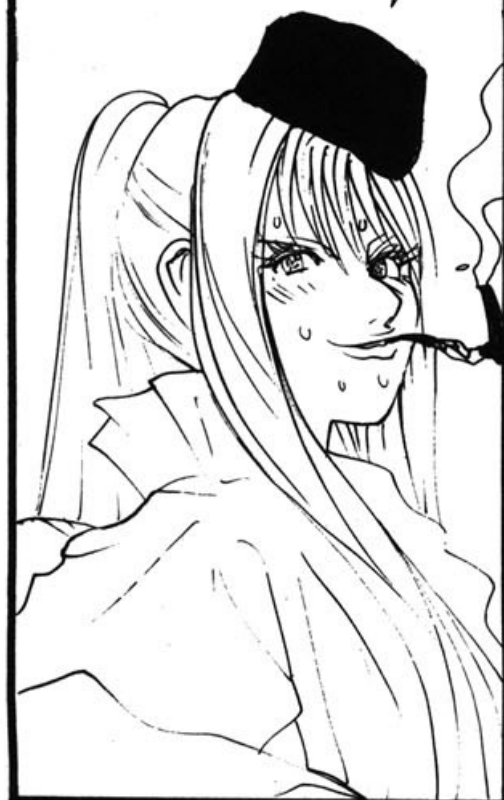
あす
明日
『タカラマハン』に
エクスガバナ・オブ・アジアス
前地球都督を
訪問する予定よ

ちよつとそつちを
済ませてくる
それからヤプーを
受け取るわ



エクスガバナ
前都督って
あの探検家の
アンナ・テラスの
こと？

なんだ
ポーリー
今度の休暇旅行は
ヤプム買いが
狙いだっただのか



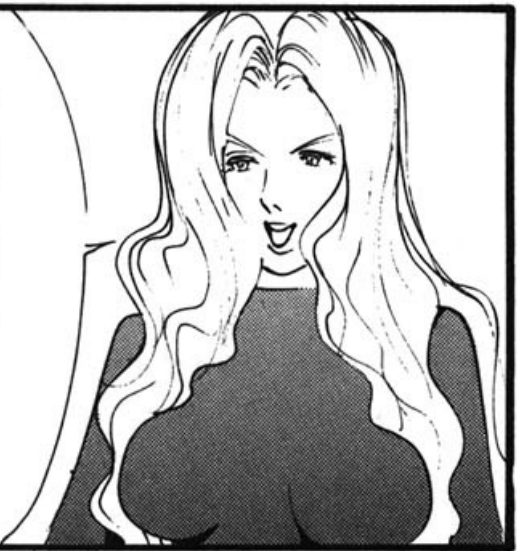
そう
彼女にヤプムの
鑑別法を
教えてもらうことにな
ってるのよ



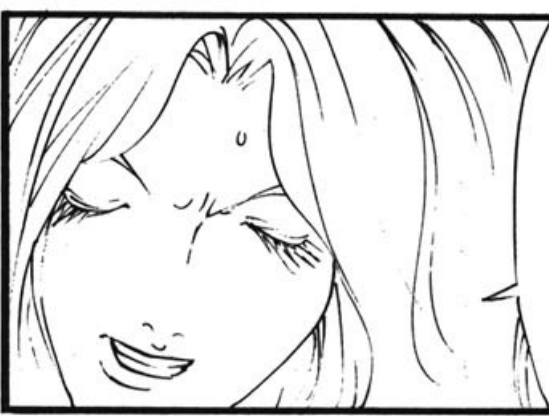
そうなのよ
なにも人に
宣伝することも
ないし



新築別荘の
検分のため
ということに
してあるけど
実はそうなのよ



ソフィアのとときは
いちばん高価い
地球ものを
買ったんだけど



あまり
いい品じゃ
なくてね



ななつき
ななつき
妊娠七月目に
病気されて……



そうだったね

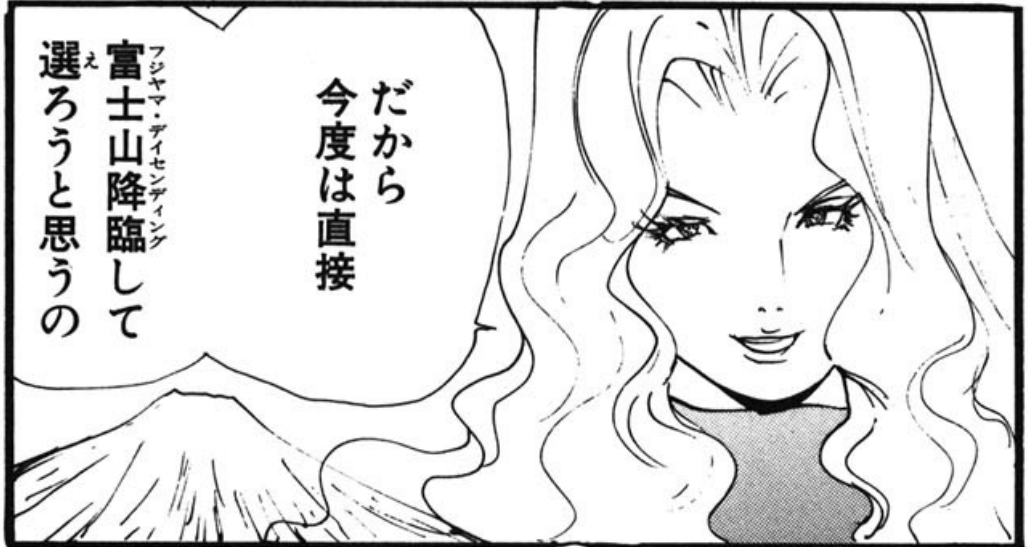


僕も
会ってみたいなア
あの女性には



富士山降臨して
選ろうと思うの

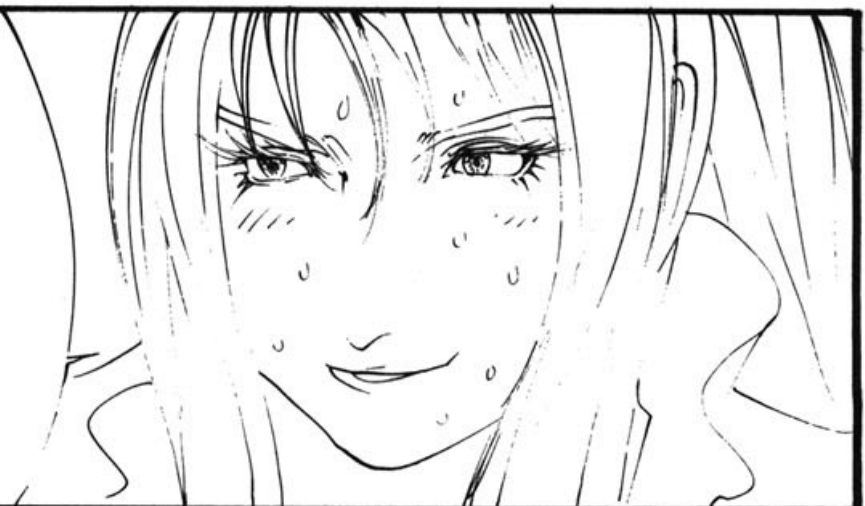
だから
今度は直接



アンナが
案内して
くれるのよ



一昨年出した
『あたし妻たち姉妹は
神話となった』
という本
おもしろかったね
彼女の妹は……



スザンのこと
知りたきや
明日行つて
アンナから
お聞きなさい

心配を
まぎらそうと
してか

じゃ……

ウイリアムは
もつとその話を
したそうだったが

気の急^せいで
ポーリーンは
早々に
出て行ってしまった

ウイリアムは
所在なさそうに

スビツーン
肉痰壺の頭を
パイプでポカリと
たたいたり



寝室の扉が
なかなか
開かないのに
焦慮して
不安に
苛まれてきた

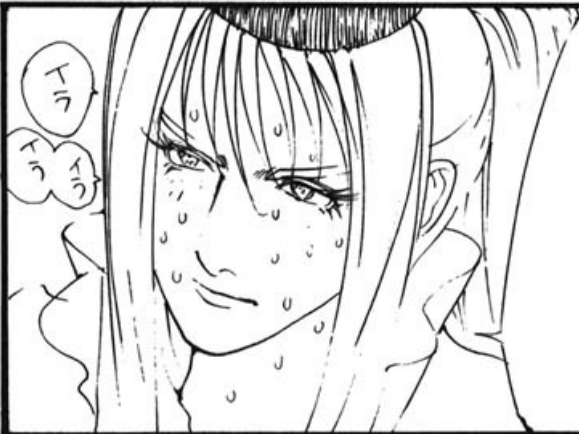


ハキッ!!



スツール
肉足台の顔を
蹴りつけたり
していたが

— いったい
いつまで
話してるんだ
おもしろくもない
……



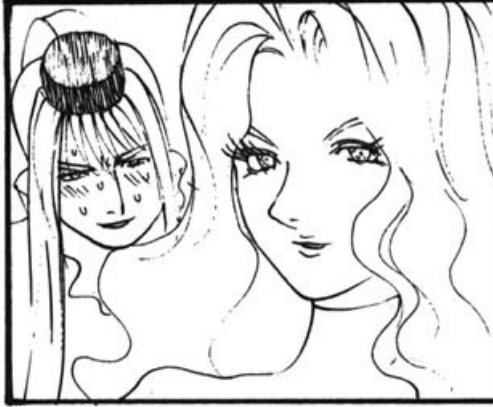
ソーマ



部屋の外に待つ
従者を呼び入れると
一言命令した。



前節の
二人の対話は
解説なしには
理解し難い
（だ）だろう
と思われる



広大な飛行島
（ラビユータ）
「高天原」や
（タカラマハン）



しかし



その主なる
（あるじ）
アンナ・テラス
については

明日
クララがポーリーンと
行を共にするときまで

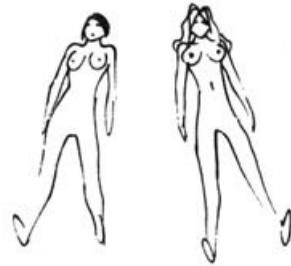


好奇心を
抑えておいて
いただくように
読者にお願



ここで
ヤプムに
ついての
説明を
するだけ
にとどめよう

だが
その前に
「クックリー・オペレーション
敦公手術法」
について
一言するのが
順序のようだ



妊娠初期の胎児を
雌ヤプーの
子宮から



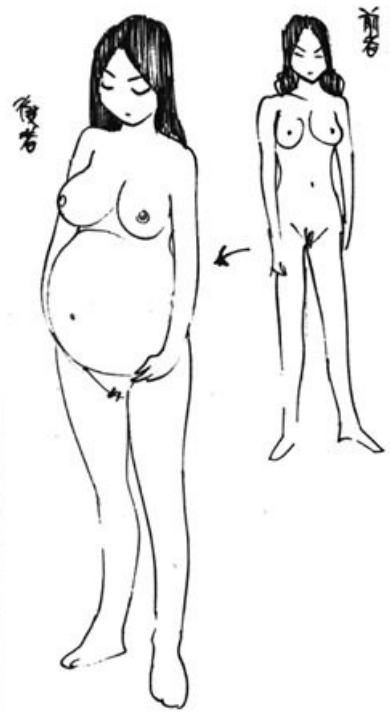
地球紀元で
換算すると
二三世紀中葉の
ことだが



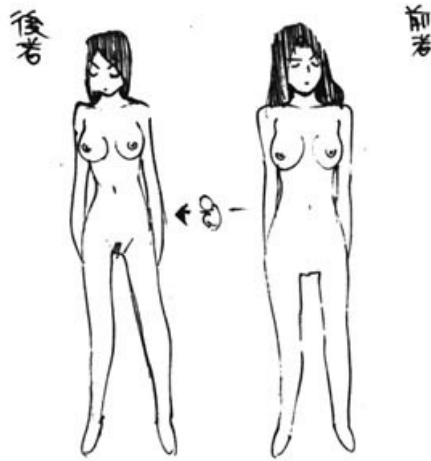
あるヤプリーナリ
畜人飼育所で
胎盤移植に成功した



別の雌ヤブの
子宮に移して
発育出産
させたのである



※ cuckoo operation

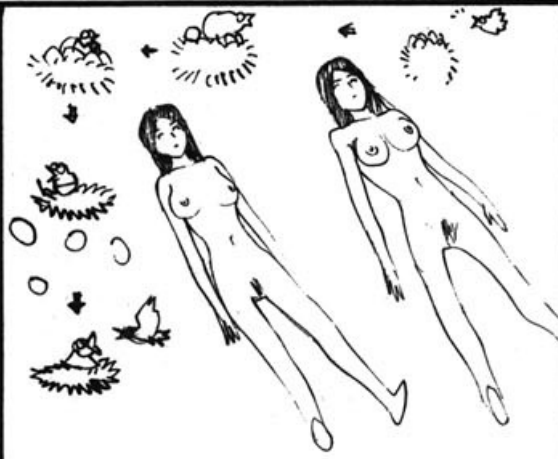


後者は単に
母胎的環境条件として
影響するだけで

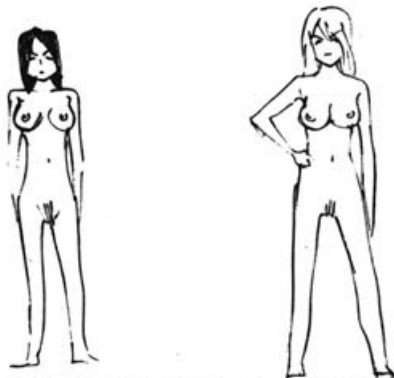
生まれて来る仔は
まったく
前者の遺伝子を
備えているのは
当然のことであった



これが
敦公手術法※ほしこうすうの
名を得た所以ゆえんである



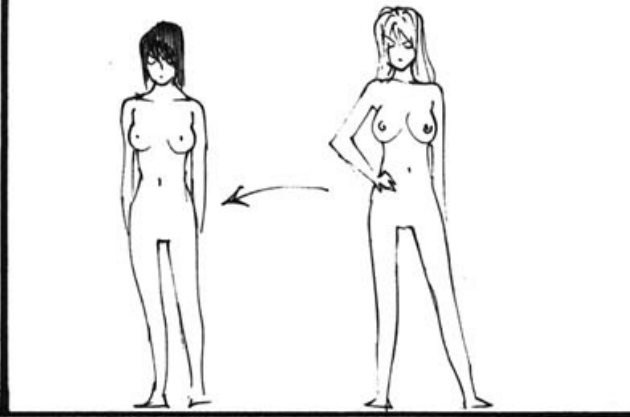
これは
間もなく
人間の女性に
適用されるに
至った



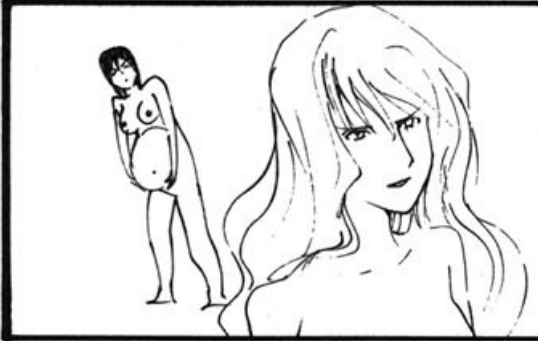
受胎に気づいたら
胎児を
胎盤諸共もろとも
子宮から
取りはずして



以後
出産までの
母体の苦勞を
味わわずに



適当な
雌ヤプーの子宮に
植えれば



自分の子が
得られるのである

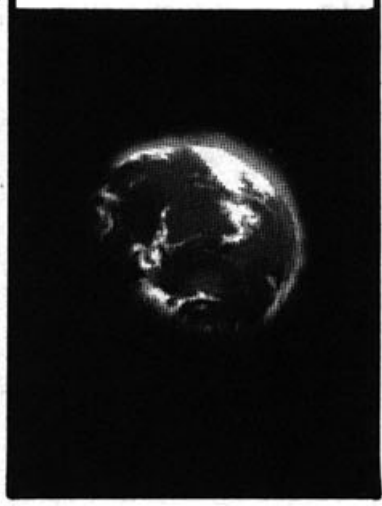


有・史・以・来・
最・大・の・
女・性・の・福・音・

と
喜ばれたのも
無理はない

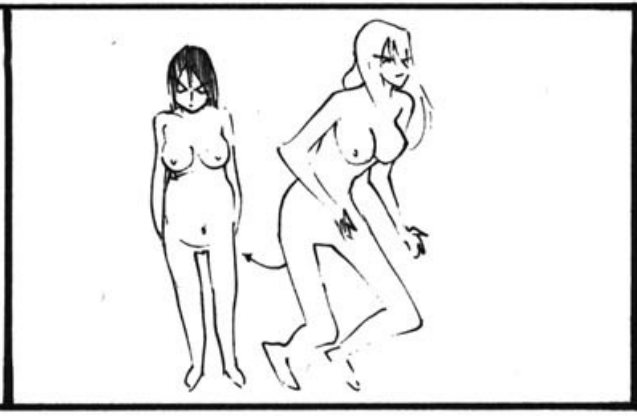


そして事実
二七世紀初頭に起った
女権革命への
物質的基礎を
形造ったのは



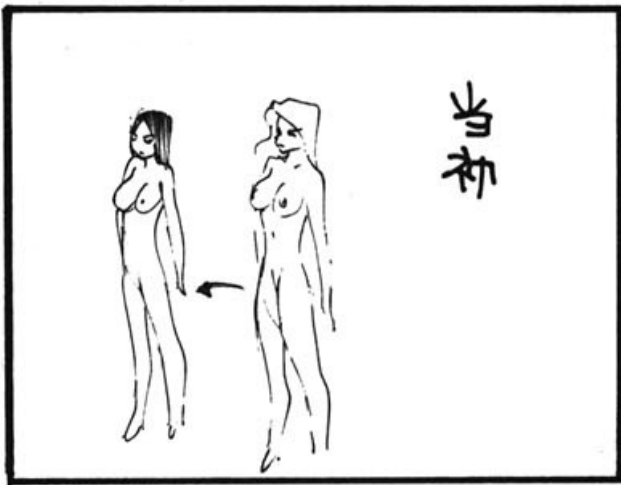
女性が
妊娠・出産という
生理的宿命を
払いのけて
しまったこと
だったのである

この
手術法のおかげで



しかし
発明当初から
比較すると

当初



第一に
白人女性の
母胎から
胎児を取り出す
方法である

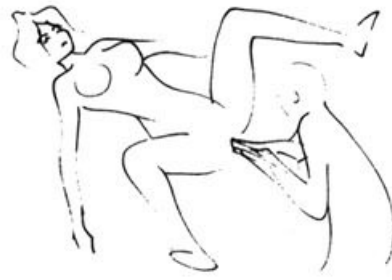


この手術法自体も
その後
大きく進歩した

進歩



掻爬^{そうは}は
危険で
できないから



しかし
いくら外科技法が
進んで無痛手術と
いわれても
帝王切開は
大手術である

初期には
シザリアン・オペ
帝王切開したうえで
取り出した



切開手術の
一時間のほうが
妊娠十カ月の
労苦よりはいい

と
されたのである



以後の妊娠への
影響もあるし
なるべくなら
母胎を傷つけない



あたかも
前世紀から
発達してきた
ヤブー縮小の
技術が



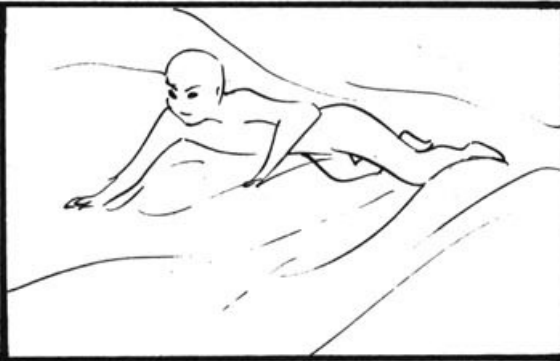
直接
母胎子宮内から
胎児を取りはずして
くることを
可能ならしめるように
なったのだ



黄体形成ホルモンの
検出法の進歩によって
受胎直後に胎盤の形成を
確知し得るようになっ
たことと相まって



現在では
この手術は
妊娠一カ月前後に
行なうべき
こととされ



※
「**肉鉗子**」
として



あらかじめ
子宮内作業を
修得させた
極小畜を
女主人の子宮にまで
もぐって行かせて



まだ
小さな胎児を
胎盤ごと取って
来させるのが
普通の
やり方である

身長三センチ余の
小人の
繊細な手指には

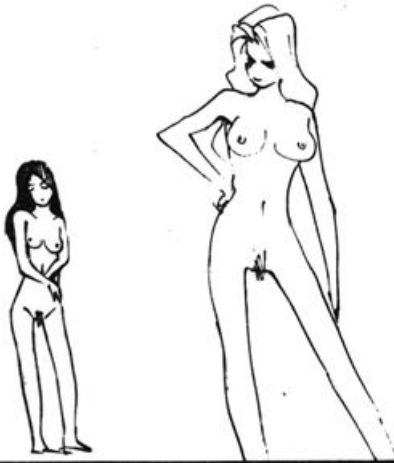


フォーセツプス
金属鉗子では
不可避な
危険が皆無である



第二には
胎児の
発育容器となる
雌ヤプーの側の
問題である

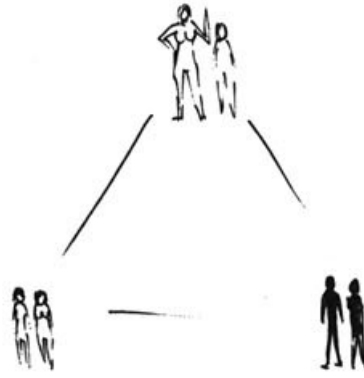
遺伝因子には
影響しないにせよ



母体の環境条件が
胎児にとって
無視できぬ
重要性があることは
いうまでもない



当時はまだ
トリコロール・フッド・チェーンシステム
「三色摂食連鎖機構」
のてきる以前で



エンジン虫の
吸い上げる
栄養液が



ヤプーの栄養が
今日のように
一定しては
いなかっただが



およそ
正常の人士の
口にするを
避けるようなもので
あることは

そのころも
今と
変わりはなかった



そこで

そういう汚れた^{けが}
母胎から
白人の胎児が
栄養を摂取
するのは

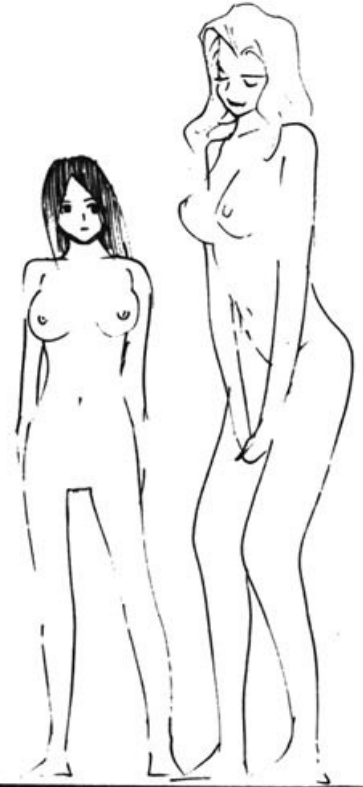
はたして
どうであろうか？

ということが
問題であり



白人女性の
身代りになる
雌ヤプーには

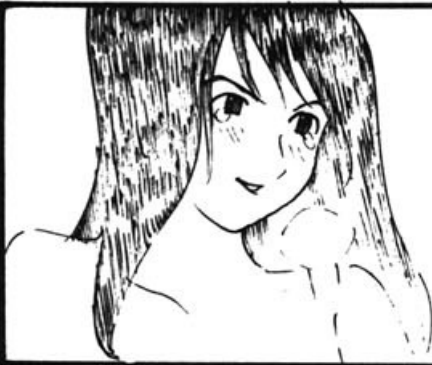
エンジン虫を
寄生させず
人間並の
食生活を許し



ことにいよいよ
「神の胤^{たね}」を
宿して後は



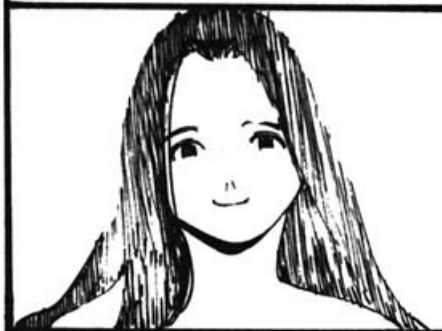
白人とほとんど
同じ高さにまで
食生活を
向上させてやる



一つには
それがヤプーの
精神を明るくして
胎教的にも
好影響が
あるからだが

という形で
この問題への
解答が与えられた

だが
まだ難点は
残った



いやしくも
人間の赤ん坊が



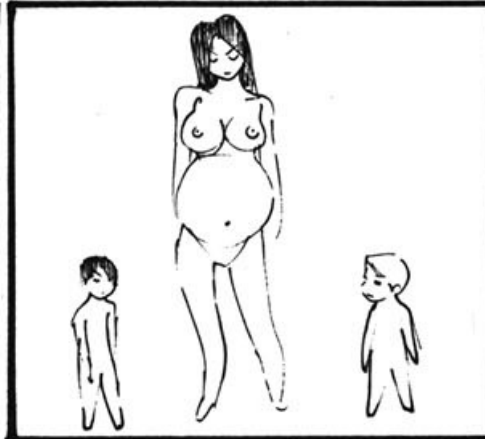
畜生たる
ヤプーの股またから
生れる
などとは
とんでもない



という
もつともなる
違和感である



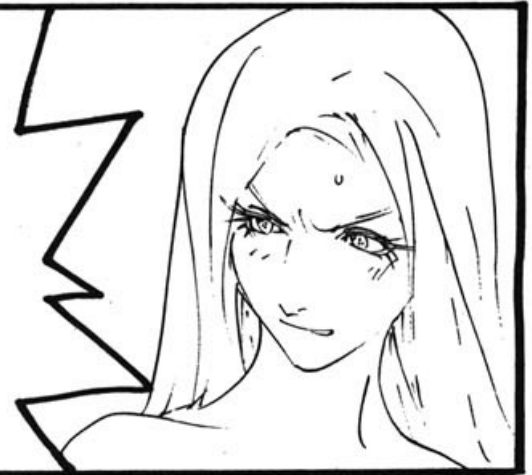
さらには
ヤプーの仔を宿す
同じ子宮に
はいつて育つのでは



という
当然の
感情論である



まるで
ヤプーたちと
姉妹・兄弟同然に
なるではないか



処女の雌を
特に選んで
「神の胤」を
受胎させ
月満ち分^{ぶん}娩^{べん}が始まる

その第一期



すなわち
陣痛を感じたら

すぐに
帝王切開して



胎児が
膣^{ちう}を通過しないうちに
分^{ぶん}娩^{べん}させる



という方法が
とられたのは
こういう感情問題に
解答を与えるため
であった

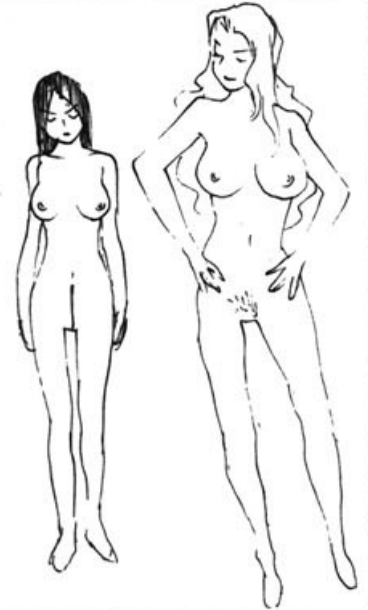


同じ帝王切開でも
白人母胎の
場合と異なり

畜体のほうは



「生きた容器」



つまりは
道具なので



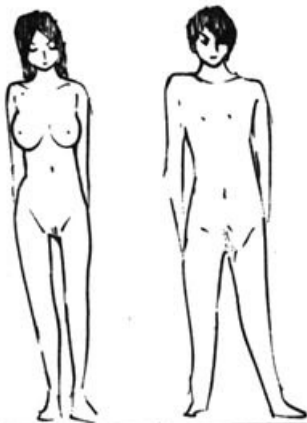
安全配慮の
問題は生じない

胎児の安全さえ
保障されれば
いいのだ



ヤプーの
雄と雌とは
職能を分化し

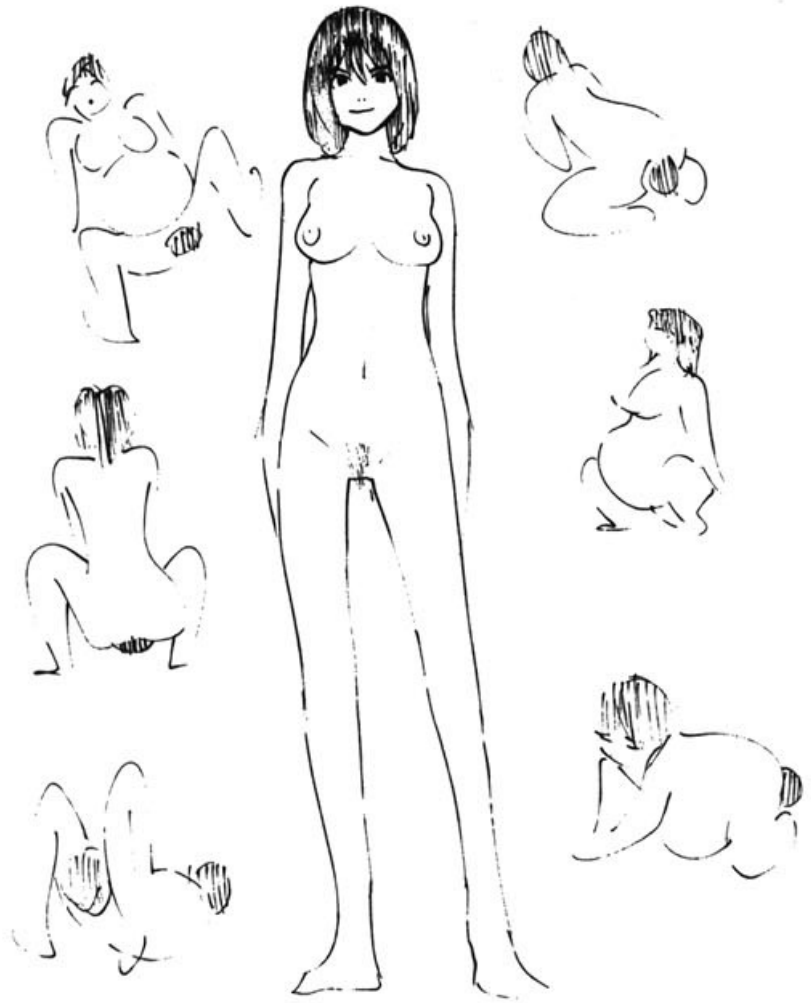
イース文明の
発展に伴い



人間の使役に応ずる
生きた道具としては
もっぱら雄が用いられ



雌はその道具を生産する
機械として存在価値を
認められるようになってきた

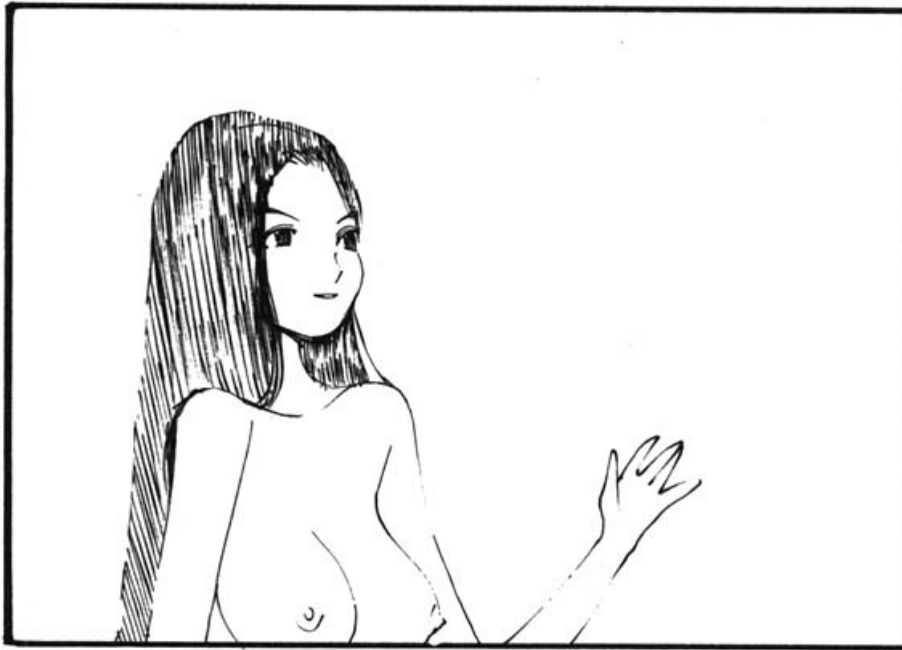


この雌たちのほかに
数でこそ少ないが



ヤプーを生産する代りに
「神の御子^{みこ}」の
成育容器たるを任務とし





そのための
教育を受ける
専門の雌が
現われるに
至ったのは

「敦公手術法」の
進歩に照応するもの
だったということが
できよう

これが
ヤプムである

「神の御子」を



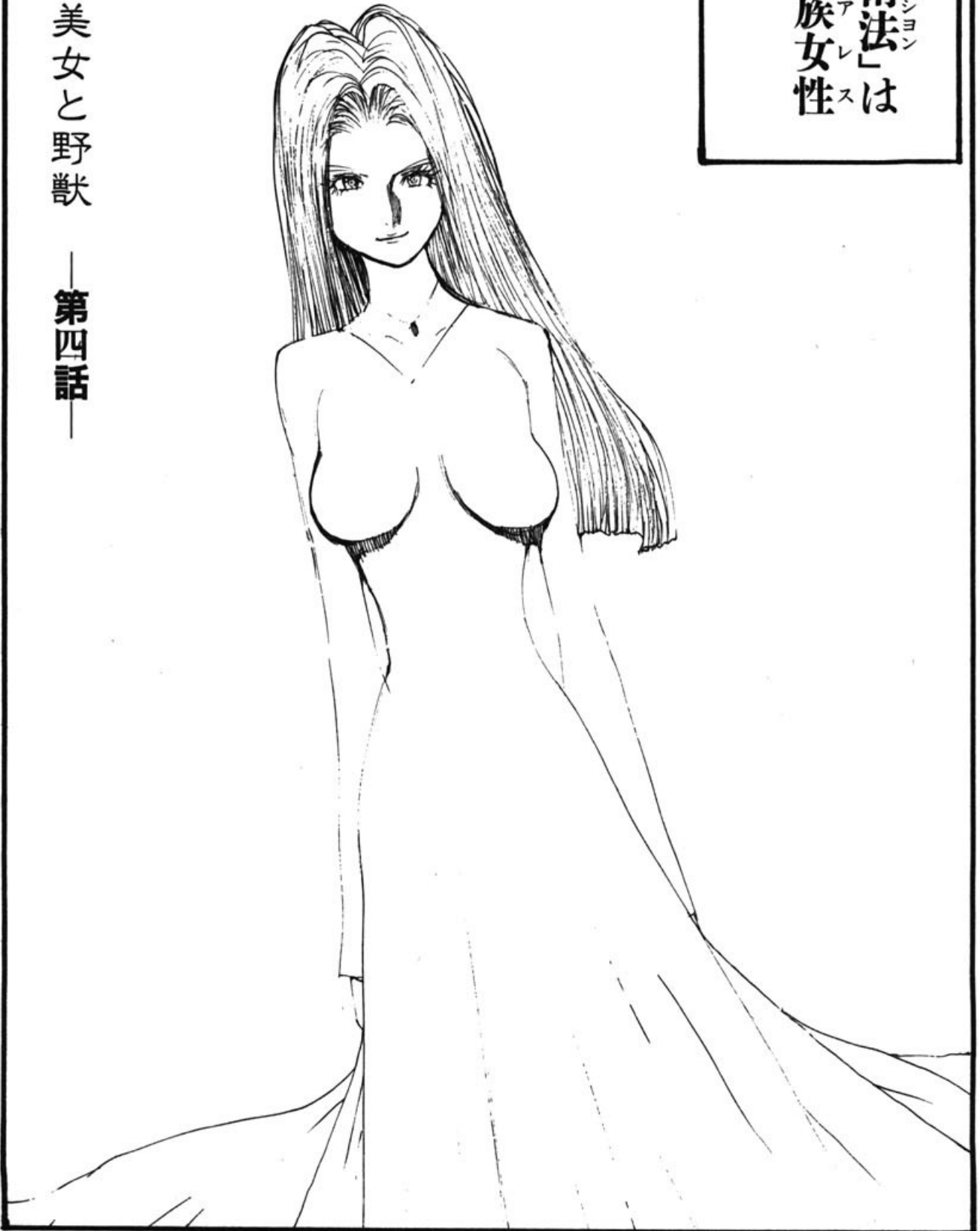
家畜が宿す世界……。

イース

クックー・オペレーシヨン
「敦公手術法」は
初めは貴族女性

第十三章 美女と野獣

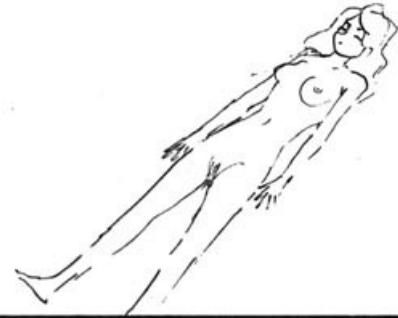
第四話



当時は
女権革命以前
である



—の
専有物だった



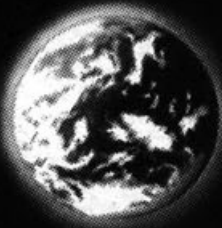
むしろ
この手術法が
平民に
普及して後に

そのゆえにこそ
革命となった
のである

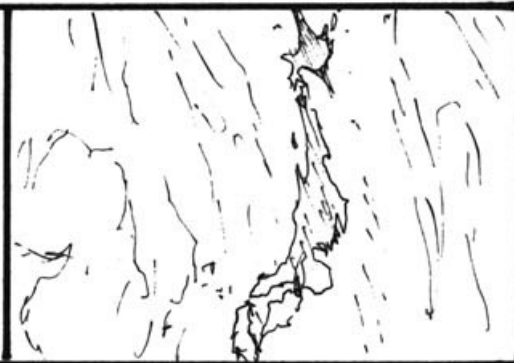


彼女らは
必要に
応じて

地球の



ヤプン諸島に
出かけて行った



※ 土着ヤブーがイース世界に
はいること

読者もすでに
ご承知のとおり



※
昇天後も
エンジン虫を
の
吞まさずにおけば
よいのである



土着ヤブーは
人間的衣食住生活を
享有しているから



※
その雌の
「子宮」を
利用することは
その限りにおいては
不潔感はない

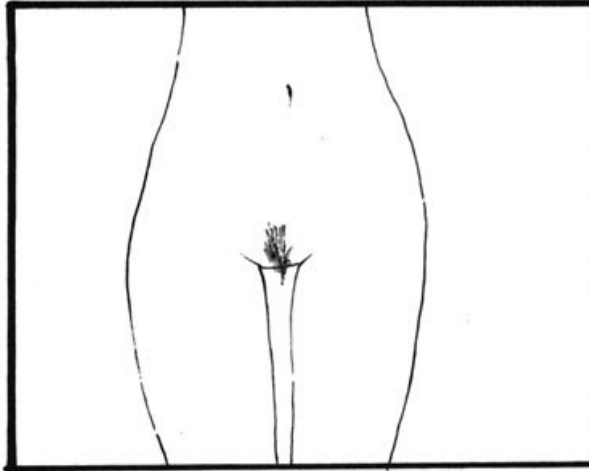


※ Womb

もちろん
処女でなければ
ならない



骨盤は
広く丈夫で
胎児を
充分發育させるように
ありたい



腰部以外は
華奢な難産型の
体格が好ましい



しかし
あまりお産が軽くて
帝王切開手術の前に
胎児が膣を通過しては
困るから



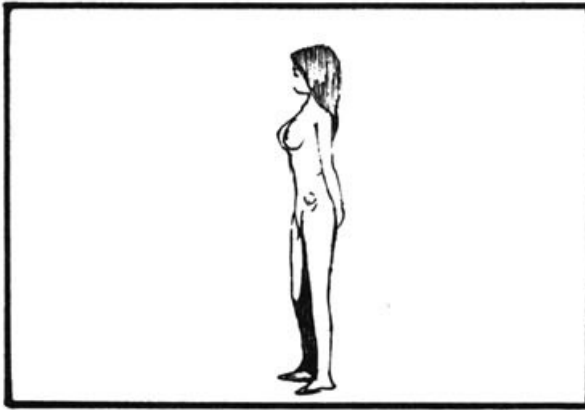
容貌・知能・血統も
優秀なのに
こしたことはない



ヒアレス
貴族女性たちは
その中から
右の諸条件にかなった
好みの一匹を
選び出せば
よかつたのだ

昇天したい雌は
無数にいるので



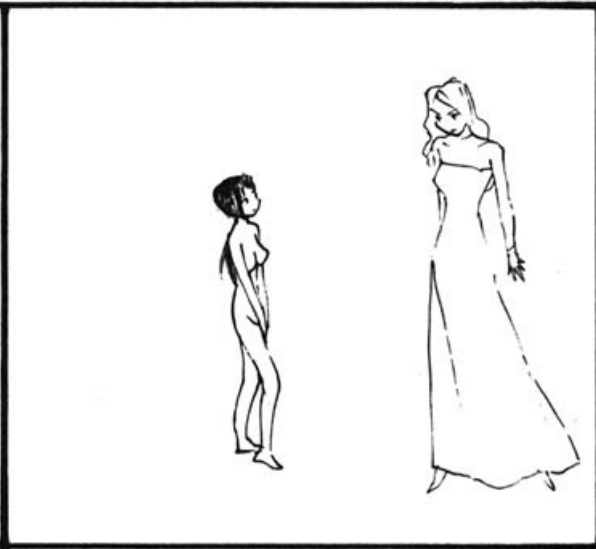


※ヤプー・ウーム
子宮畜
の意である

こうして
選び出した雌を
貴族女性は
※ピアレス
ヤプムと称んだ

※ yapoo + womb

そのうち
平民女性も
貴婦人^{レディ}を真似して
ヤプムを使う
ようになり

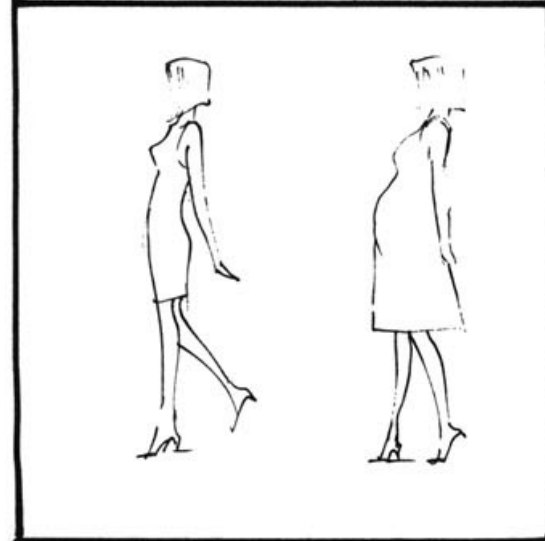


※ yapomb

——からは
下腹を
つきだして歩く
孕み女の^{はら}
みつともない姿は
一掃されてしまう
ことになった



以後
イース白人社会



厳密には
白人居住星



しかし
そうなると
ヤプン諸島の
ヤプーだけでは
需要を満たし
きれなくなった

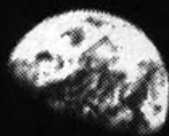
貴婦人たちは
特権を維持
するために



平民用の
ヤプム専門の
大飼育所を
興した



これが
シリウス圏
第五惑星なる
アマゾン星にある
「女護島」である

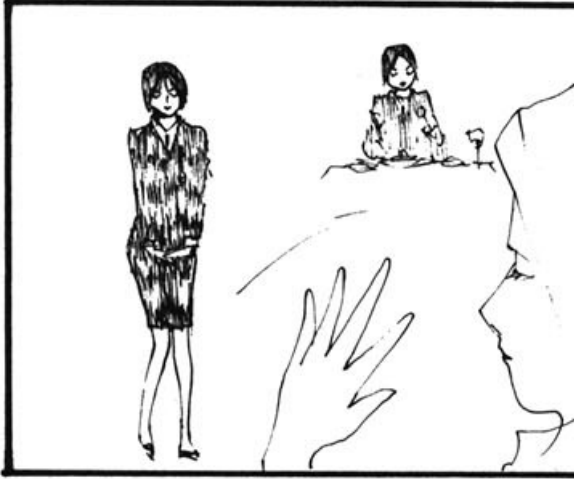


ここには
地球のヤプン諸島から
移住させられた
標準型のヤプムが

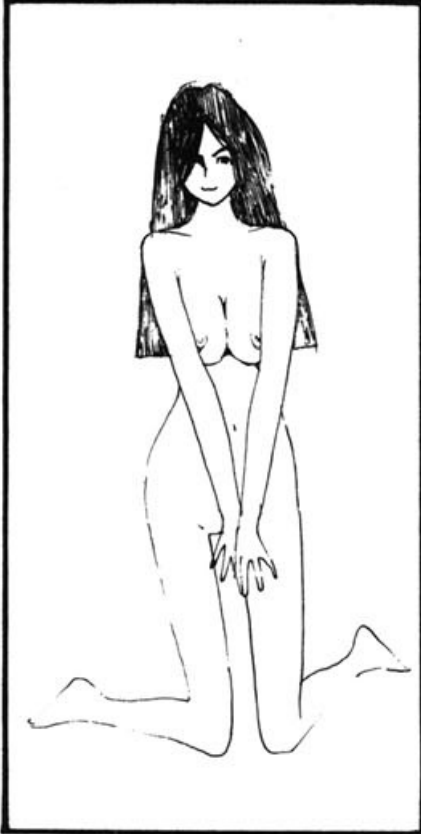
ウエイジンパリス
処女生殖によって
繁殖させられていた



ヤプムは
食生活は特別でも
衣生活は
一般ヤプーと同じで



ここで育って
十八歳になった
処女が



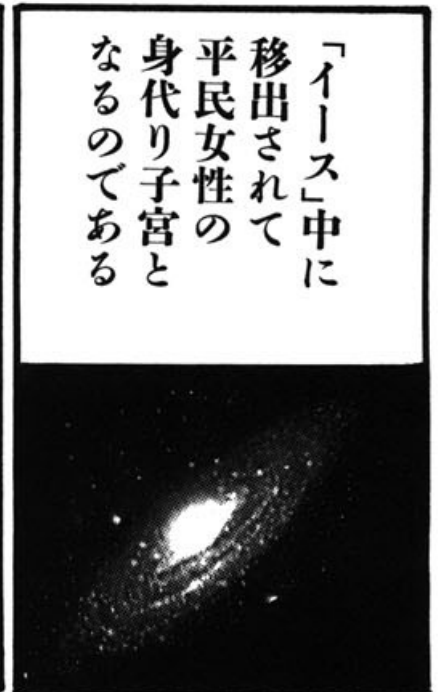
デルマタイジング
皮膚強化処置を
受けているのだから
島の全住民が全裸である

「イース」中に
移出されて
平民女性の
身代り子宮と
なるのである

貴婦人たちはこれを

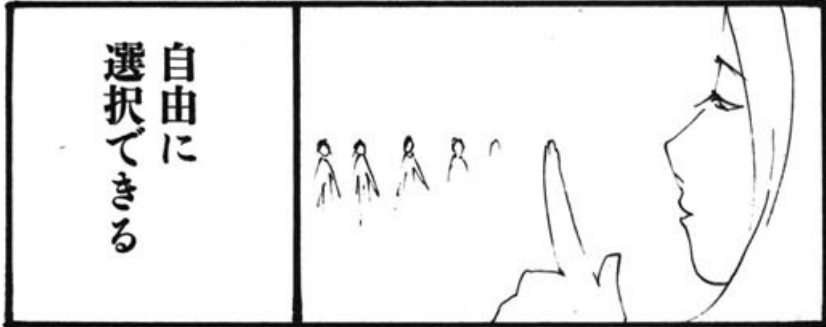
「アマゾン物」
もの

として軽蔑する
けいべつ

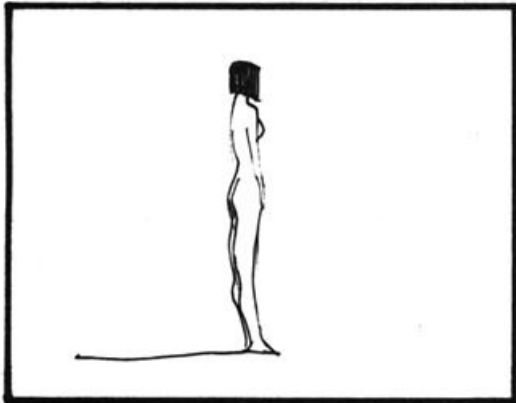




平民たちの
需要を排除すれば
必要数も
少なくなるから

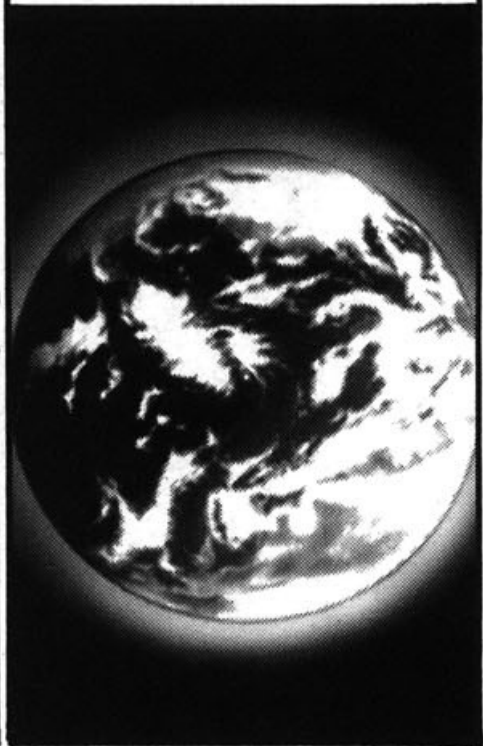


自由に
選択できる



そのための
大規模な組織が
いわゆる
処女検査制度ヴァージン・エクザムであつて

彼女たちは
直接
「地球物」
を使用する
特権があるのだ



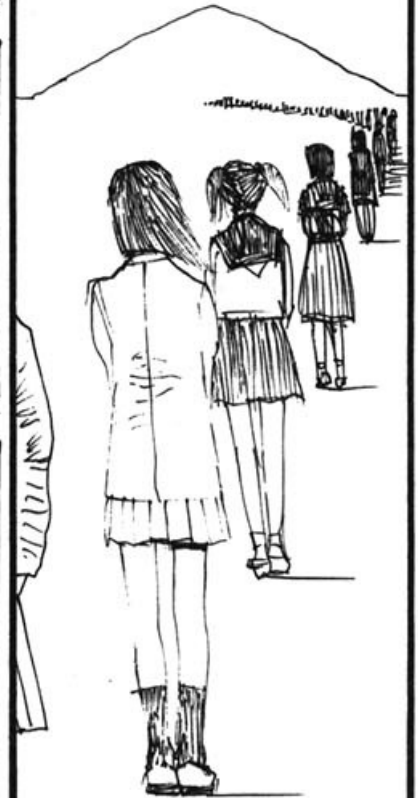
邪蛮国政府ジャパンのほうからの
自発的措置として行なわれて
いるのだからおもしろい



しかもこれが
「畜人省土着畜人局」
の事業としてではなく

邪蛮国の
全女性は
満十四歳になると
国立検査場に行つて

容貌・体格・
健康・知能・性格等



ちようど
昔の兵役義務による
徴兵検査のような
国民的義務なのだが



あらゆる面からの
検査を受け
登録される



合格者が
何千人に一人
というほど
選別基準が
きびしいこと

受験者の誰もが
合格を
熱望している
といったことが

兵役とは
異なる点で
あった



1000



検査成績に
なお
門他その他の
内申を統合
したうえ



満十五歳を
過ぎると



特別優秀者だけが
選抜されて
ヤ・プ・ム要員となる



※
国民は彼らを
「お袋様」
とか



※家畜語のおふくろとは、子袋、すなわち子宮を意味する

※
「聖母様」
とか称んで
崇め尊ぶ



※神の胤を処女受胎するからである

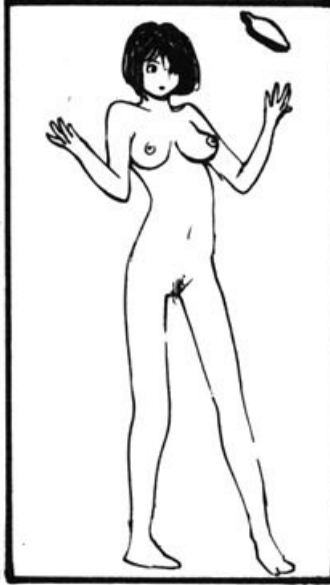
その次の
満月の夜
フジヤマ・クライミング
富士登山が
行なわれる



山麓で
再検査を受けて
合格すると



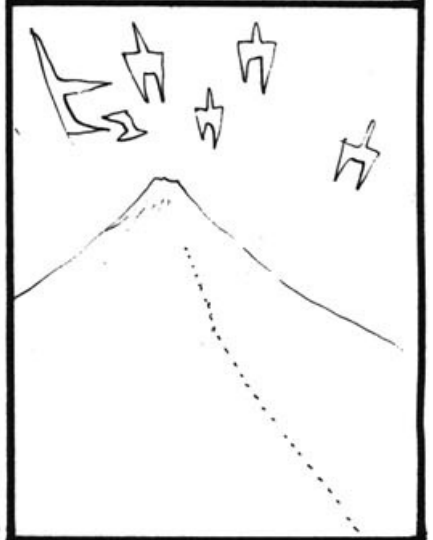
裸になって
皮膚強化処置を
施され



そのうえで
山頂を目ざす



烈風が
黒髪を乱し
激しく
吹きおろして
きても



素裸に
肌をさらし
ながらも
何の寒さも
感じない



彼女らは
いよいよ神に
近づいたのかと
歓喜するのである



山頂にある
修道院

* nunnery



—で
邪蛮全国から
選り抜かれた
美貌の
乙女たちは



イース貴婦人に
とっては
飼育所だが

* yagoonery



満十八歳に
なるまで
修行する

高貴な神々の
「お袋」となる
身の幸福を思い

それに伴う
責任を
感じている
彼女たちは



妊娠・出産・授乳時の
衛生法等の学科を
授けられる一方



健康に留意して
スポーツに励み



胎児教育に
最適の母体
たらんと努める



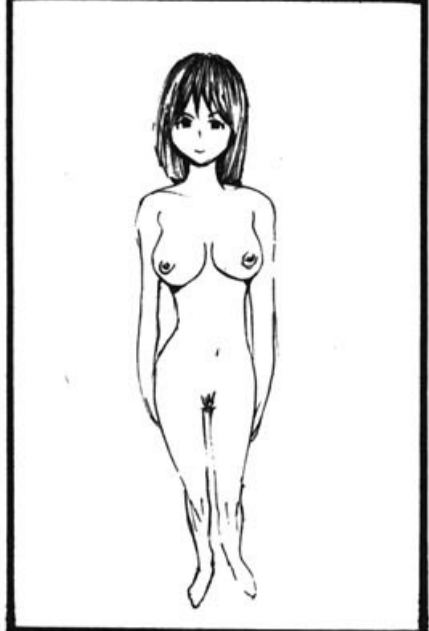
こうして
三年の期間が
過ぎると



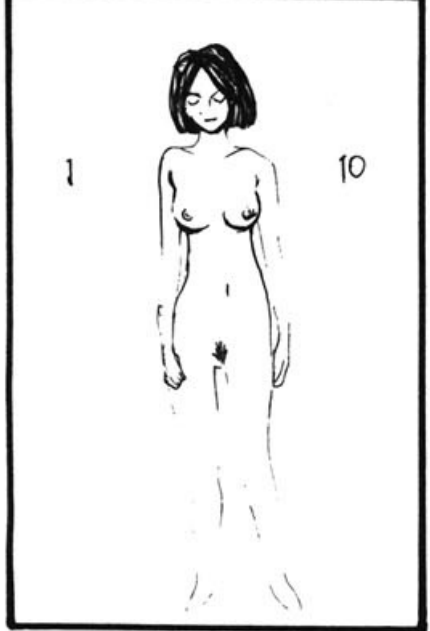
身心共に
今や準備
まったたく成った
子宮畜となって
昇天し



市場に
出される



このように
規模としては
アマゾン星の
「女護島」の
何十分の一だが



質においては
はるかにまさる
貴婦人用ヤプム専門の
飼育所がこうして
できてくるために



貴婦人たちは
わざわざそのつど
地球まで
出かけて行かなくとも



優秀な
「地球物」が
入手できることに
なっているのである



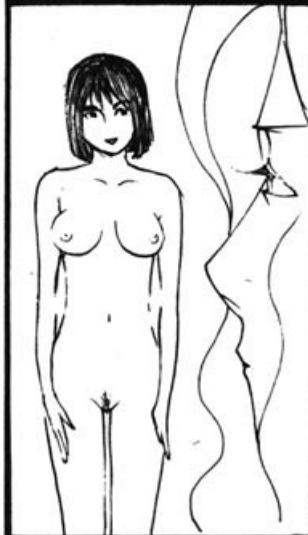
だが
贅沢には
キリがない



長女ソフィアの
妊娠のときに使った
ヤプムに失敗した
ポーリーンは



市場で見ると品では
満足できず



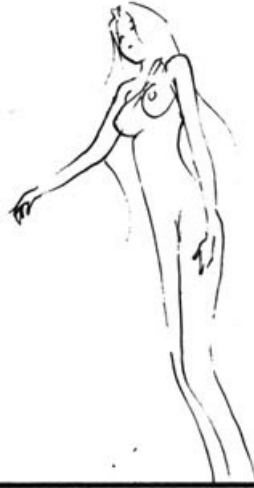
今度は
その飼育所まで行って
気に入ったのを
捜そうと
いうのである



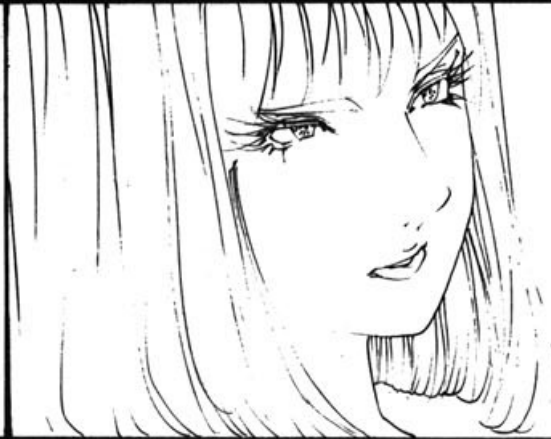
もつとも
こういう
フジヤマ・デイセンディング
富士山降臨は
彼女が初めて
ではない



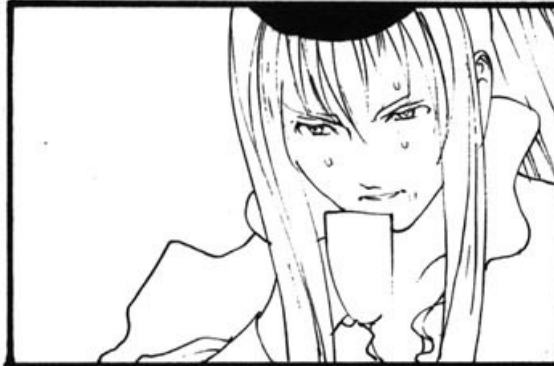
地球別荘に来る
有閑女性は
しばしば降臨を
試みるのである



さて
我々はここで
ふたたび
クララの部屋へやに
目を転じねば
ならない



焦いらしながら
ソーマの杯さきを
あおっていた
ウイリアムは



それは
子守歌のような
単調な調べだった



ふと隣室から
器楽の旋律が
流れて来るのに
気づいた



あつ
催眠薬だ！
さては寝台で
……

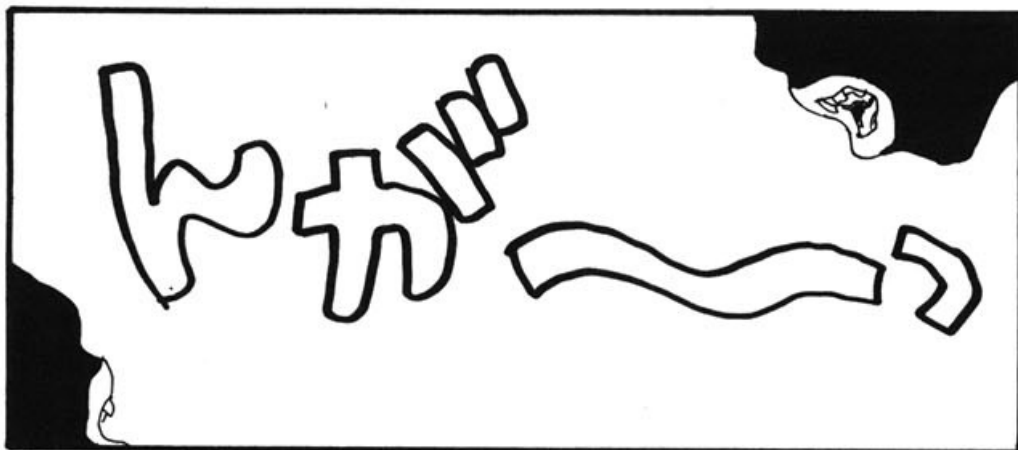
美青年は
顔色を変えて
ソファから
身を起した

案の定
猛烈な眠気が
おそって来た

二人の黒奴は
もう床に
しゃがみ込んで

それでもしきりに
手で顔をこすりながら
眠気とたたかっている
ようだったが

やがて
そこへ突っ伏すと
額の金輪が
床に触れ



同時に
躰いびきをかきだした



クララが
ヤプーを
抱いているのか

という
おぞましさと
嫉妬しつとと



ひとつには
ソーマによる
神経の昂奮こうふんとから



扉ひらごしの
楽の音は
いちだんと
強くなり

ウィリアムは
やっと持ちこたえて
隣室の扉まどの前まで
行ったが



ついに彼は
扉の取手に
手をかけたまま
パタリと腰を落し

そのうち
だらしなく
扉にもたれて
眠り始めた



スベツン
肉痰壺
その他の
生体家具たちだけは
何の影響も受けず
キョトンとして
立っているのが
異様であった

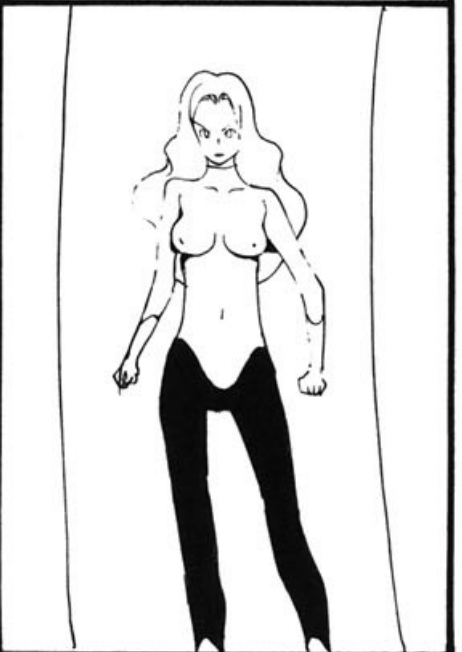


やがて
音楽は消え
かすかな
鼾のほかは
静寂があたりを
支配した

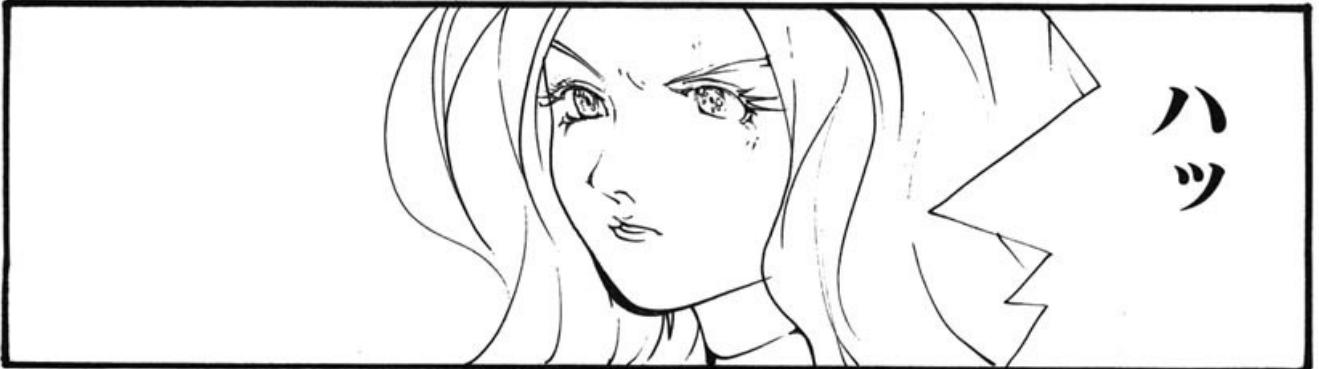
虫が知らせでも
したのか
アンナとの
打合せが終ると
早々に戻って来た
のである



だいぶ
たつてから
ポーリーンが
外からのドアを
開けた



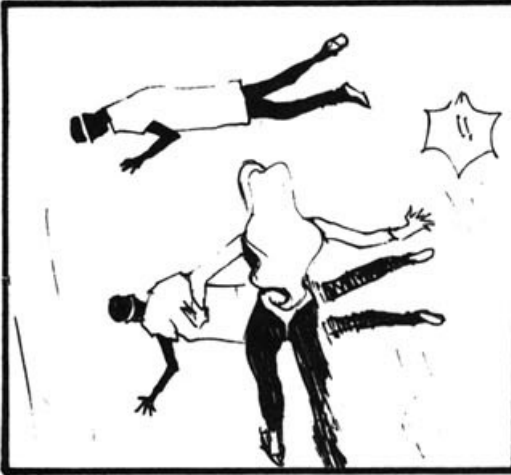
奥への扉の前に
倒れている
ウイリアムの姿に



と
驚いて
走り寄る



その足元に
倒れている
二人の黒奴の体
にあやうく
つまづきそうに
なった



三人とも
ただ眠っているだけ
だとわかって
安心はしたが
奥の部屋が
気にかかる



奥への扉は
クララ
ならば

オープン
開けよ

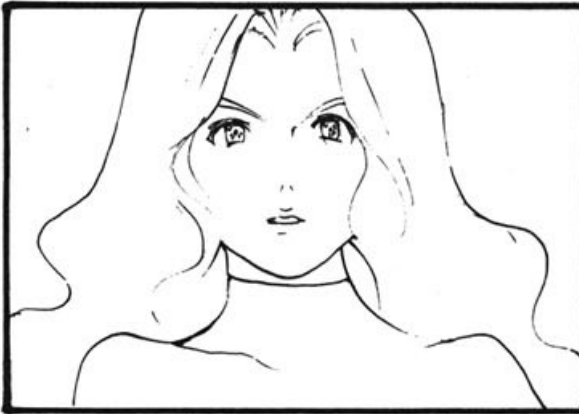


の
命令で
開けるが



他の人には
それが
できない





真っ先に
目に映ったのは

ポーリーンは
水晶宮の
マスター・キーを
取り寄せて
開かねば
ならなかった



床に倒れている
クララとヤプーの
姿であった



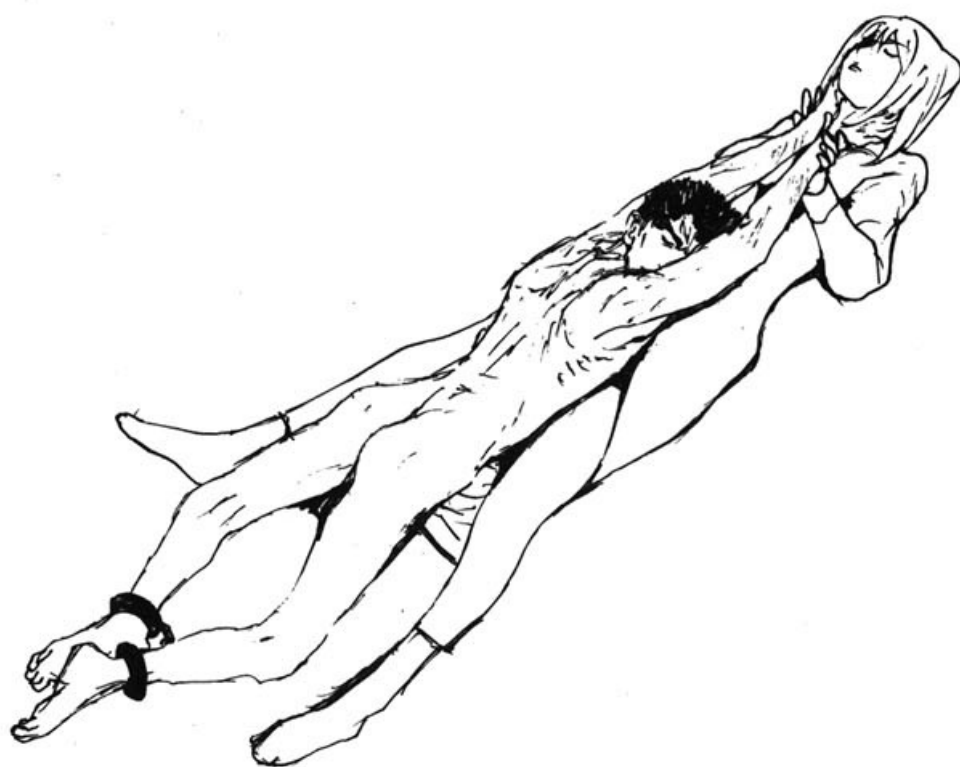
そんな表現が
ピタリとする
印象だった

美・女・と・野・獣・

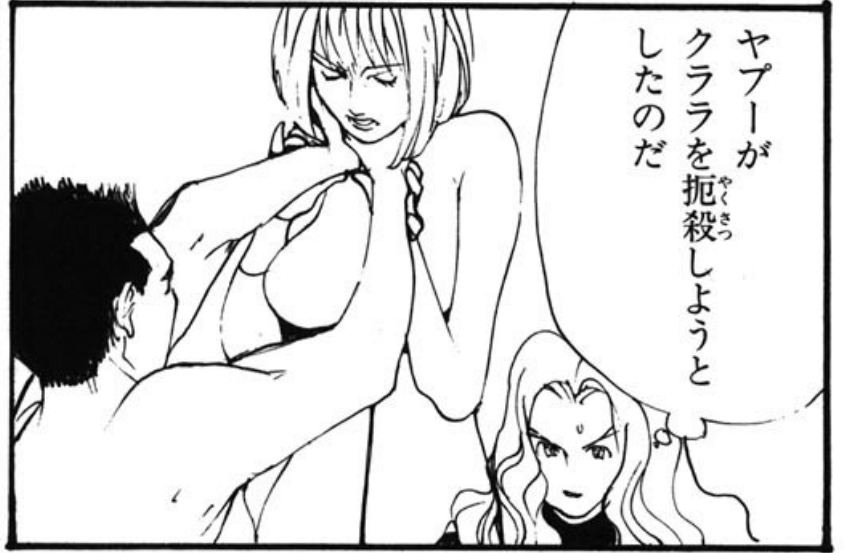


クララの
仰向けに横たわった
上半身に
のしかかるように
して

手錠だけは
はずされた両手が
彼女の喉のどにかかり
その両手首を
彼女の両手が
さえぎるように
握にぎっている
衣装いしやうの乱れ方は
なおその場ばに
激あしい揉も合あいの
あったことを
示ししていた



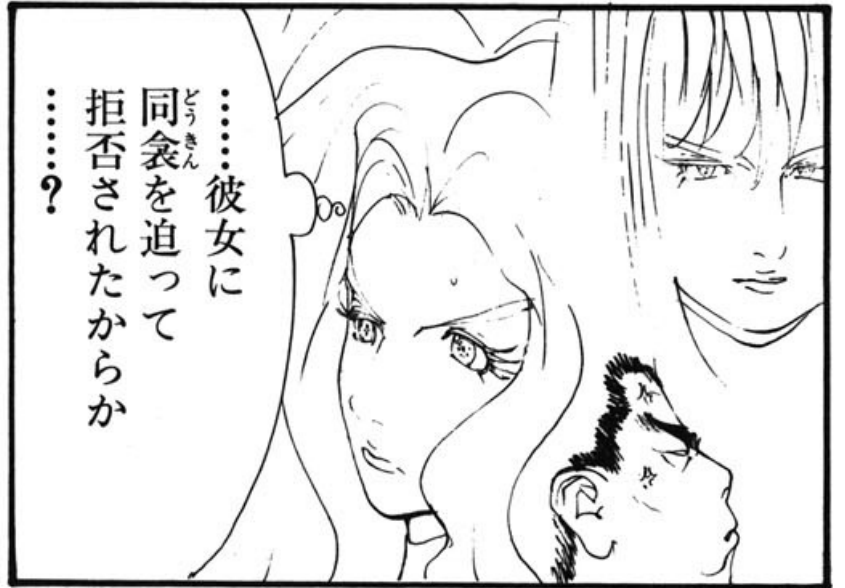
ヤプーが
クララを扼殺しよう
としたのだ



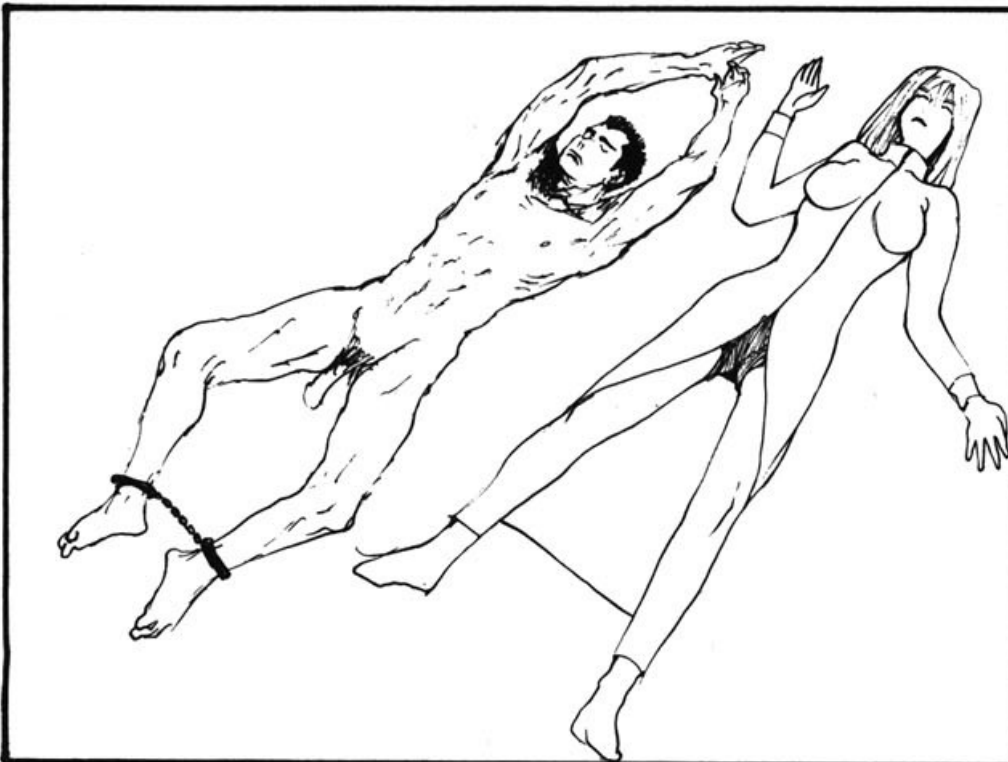
ポーリーンはまず
クララの上に
俯伏せに重なっていた
ヤプーを
足で床の上に
仰向けに蹴落した



……彼女に
同衾を迫って
拒否されたからか
……？



ヤプーもクララも
眠りこけている



誰かが
ナルコチツク・ピストル
麻酔短銃を
使ったとしか
思えない

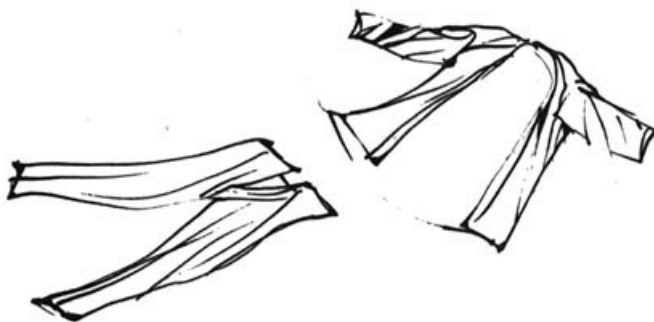
いったい
誰か？



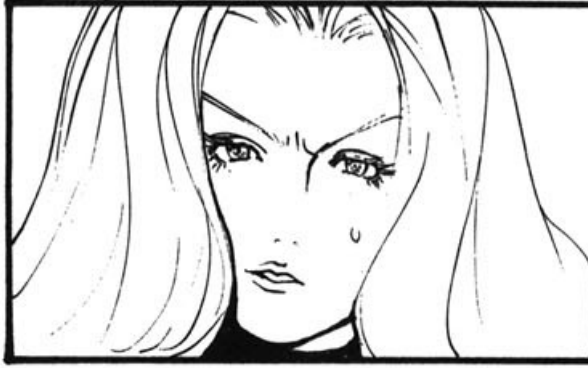
またなぜ
そんなことを
したのか？

部屋中見回しても
手掛りらしいものは
なかった

だが
小テールブルの横に
衣装箆笥いしやだんすから
出したらしい
スーツ一着分が



ほうり出された
ままなのが
不審といえ
ば不審であ
った



検事長とい
う職業が
ら犯罪捜
査には慣
れている
ポーリー
ンだが



この不思議
な突発事
態にはと
んと見当
がつかか
ねた

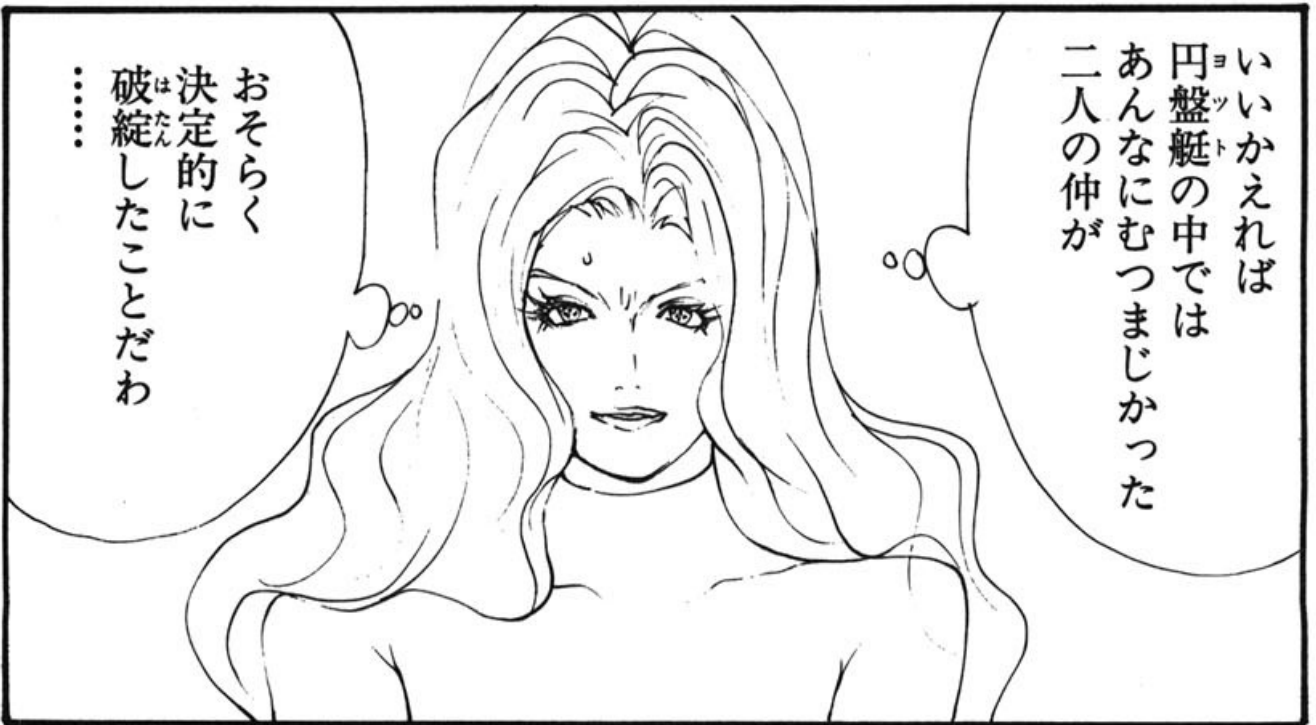


——ただ
一つ確かな
のはヤプー
がクララに
手向かいし
たこと



いいかえれ
ば円盤艇の
中ではあ
んなにむ
つまじか
った二人
の仲が

おそらく
決定的に
破綻した
ことだわ
……



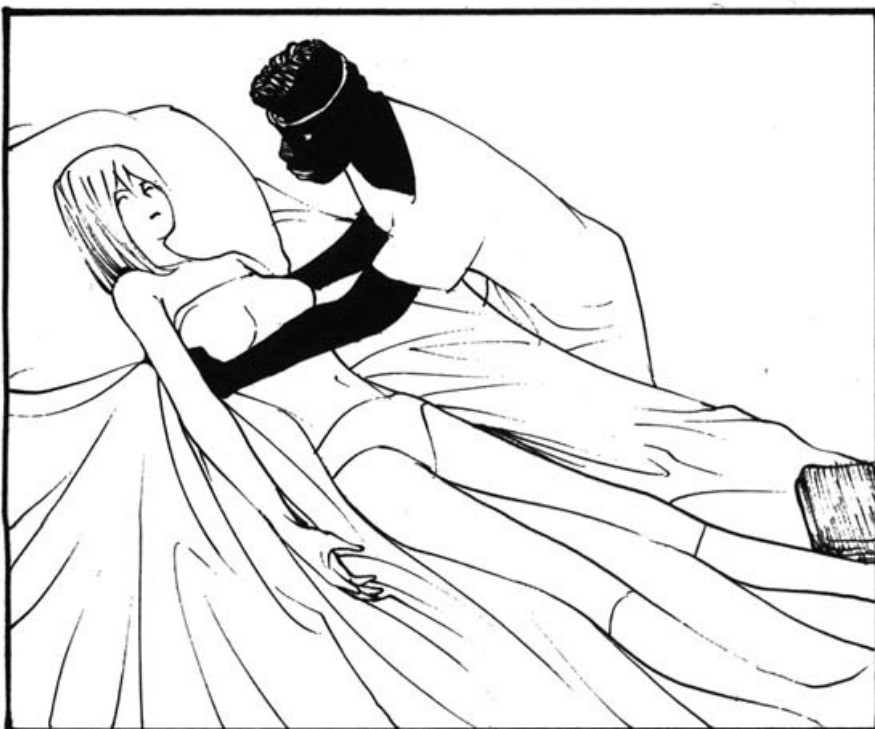
従者A3号は
かいがいしく
クララを
寝台に運び



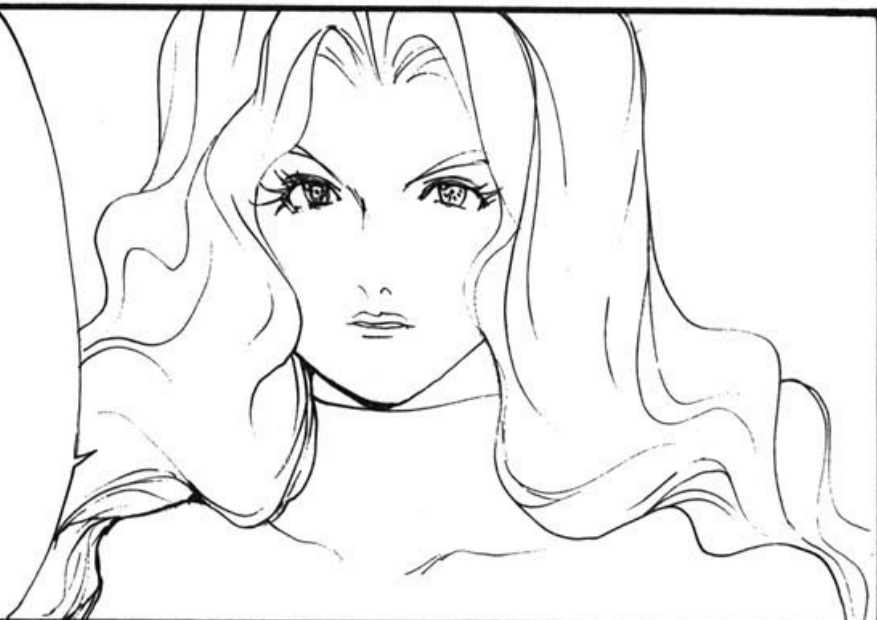
昏昏^{こんこん}として
正体のない肢体^{したい}を
じょうずに扱^さいながら
服を脱がせた



パジャマを
出して来て
下着も脱がせようと
したところで
ポーリ^{とど}ーンは
押し留めた



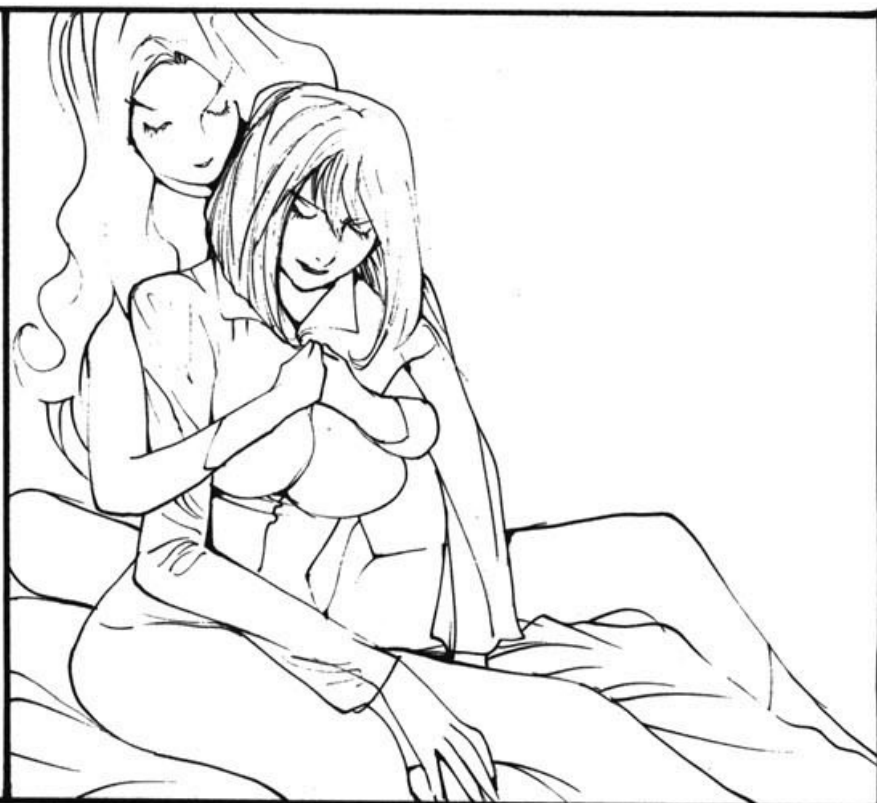
寝巻は
妾が着せてあげるから
お前はドレイパア朗を
介抱して彼の私室へ
運んでおあげ



ほかの
従者たちも
適当に……



ポーリーンは
さも大きな人形を
扱うように
クララにパジャマを
着せてやりながら



心中
そつと話しかけた

クララ嬢さん
さぞこわかった
でしょう

可哀かわいそうに
あんなに愛して
いたのにね……

でもかえって
よかつたのよ
所詮しよせん畜生相手の
恋愛れんあい沙汰さた



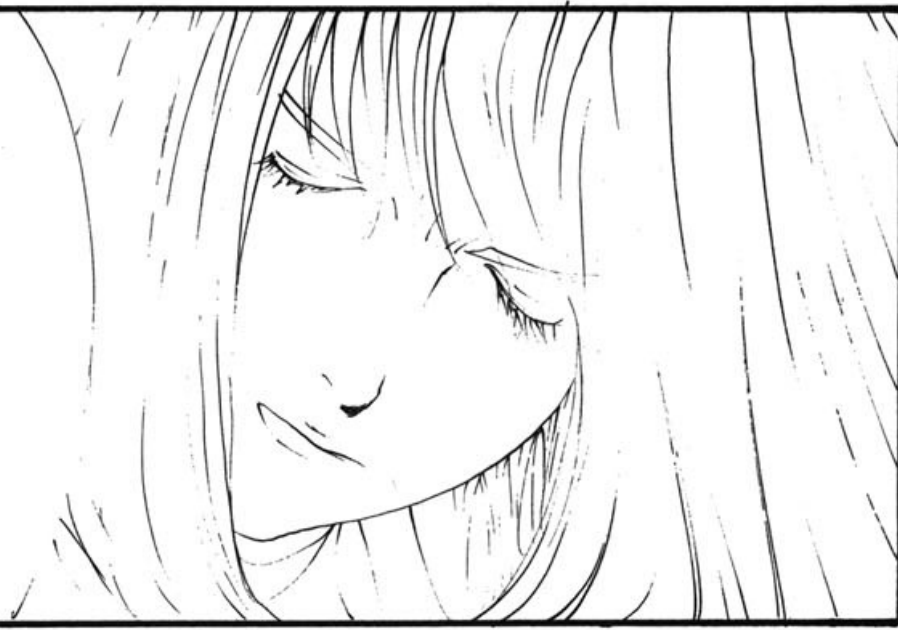
獣^{ソド}姦^{ドミ}愛は
早く清算したほうが
いいの



あなた
貴女の
病的愛情は
根が深いから



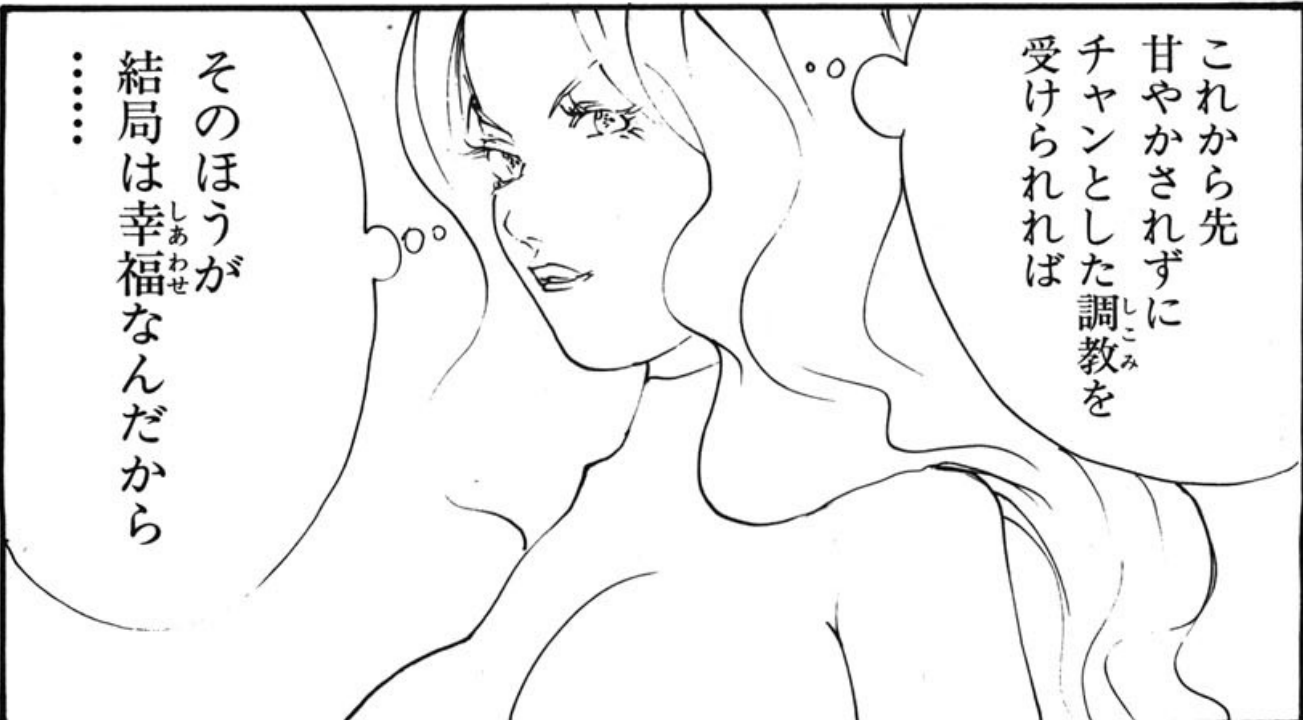
へたすると
憐^{れん}憫^{びん}の気持が
残るんじゃないかと
心配してたのよ……



こんな目にあえば
貴女の迷いも覚めて
ヤプーの扱い方が
よくわかったでしょうし



……
このヤプーに
したって



これから先
甘やかされずに
チャンとした調教を
受けられれば

そのほうが
結局は幸福しあわせなんだから
……

クララの靴下を
脱がせていた
ポーリーンの手が
ふと止った



— そうだった
この令嬢は
五趾爪なんだ



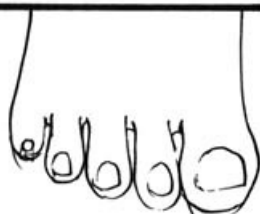
足の小趾の爪を
見たからだった



前史時代には
人類は
五本の足趾全部に
爪を持っていた



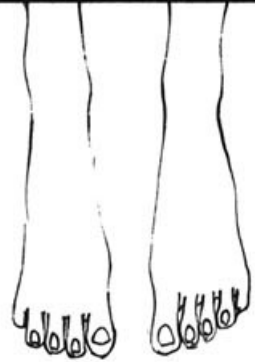
それが
宇宙文明の
発達とともに
小趾がだんだんと
退化の一途をたどり



今から
千年ほど前には
小趾の爪は
完全に消滅した



イース人は
四趾爪の動物に
進化したのである



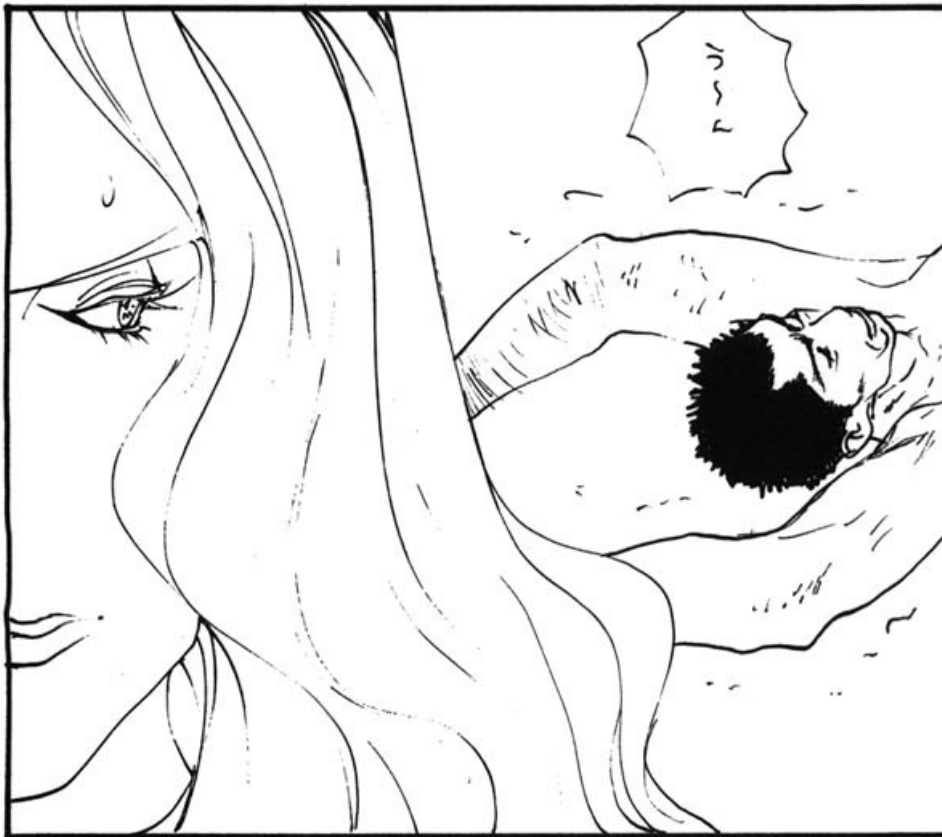
四趾爪にならなければ
イース人で
通用しないわ



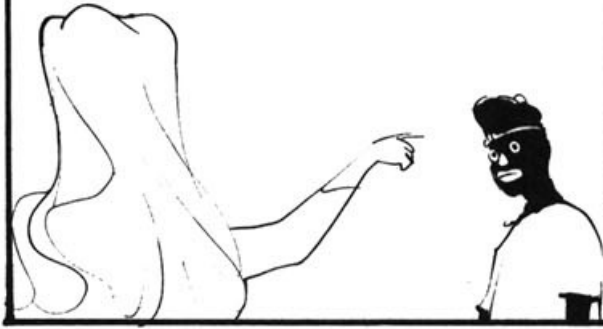
アレマン医師を
呼ぼう



そう決心したとき
床上のヤプーが
急に身動きして
唸り声をあげた



不安になった
ポーリーンは
従者を呼んだ



やはり手錠が
必要だ



このヤプーを
ロイヤル・ホルド
原畜舎に
連れて行って
予備檻^{※スベア・ベン}にお入れ!

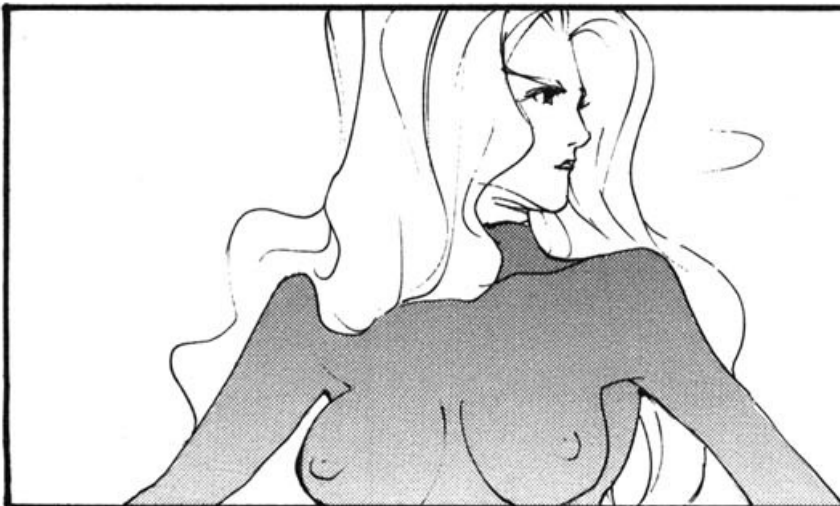


※ spare pen

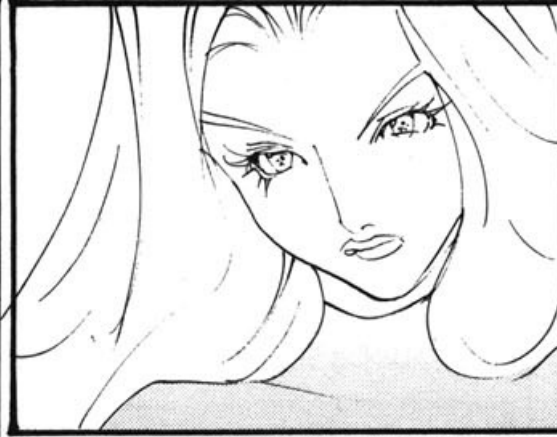
その途中で
こいつが
あばれだせば事だ



もう一度
部屋中を見回して

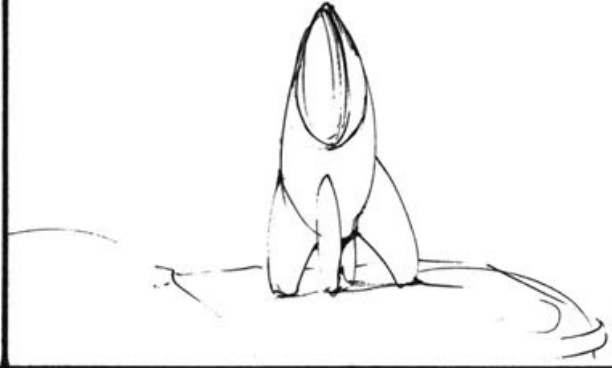


ポーリーンは
寝台の枕元まくらもとの台に
立派な置物



手錠を
従者に渡し
ヤプーを担かつがせて
出て行かせた
彼女は

旧式ロケット・モデル
宇宙船模型



——があり
その横に
一度はずされた
ヤプーの手錠が
置いてあるのを
見いだした

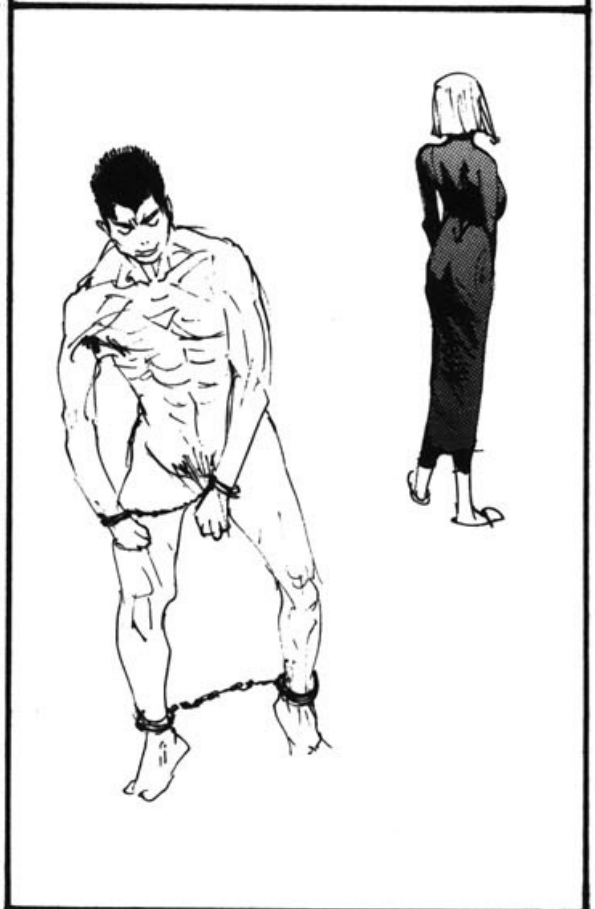
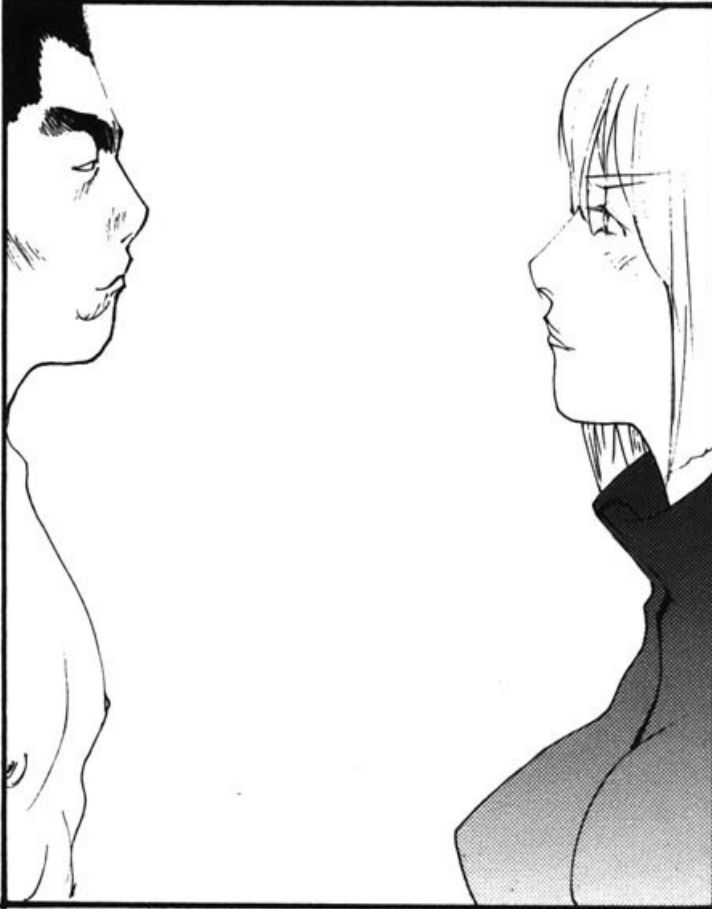


その
ロケットの模型の
ほうに近寄った



ともあれ
再会も束の間
クララと麟一郎とは
こうしてふたたび
引き離された

恋人同士としての
二人の間は
永久に破綻して
しまったのだ



この次に
両者が
顔を合わせる
ときは



一人のイース婦人と
一匹のヤプーとして
であろろう



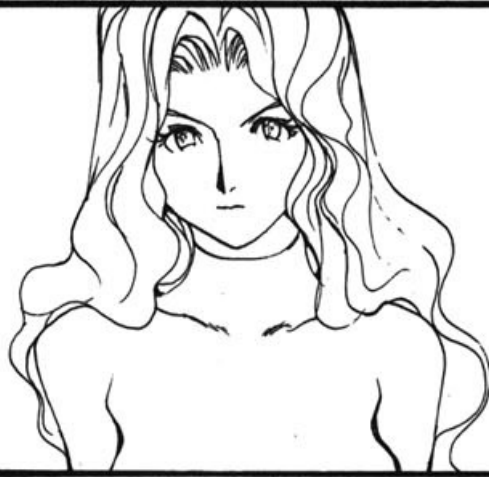
YAPOO, THE HUMAN CATTLE

YAPOO, THE HUMAN CATTLE

旧式宇宙船模型が
宝船だろ



ということとは
ポーリーンには
一目見て
見当がついていた



ピクミューエル
矮人決闘の折り
ウイリアムが賭けた
船の置物というの
これであろう

ジャンセン一族は
骨董趣味がないから
この部屋に
元からあつた
わけはない



さて
宝船なら
中に矮人が
いるはずだ

彼らが
この部屋で起つた
怪事件の一部始終を
知っているのでは
なかろうか



敏腕な
検事長としての
捜査の勘だった



ポーリーンは
ためらい
躊躇なく
上蓋をはずした

案の定
七矮人が
とりどりの
奇形の姿を
さらしている中で



船長格の
弁財天女を
つまみ出すと



そつと
てのひら
掌上に載せて



さ
お話し



お前の見たこと
聞いたことを
……

※ 弁財天女は
人間の肌
まごうばかりの
白い肌をした
うら若い美人
だった



※ 白人



手に持った宝槍を
横に置くこと
ひざまずいて
最敬礼し



しとやかに
立ち上って
話し始めた



※ 昔は多聞天の持物だったもの

低いが
鈴を振るような
美声である

わたくしは
司令室に立って
覗き窓から
部屋の様子を
見ておりました



めがみ
女神が
ヤプーをつれて
はいっておいでに
なりました



わたくしは
てつきり女神が
このヤプーを
カニリンガ
舌人形として
お慰みになるの
だろうと存じて



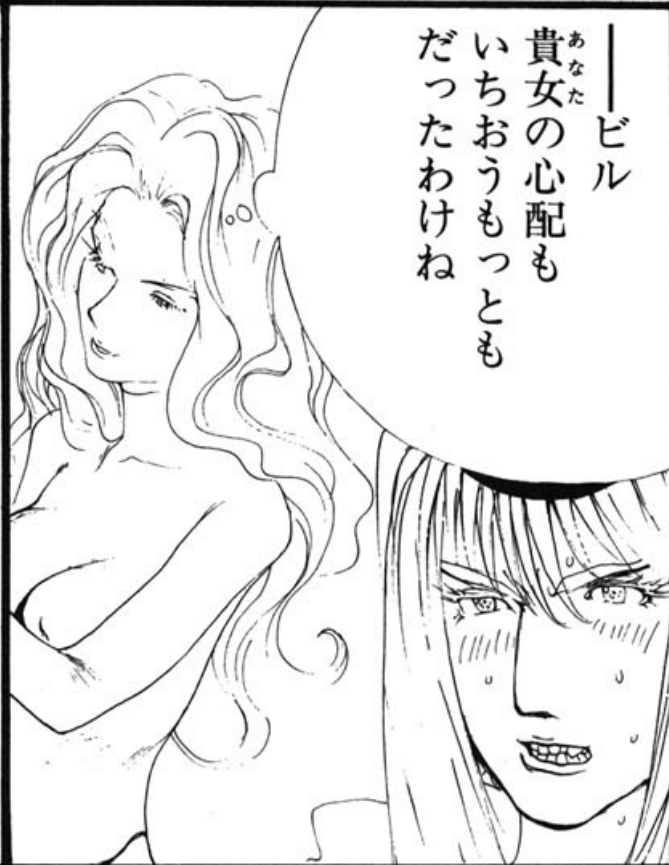
すぐ
手錠をはずして
おやりになります
ので



インタコース・ミュージック
光悦楽演奏の
用意を
致させました
……

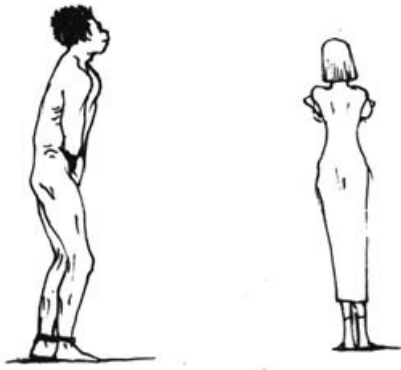


——ビル
あなた
貴女の心配も
いちおうもつとも
だったわけね



と
ポーリーンは独り思った

ところが女神は
箆筒たんすから服を
お出しになると
ヤプーにお渡しに
なりました



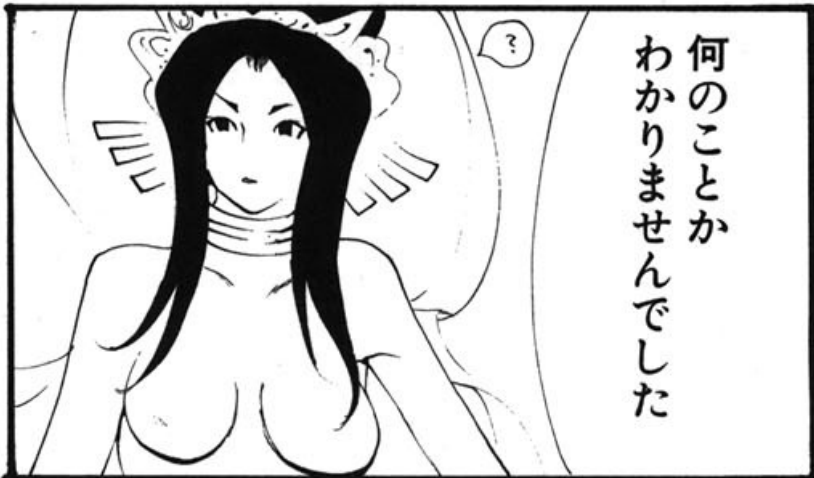
彼はそれを
引きつかむや
何か叫んで
横ほうに放り出しました



わたくしには
わからない言葉で
命令なさりつつ
……



何のことか
わかりませんでした



クララは
奴あれに服を着せようと
したのだわ



妾めかけにはわかる



だが奴^{あれ}は
自分が
服の着られない
体になっている
ことを
知っていたのだ

驚きました
ことに

ヤプーは
女神と並んで
ソファに
腰掛けました

話が続きましたが
船内スピーカーで
聞きましても

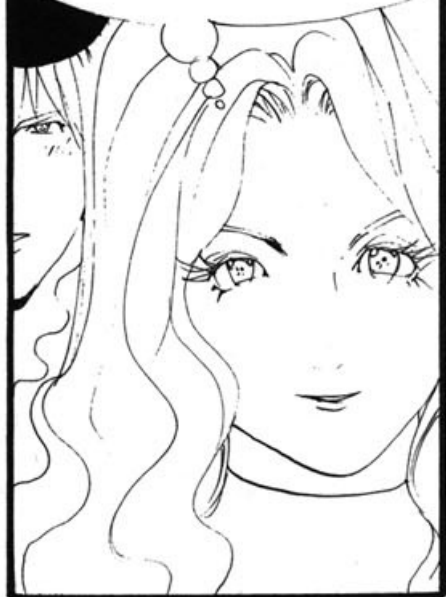
わたくしには
全然
理解できません
でした

ただ
女神がむしろゆつくりと
頼むような口調で
お話しになるのに対して

ヤプーのほうが
強い怒った声で
しゃべっていました



——ビル
貴女が
奴^{あれ}のことを
嫉^やいでいたように



彼はたびたび
隣室への扉^{とびら}を
指さしました

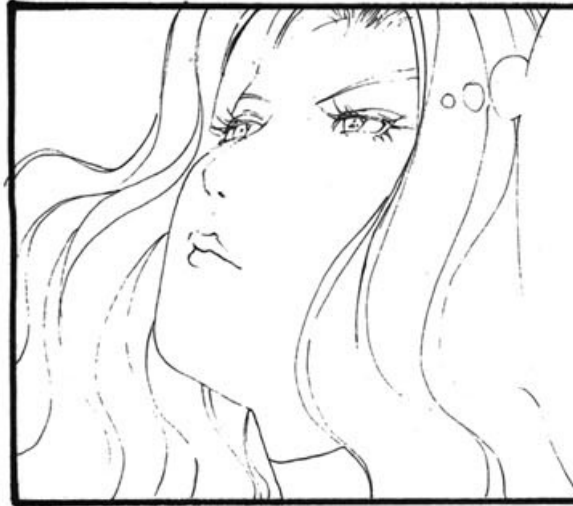


奴^{あれ}のほうでも
貴女のことを
嫉^やいでいた
らしいよ

お笑い草ね



……クララが
頼んだっていうのは
いったい何かしら？
頼むなんて



ポーリーンには
クララがりんいちろう麟一郎を



原球面に
一人帰らせようと
していたことなど
想像も及ばなかつたのだ

急にヤプーは
飛び上がった



尻しりをさすり

もう腰を
おろそうとは
しませんでした
……



デルマチック・ペイン
皮膚反応痛
だわ



ビルは



ヤプーが
寝台の中に
はいるんでは
ないか



なんて
心配してたけど



今度はヤプーが
哀願し始めました



寝台どころか
強化皮膚には
ソファさえ
許さないうって
ことを忘れていたのね



彼は
女神の掛けてらっしゃる
ソファの前に
ひざまずいて
頭を下げました

女神は
断っておられ
ました

クララは
ヤプーに

お前を
何々にする
つもりだ

と
宣告したに
違いない

奴^{あれ}は
その運命を恐れて
決心を変えてくれと
頼んだのだろう

これは
無理もない
推測だったが

実は
鱗一郎は

自分といっしょに
原球面に
帰ってほしい



ヤプーが
ヤプーらしい姿勢を
取ったことに
満足と安心を
覚えて



と懇願して
クララに
断られたのであった



わたくしは
ちよつと
目を放しました



突然
今まで
チンブンカンブンでした
言葉の中に
ヤプー
家畜語が混って



スピーカーから
流れ出て
来ました
……



何と云ったの？



ポーリーンは
思わず口に出して
聞いた

はい
『心中ダ
クララ
オレモ死ヌカラ』
そう聞えて
きました



ヤプーは
自由になつた両手で
女神の咽喉元を
締めつけ



女神は
苦しそくに
身悶えして
おられます



ヤプーの
恐ろしい形相と
今の言葉



それで
非常措置として
催眠楽を
平生の倍の強さで
演奏させ

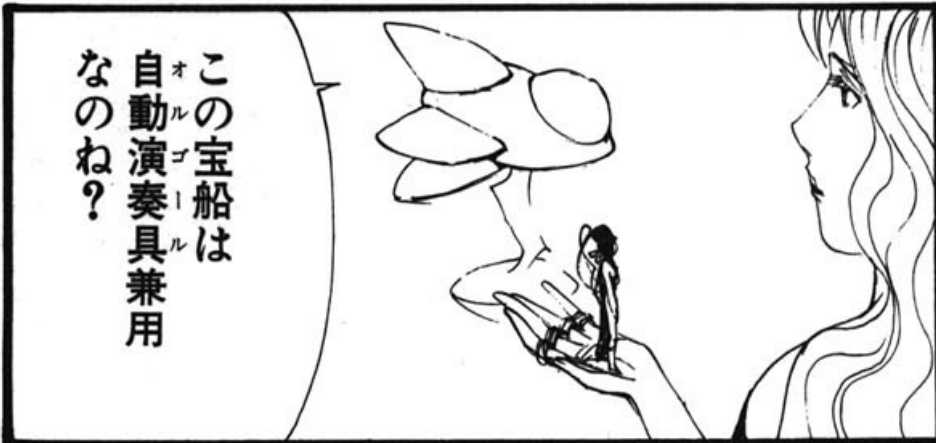


無理心中を
図っていたことは
疑いようがありません



さらに
五倍に増幅して
放送しました
……

この宝船は
自動演奏具兼用
なのね？



はい
びしゃもんでん
多聞天が
リッル・ミュージシャン
小伶人血統で
ございますので
……

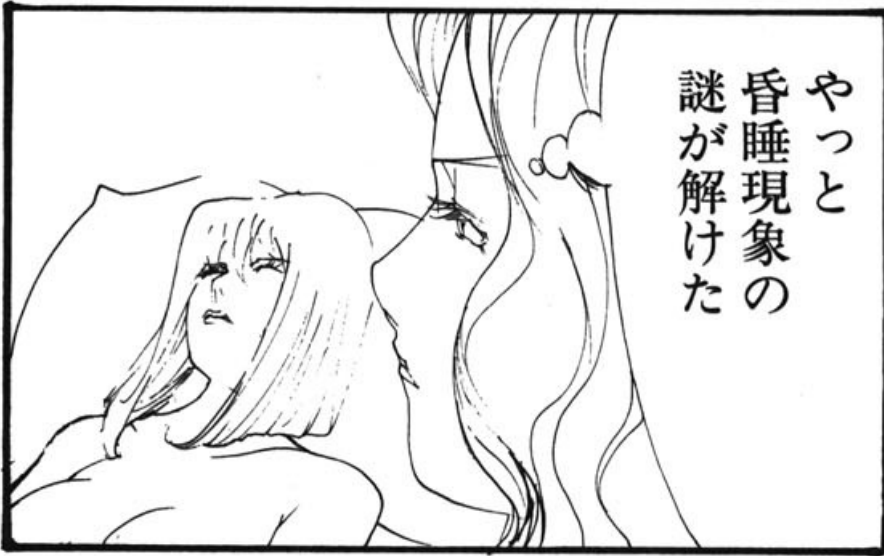




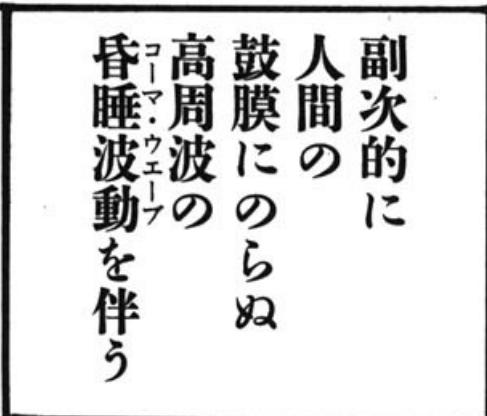
それが
珍・しい品
というわけ
だったんだわ



—
そうだったのか



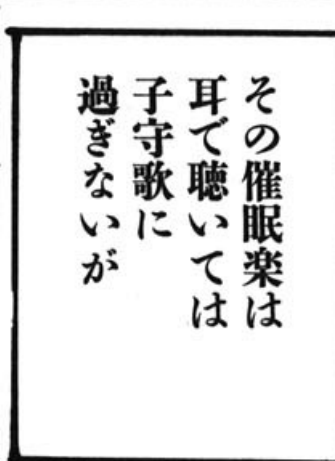
やっと
昏睡現象の
謎が解けた



副次的に
人間の
鼓膜にのらぬ
高周波の
昏睡波動を伴う
フォーマウエーブ



就寝時に
催眠楽を奏する
自動演奏具



その催眠楽は
耳で聴いては
子守歌に
過ぎないが



常は
徐々に人を眠りに
導くだけだが



この雌矮人の
機転のおかげで
クララは
危ういところで
ヤプーの暴力から
救われたわけだ

それが十倍に
強化されて
ナルコック・ヒストル
麻酔短銃で撃つたのと
同じ効果を
示したのだ



よくやった
ごほうび

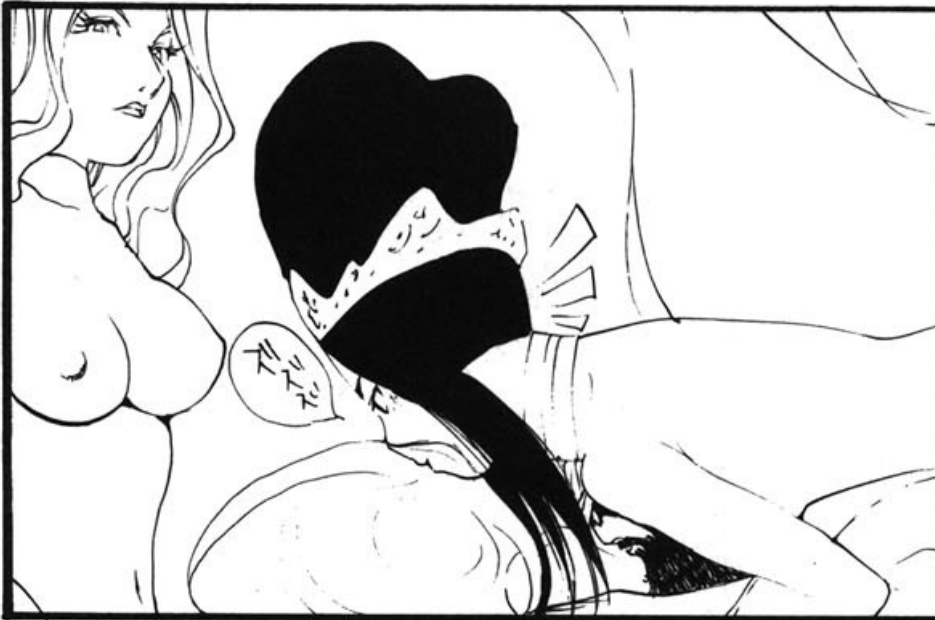


二匹に一口ずつ
唾を吐き与え



弁財天と
彼女の
昔の持物だった
弦楽器を抱いている
多聞天と





感激に
頬を紅潮させて
恩賜の聖唾を
すすり始めた
小動物を
横目に見ながら



ポーリーンは
リスト・マイク
腕送話器に
命令した

寝台の
クララは
身動きひとつ
しない

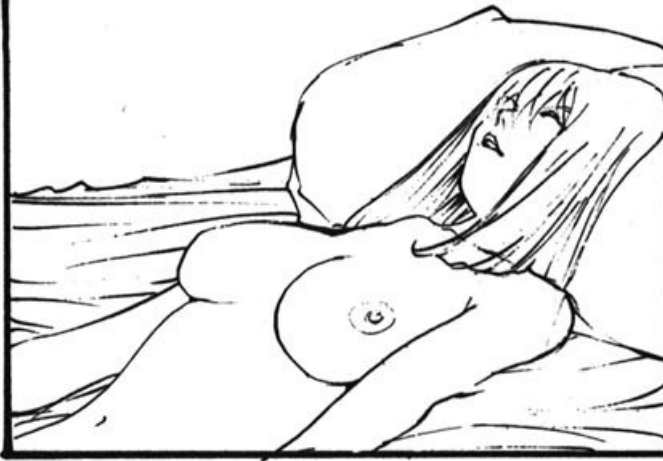


アレマン医師を
大至急
この部屋に
よこしておくれ



極秘で
簡単な
手術道具を持って
……

昏睡波動の
襲うまえに
気絶していたのかも
しれない



首を絞められて
失神したクララと
違って



鱗一郎は
黒奴の肩の上で正気づいた



昏睡こんすいが
浅かったのだ



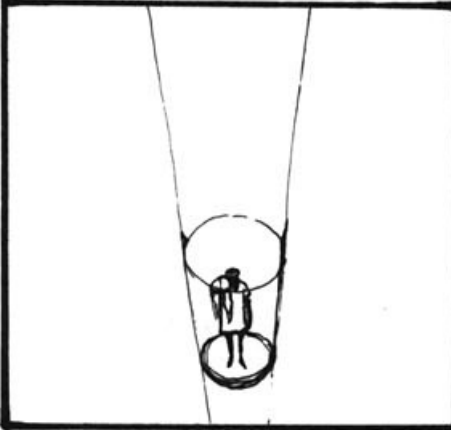
クララを
殺してしまったのに
俺おれはまだ
生きている……

悔恨が
胸を噛んだ



黒奴は
地階の裏庭の
下に当るあたりに
立てられていた
原畜舎まで
降りて来た

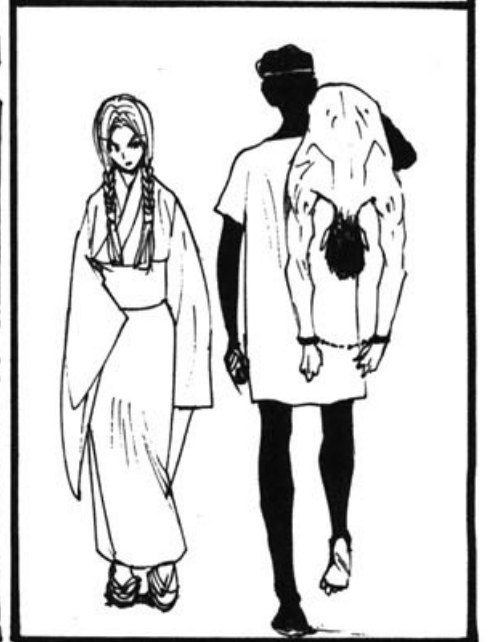
自殺の機会を
狙おうと
決心した



ちょうどその時
ドレイバア伯爵夫君
セシルが居合せた



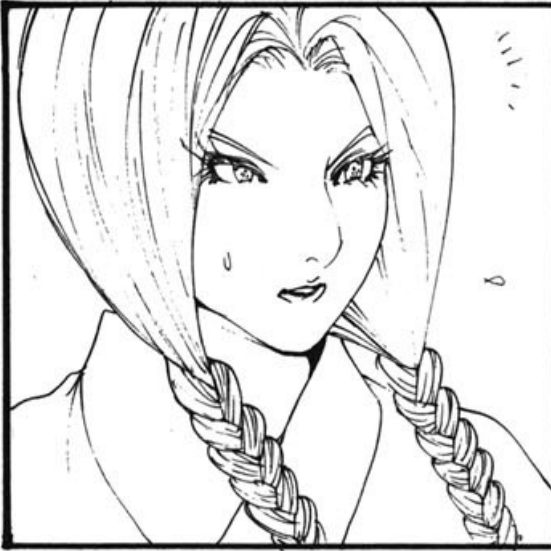
彼は
出発前やった生餌を
巨大蜘蛛が
もう食べたのを
調べたあと



晩餐前の一刻を
原ヤプーの調教に
費やしたが



ここで
今しがた
例のヤプーが
さつき地階で大暴れした
という噂を
聞いたところだった



見れば
手錠・足錠が
つけられている
……



そこへ
やって来たのが
まさに噂の
ヤプーではないか

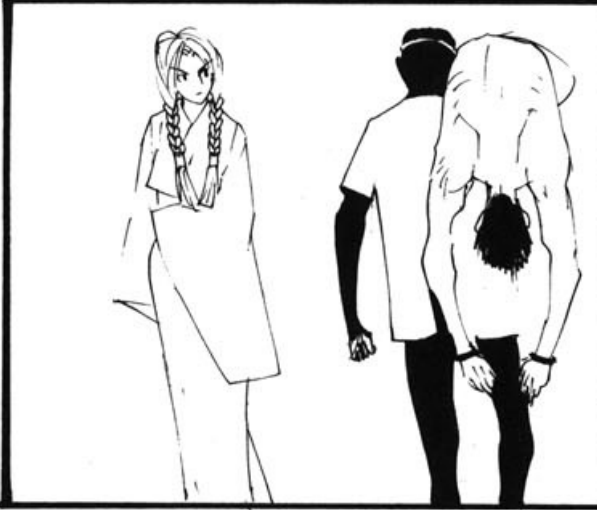


※
インハーサービス
御用中



※ これは欠礼の挨拶である

と
通り過ぎようとする
従者A3号を
セシルは呼び留めた



黒奴は
ヤプーを
肩からおろして
立たせ



待て
どこへ行く



このヤプーを
^{スベア・ペン}予備檻に
入れますので……

^{スベア・ペン}予備檻？
そうじゃ
あるまい



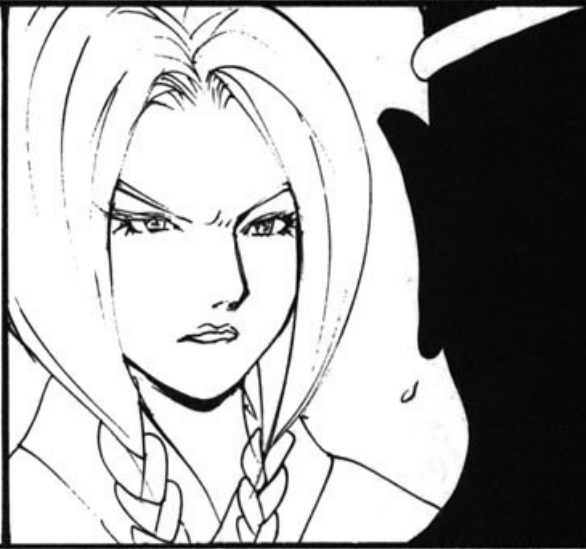
*
^{スベシャルペン}特別檻だろう
決ってるじゃ
ないか
馬鹿！





は
スペシャル・ベン
特別檻で

白人から
そう決めつけられると



という気になり
黒奴は



自分が
聞き違えていたに
違いない



と
確認すると



この白人こそ
船中で
自分に好意を
示してくれた人だ

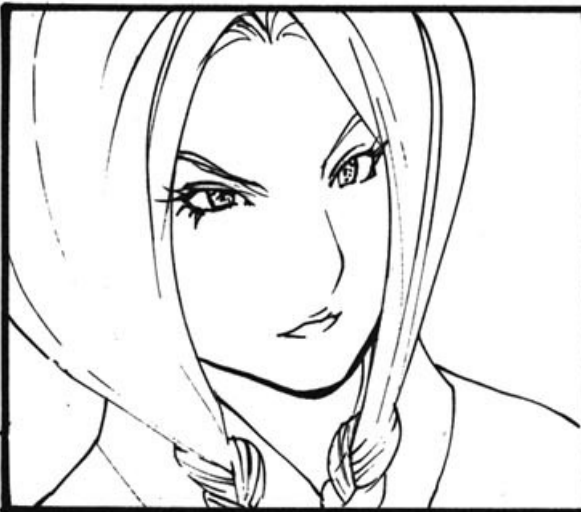
鱗一郎は声の調子と
着物の裾模様すそもようから

ヤプーは
人間に
話しかけては
ならないが

あなた
貴方
先ほどはどうも



そう呼び掛けると
さっそくあれ以後の
黒人の非行を訴えた



だから
セシルは
話しかけられたことには
平気であったが

未訓練の
土着ヤプーは
その禁令が
わかってないから
例外である

先ほどは
どうも



という
挨拶には
驚いた



黒奴が
彼の命令を濫用して
悪戯したためである



そして
さらに
このヤプーが



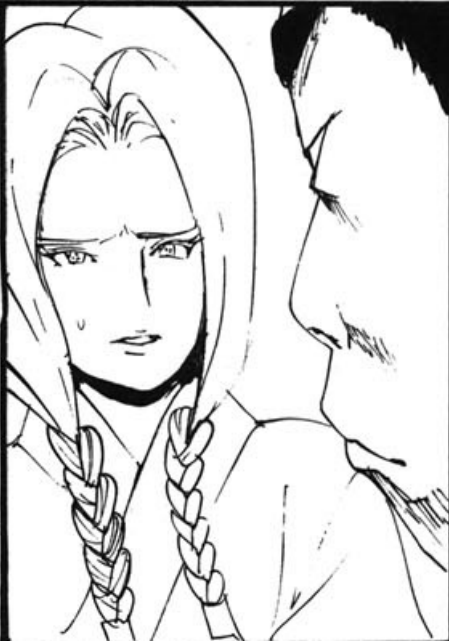
自分が
服の着られない
体になったのは



と
信じきって
いるのを知ると



このたくましい
原ヤプーの
知能の低さを
哀れみながらも



セシルは
笑い出さずに
いられなかった

その笑顔^{えがお}を

また鱗一郎は
彼への好意の印と
思ってしまったのだから
始末が悪い

一人と一匹が
こうして並んで

この中へ入って
待つがいい
悪いようには
しないから
……A3号
錠をはずしてやれ

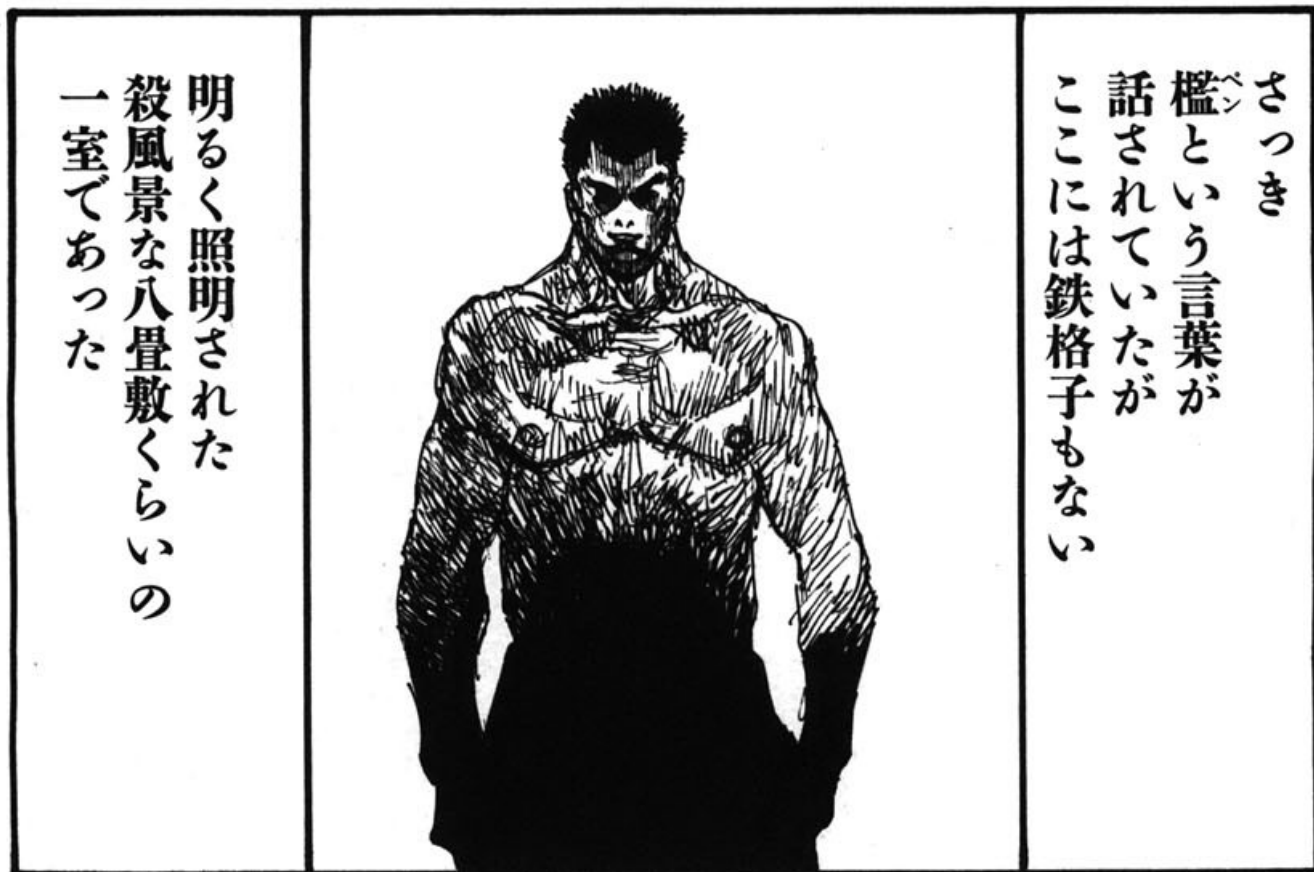
ある扉^{ドア}の前まで
来ると



この一言で
ますますセシルを
親切な人と
信じ込んだ
鱗一郎は



彼の言葉を
寸毫も疑わず
扉を開けて
中へは行っていった



さつき
檻という言葉が
話されていたが
ここには鉄格子もない

明るく照明された
殺風景な八畳敷くらいの
一室であった

造作といつては
中央に奇妙な腰掛？
があるだけだ

細長い鞍馬状で
背中の寄懸も
なかった

奇妙な形だったが
四脚から見て
腰掛以外の用途に
用いられるものとも
思えなかった



ふつと
先ほどソファに
うっかり腰をおろして
ひどい目にあつた
ことを思い出し



ほかには
何も無い真っ白な
床と壁に
脚の黒色と
背面の黄色が
よく映えていた

鱗一郎は
何気なく近寄り
跨って
休もうとしたが



布地が
張られていないか
どうか
手でさわってみた



生きています

そういう
直感があった



手には
例の肉質金属の
弾力に富んだ
肌触りしか感じない



しかし
その全体から
「いきもの生物」
の印象を
受けるのである



リビング・ファニチュア
生体家具と
いうの
ではなく



あのよゆうな
「生命」
の認識だった



人間とか
ヤプーとかいった
高等生命体とは
全然別種の



いわば
なまこや
ひとでを
眺めて
感じるときの



——いや
この時にはまだ
認識というより
予感だったが……

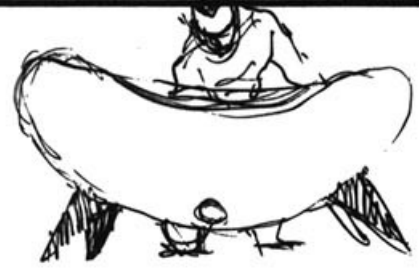
無気味さに
麟一郎は思わず
あとじさ
後退りしようとした



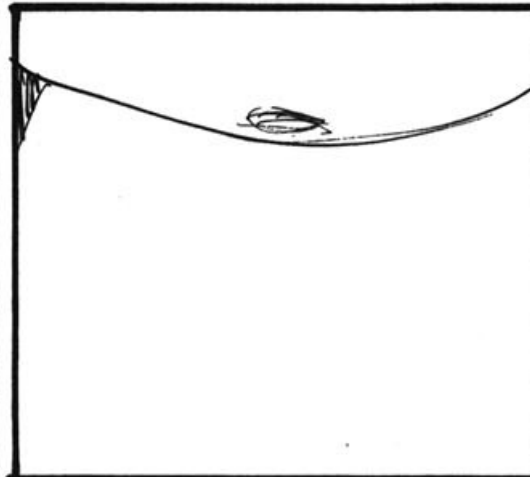
その瞬間



鞍形胴体の
下腹部



ちょうど
鍙あぶみの垂たれ下る
両側の部位から



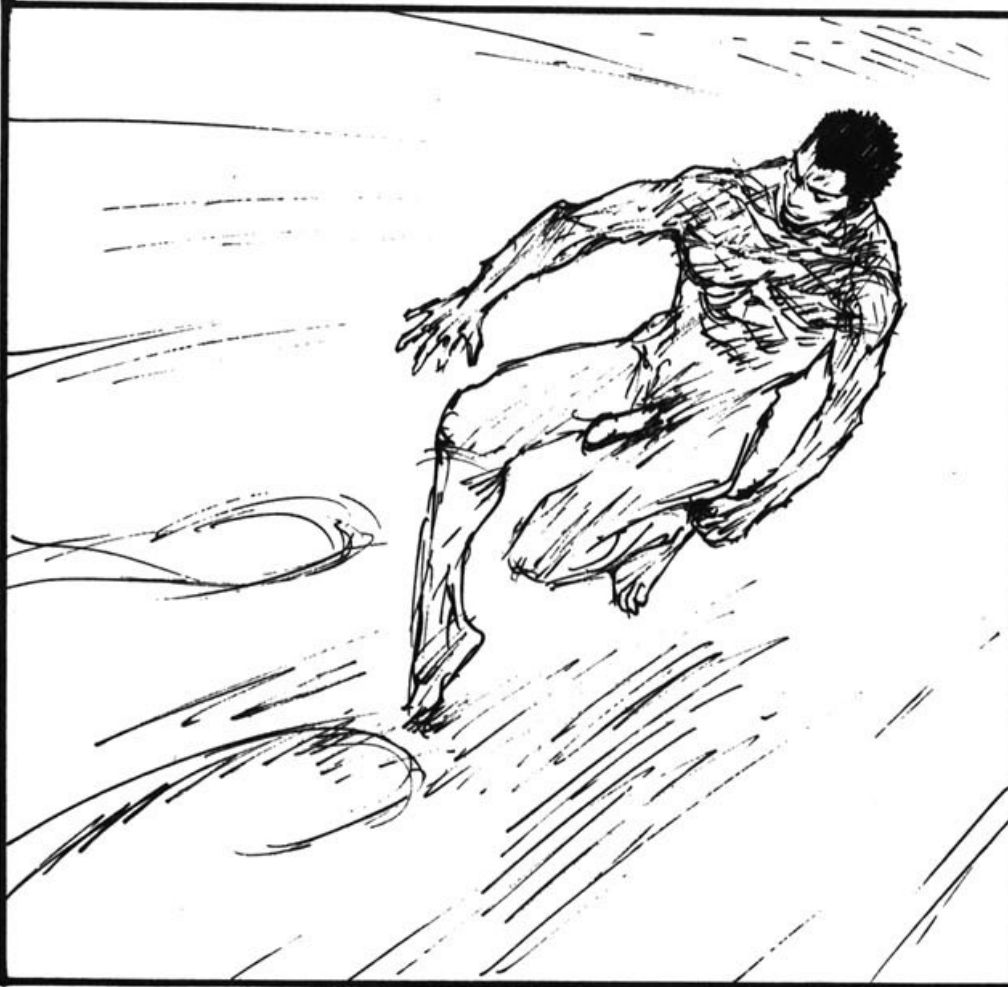
サッ



と
二本の触手が
飛び出して来て
彼の両脚を
とらえようとした



柔道で鍛えた
彼の運動神経が一瞬速く
一間も飛びさがらせなかつたら



彼は
簡単につかまってい
たに違いない



と
この生きた鞍くらは



ノツシノツシと
今までただの棒と見えていた
四本の脚を動かして

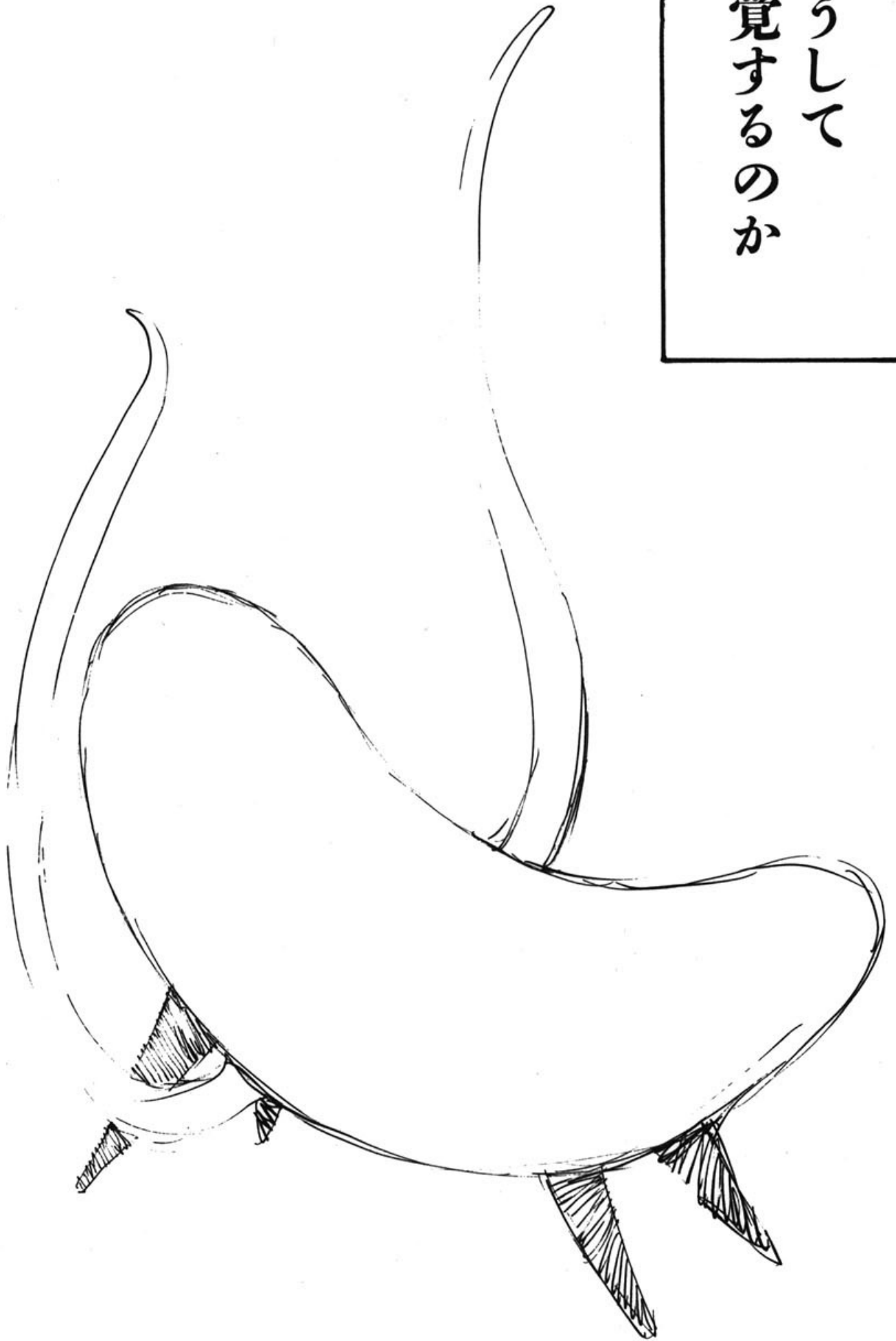


触手を
振りつつ
隅すみに立っている
鱗一郎のほうに
寄って来る
ではないか



彼が
素早く
他の隅に
まわり込むと

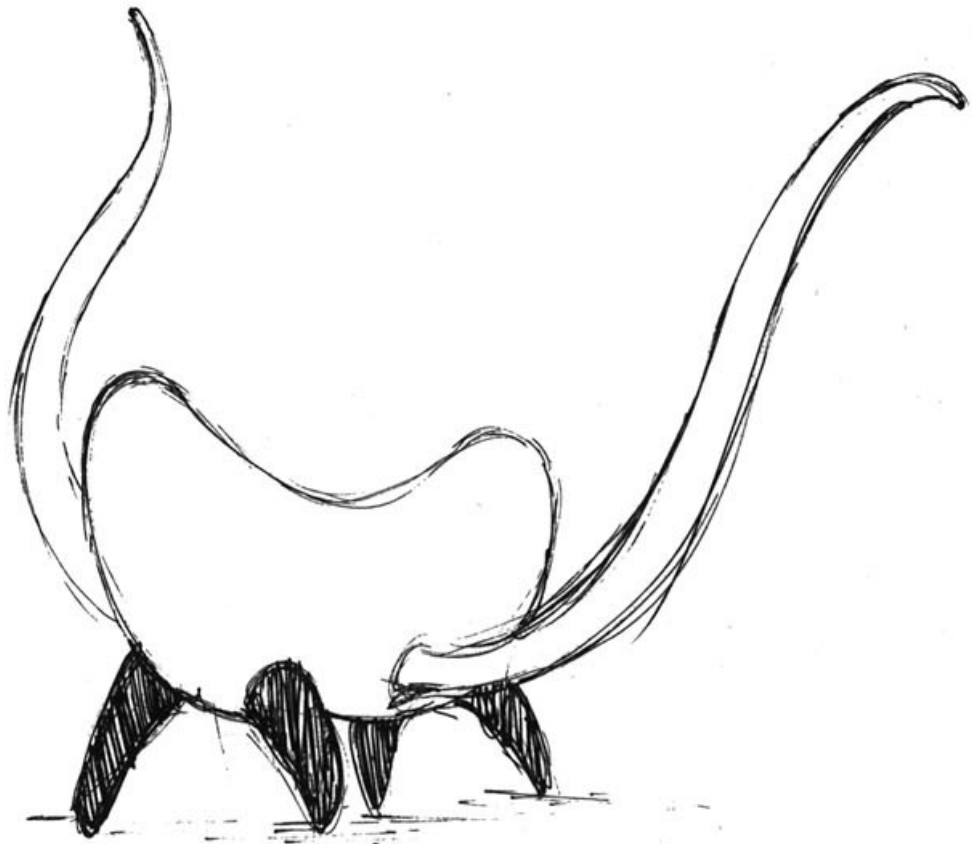
どうして
知覚するのか



確実に
彼の位置を
探り当て
方向を変えて
寄って来る



ゆつくりだが
歩みは
確かだった



スペシャルペン
特別檻の中で
鱗一郎を
追い回していた
動く腰掛は

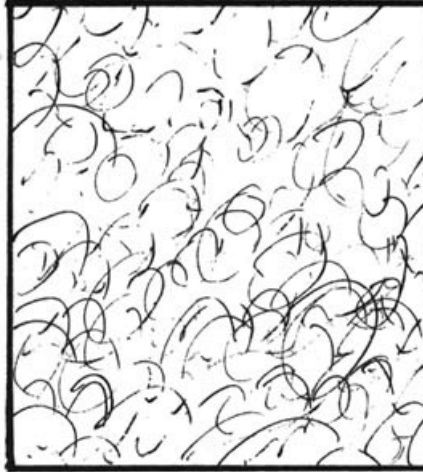
去勢鞍

カストレイチング・サドル

と称ばれる
人工合成による
生物の一種
なのであった



たんぱく質の
合成に始まる
生命体の人造は



DNA
組換えによる
遺伝子工学の
発展も



生物進化の跡を
たどり尽すには
研究室内の
二千年の時間は
あまりに短く



『イース』においても
長い歴史を
閲^{けみ}していたが

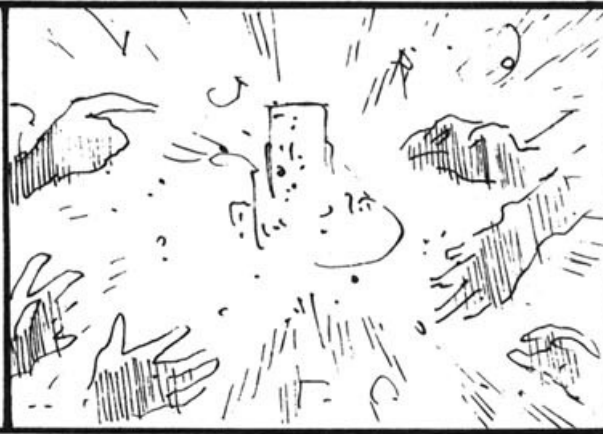


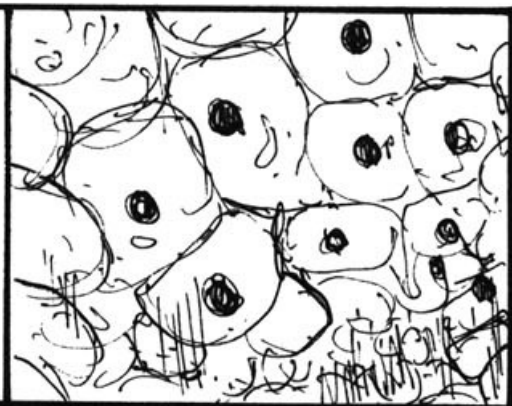
今まで
せいぜい
腔腸動物^{こうちゆうどうぶつ}
程度のものが
合成されたに
すぎなかった

しかし
天然に存在する
生物と同じものを
作ろうとあせらず



人工で別種の生命体を
作り出そうとする試みは
予想外の成功を示した





原形質細胞の
代りに
肉質金属粒子

こうして
出来上った作品は
動物体の持つ
あらゆる特徴を示し



血液として
特殊な
科学溶液



神経作用は
電磁気



これらを
統合する脳髄として
小型人工頭脳

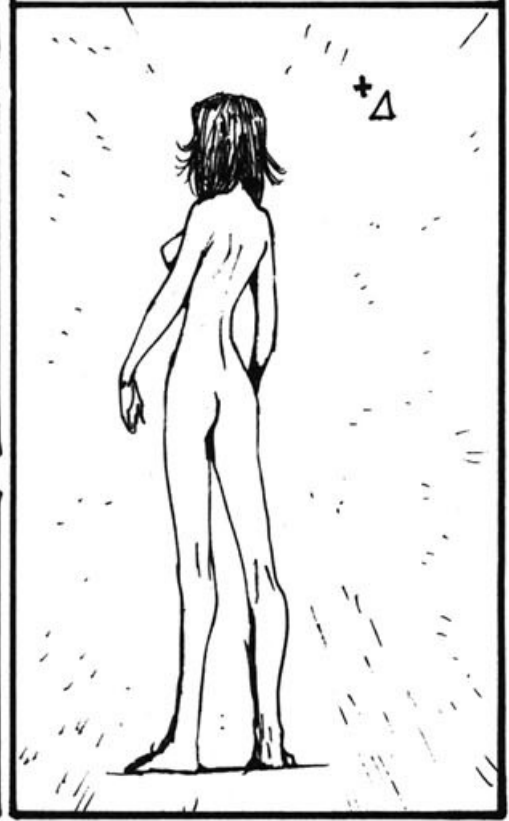


ただ生殖による
再生産の能力を
欠くだけだった

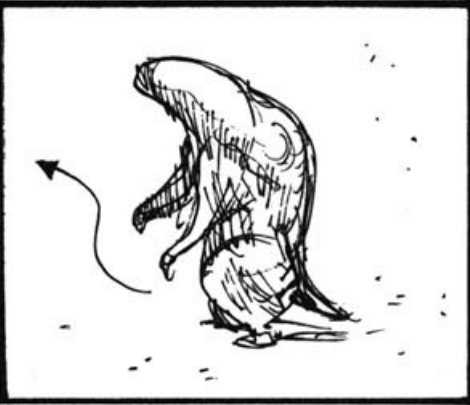


その最高のものは
後章に登場する
ダイシー・タイプ
のような

アシモフ・アレイン
陽電子頭脳を
備えた
アンドロイドたち
であるが



そこまで
高度な作業を
要求しない場合のため
本能行動をするものも
作られている



それは
あらかじめ
一連の作業を
本能化しておく



忠実に
正確に
遂行する

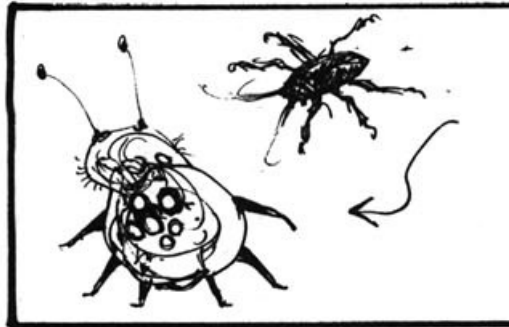


予定された枠
以外での
適応行動という
知性能力は
示し得ないが

本能的行動としては
ずいぶん
複雑高次の段階に達し



ほぼ
昆虫類と
同程度に並ぶ



これが
アライシヤル・アニマル
人工動物
である



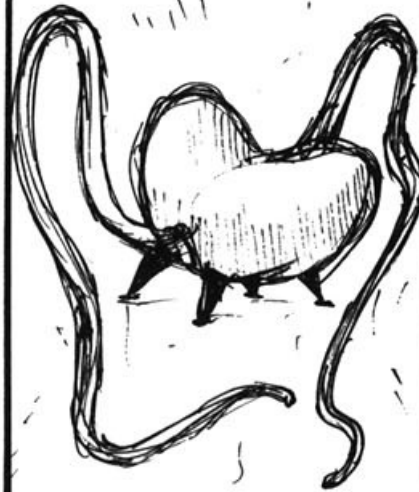
そこで
いろいろな作業が



こうした
人工動物に
委ねられること
になったわけである



「カスト・サドル
去勢鞍」
というのも
その一つで



原ヤブーの
去勢手術をすること
本能にしている
人工動物であった



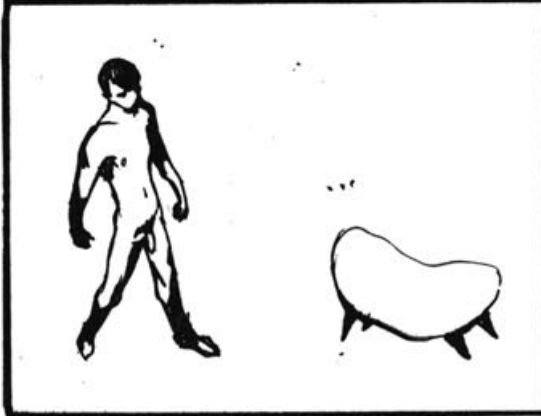
その
真の黄色の
背部表面は



相手の肌色が
黄色である場合にだけ
反応を起すための
識別器官である



表皮中の
メラニン色素を
一瞬のうちに
定量分析して
しまうのだ



この鞍くらは
恐るべき
去勢機械
として作用する



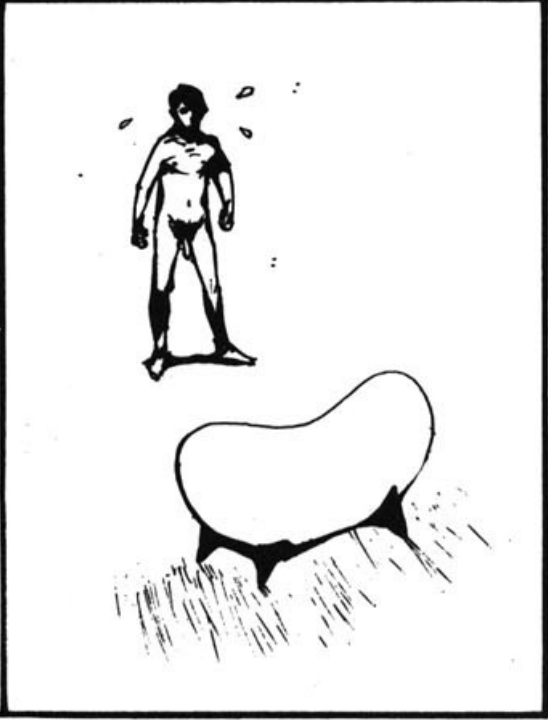
白人や黒人には
これは単に
鞍馬あんば状の腰掛こしかけに
過ぎない



しかし
肌の黄色い奴ものが
掛けると



そして
近くに
黄肌の奴ものがいて

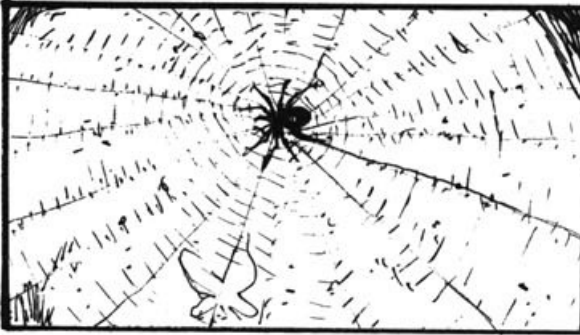


しかも
台に乗らない場合

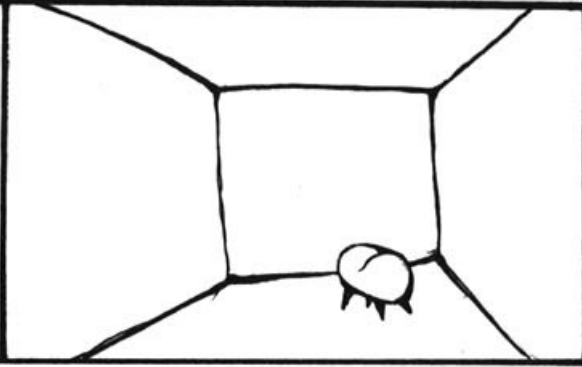
それを
捕えに行く



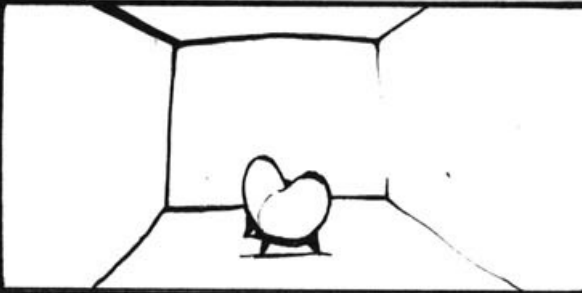
蜘蛛が
自分の巣に
おけると同じく



行動範囲は
特別檻と呼ばれる
白色平面で囲まれた
空間に限られるが



この檻の
内部にある限り
はなはだ有能で

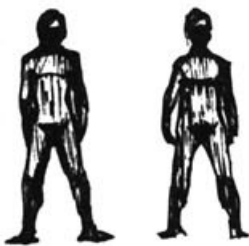


どんな
敏捷なヤプーも
結局は彼の蝕食に
ならざるを得ないのだ



ところで
セシルが隣一郎を
この檻に入れたのは
どういうわけ
だったのか？

いったい原ヤプーは
必ずしも去勢
されなければ
ならないものでは
ないのである



X O

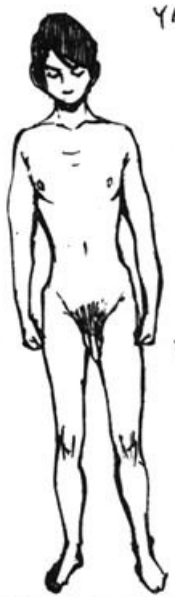




ことに以前は
去勢してしまつては
雄心が滅じて
鞭打ちを忍耐しやすく
するので

原ヤプーは
去勢しないのが
普通だった

調教するうえでの
楽しみがなくなる
という理由と



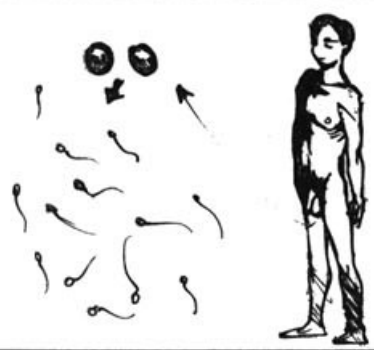
去勢してしまつたと
後で仔胤を
取りたいとき困る
という理由から



ところが
畜乳中の
男性ホルモンにより
去勢ヤプーも
女性化する心配が
なくなったこと



などから
この反対理由が
なくなった



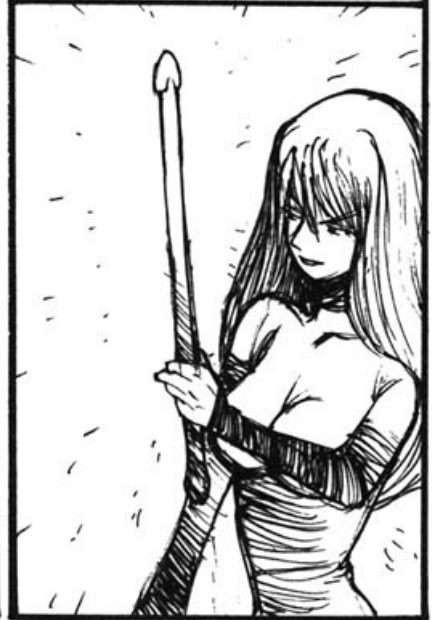
てきしつこうがん
別出率丸を
シメンバンク
精子銀行に預けて
いつでも仔種が
引き出せるように
なったこと



また一方には
上流人士の
珍棒愛好



ことに
セルフ・チャンポイ・デイ・イン・リン
自己珍棒訓練の
流行があり
このころでは
原ヤプーの
約半数が去勢される



だから
ヤプーの大暴れの
噂だけ聞いて
その後の出来事を
知らなかった
セシルが



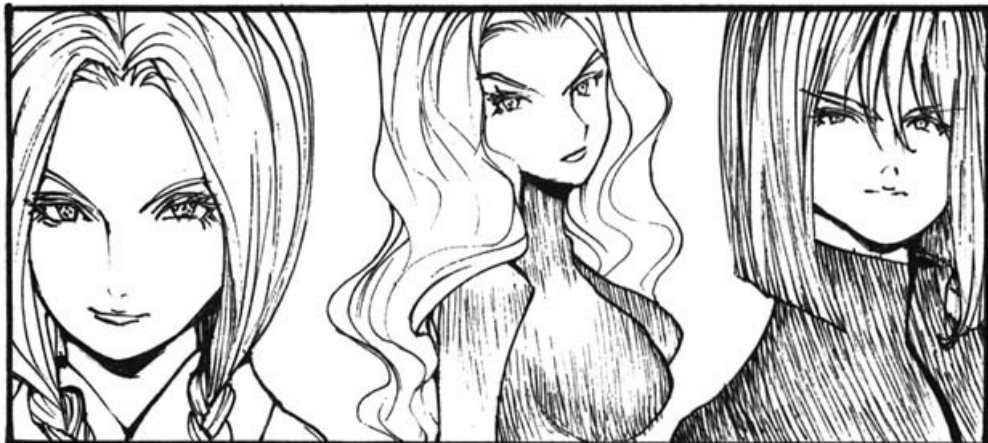
客室から
手錠・足錠で
送られて来た
このヤプーを

特別檻行き

と
思い込んだのも
無理はないので



「ヤプーの
処分は
持ち主の
意思に従う」



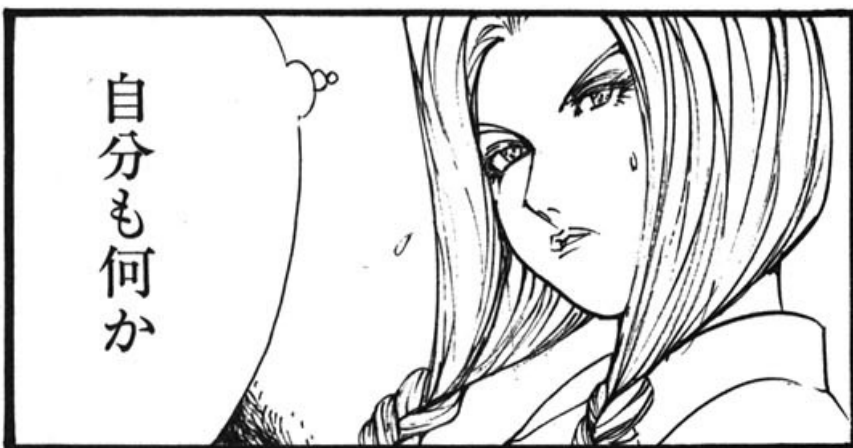
という原則から
 いちおうクララの覚醒まで
 予備檻に
 入れておこうとした
 ポーリーンの意図は
 セシルには通じなかった



そして
 ドリスやウイリアムが
 それぞれクララに
 贈物をしたとき以来



このヤブーを去勢し
 珍棒を作ることになれば
 自分が立派な握り柄を
 プレゼントしてやれる

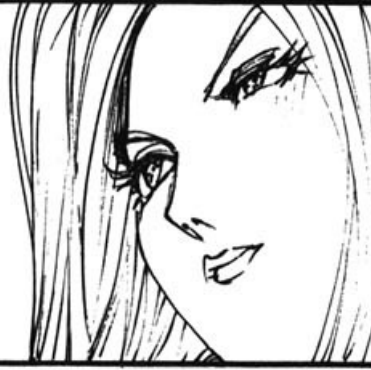


自分も何か



と
 考えていた
 セシルは

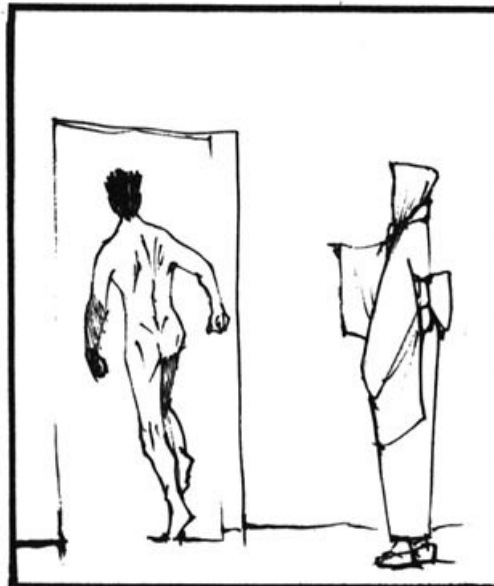
と
とつさに
思いついたので



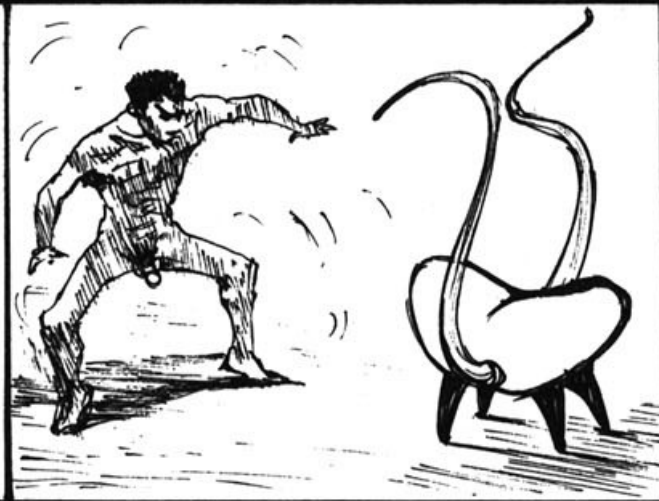
一つは
そんなこともあって
spare pen を
special pen と
誤解したのだ



すっかり乗気になって
特別檻に直接
このヤブーを
送り込むことまで
執行したのだった



襲いかかって来る
怪物から
辛うじて
身をかわずの
精一杯である



もう
時間の問題であった

檻の中では
鱗一郎が
ハツハツと
口から舌を
吐き吐き



クララの寝台のわきでは
医師カルロス・アレマンが
ちよつとした
外科手術をしていた

彼は
年のころ三十五くらい



南欧系で
黒い髪
灰白色の肌はだ



背はあまり高くなく
性格をそのままの
情熱的な目に黒い瞳ひとまだった



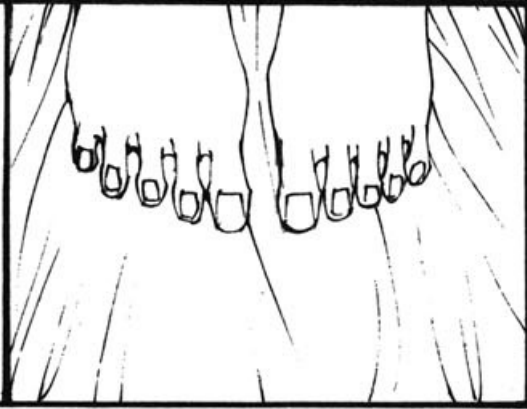
しかし争えぬもので
表情にどこか
卑いやしげな
ところがあり
一見して
平民フレスであるとわかる



御用医師団の
一人として
若夫人に随行して
やって来た
練達の外科医だった



彼の
目の下には
象牙を
刻んだような
美しい足と

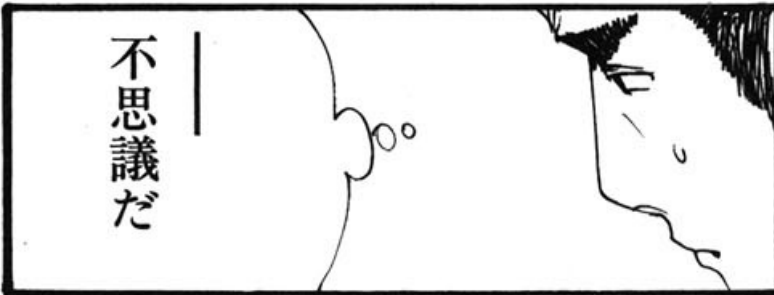


それに
貝殻を嵌め込んだとも
たとえたい
趾の爪とがあつた

……ただ
それが
五つある！



不思議だ



こんな
可愛い足の持主に
こんな奇形が
出るなんて……



メスで小趾を
削りながら
彼は心につぶやいた

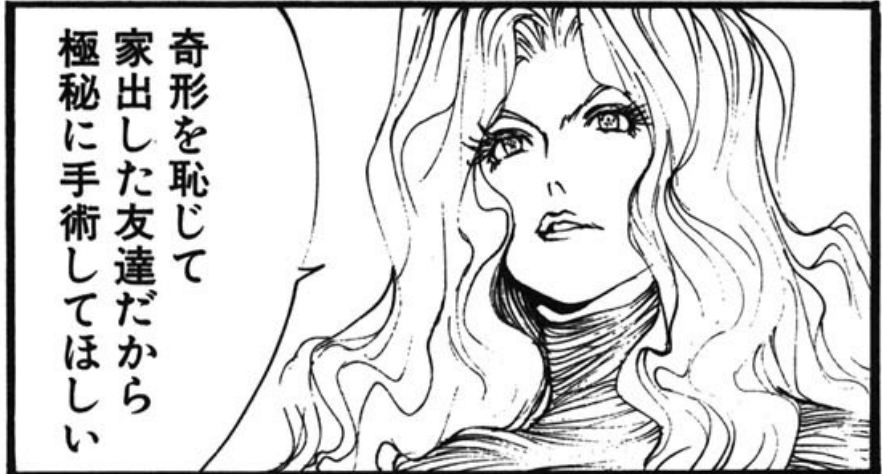


隠れて前史時代人を
連れて帰るなどという
重大犯罪を犯した
とは知る由もない
アレマンは



なお
不思議でしょうが
なかったのだ

奇形を恥じて
家出した友達だから
極秘に手術してほしい



という
ポーリーンの説明を
鵜呑みにして
クララをイース貴族と
信じていたから



彼は
横に立っていた
外科道具を満載した
移動架ワイムシホキに向い
皮膚鏡スキンマイロンを
出すように命じた



患者は
顔をハンカチで
覆おおったまま
眠り続けていた



さつき来たときも
そうだったし
手術前に超笑気ガスで
麻酔し直したときも



ポーリーンが
自分でガスを吸入させ
彼には患者の顔を見
ることを
許さなかったのだ



今も後方で
彼女が監視するように
彼の作業ぶりを
見守っているのを
彼は全身で感じていた

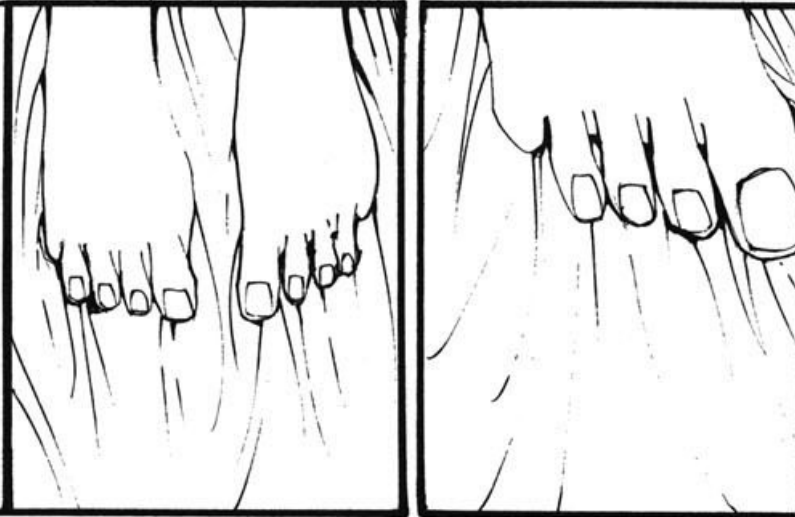


左右の小趾こゆびの
爪を剥がし
皮膚に埋まった
爪根そうこんを切除し



ついでに
小趾の大きさも
人並みに削ってから
皮膚鏡を使うと

手術の痕跡も
わからない



クララの足は
生れながらの
四趾爪としか見えぬほどに
整形された

終わりました



この足先の
筋肉には
今まで自分の知っていた
どんな貴婦人にも
見られなかった

鏡を移動架の手に
渡しながら
アレマンは
ポーリーンに報告し




改めて
自分の手術した
美女の足先に
見入った




何という
変った美しさ
だろう





異様な野性が
秘められている

秘密厳守は
いうまでも
ないけど
カルロス




この天下一品の
足の持主は
いったい……



ポーリーンの
声はきびしかった

お前さん自身も
無用な好奇心は
捨てるんだよ

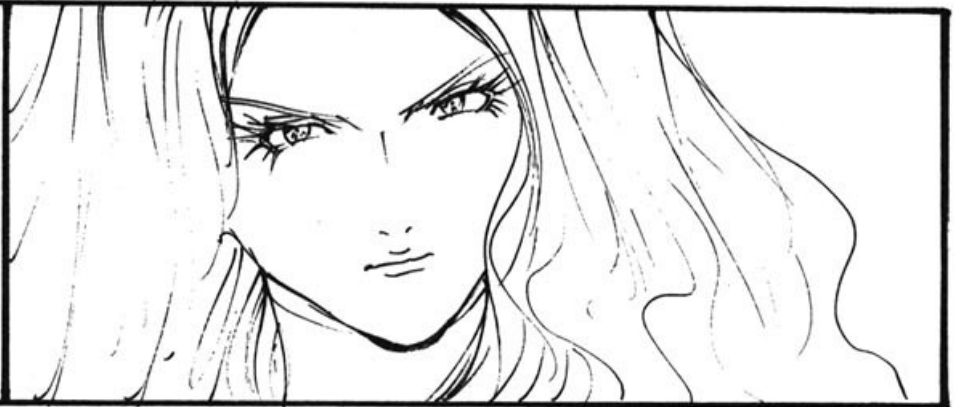


はい
畏まりました
若奥様

彼はきつぱりと
返事した



この怪しい
美女の秘密に
参じたばかりに
イース貴族間の
派閥闘争に
巻き込まれ



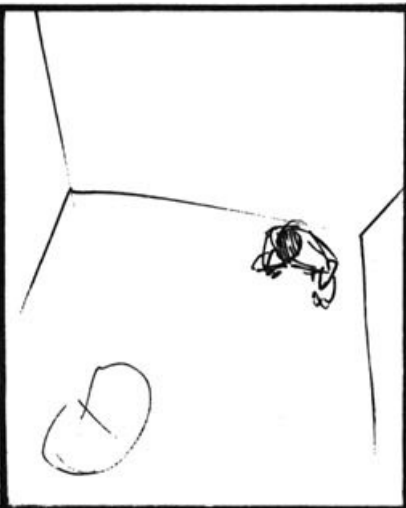
後に
当の彼女自身の手で
彼の人間性が
剝奪される羽目にならうとは



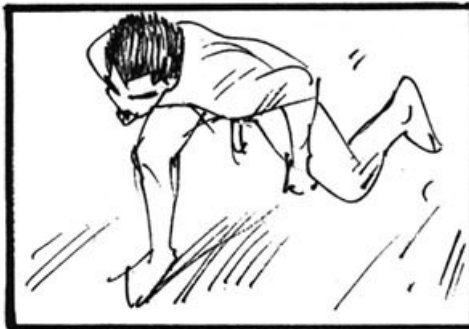
夢にも
知る由が
なかつた……



クララ自身も
知らぬうちに
足趾の整形手術が
始まったころ



階下の
ロビーホールで
スペシャルペン
原畜舎の特別檻では

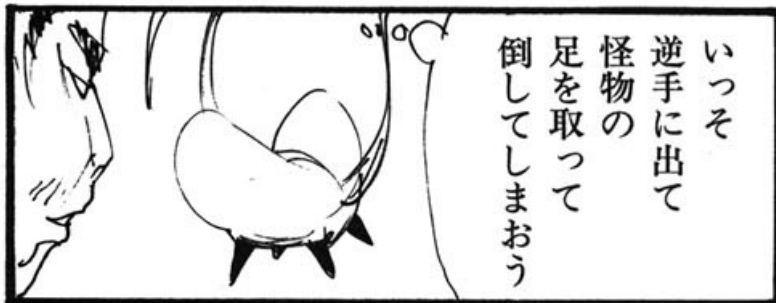


さんざん
逃げ回った末
鱗一郎は

とうとう
鱗一郎が
カスト・サドル
去勢鞍に
捕えられた



これでは
結局疲れて負ける



いっそ
逆手に出て
怪物の
足を取って
倒してしまおう

やはりそれが
運の尽きだった



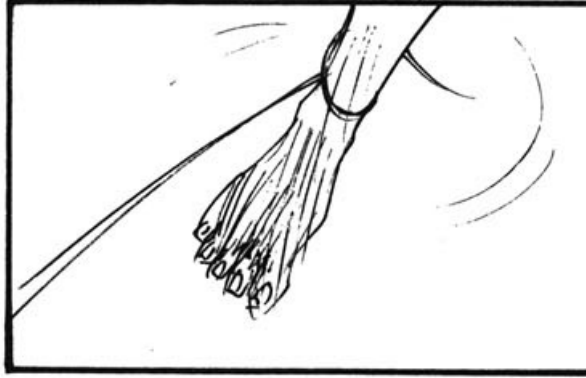
と
猫を咬む窮鼠のように
回り込んで後方から
飛びかかっていったの
だった



失敗して
殺されたって
どうせ自殺する気
の俺には同じだ



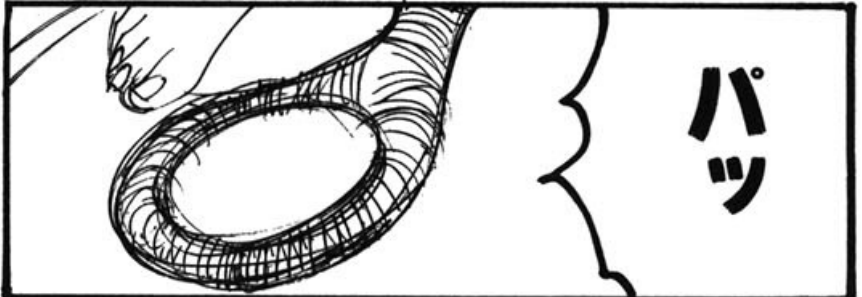
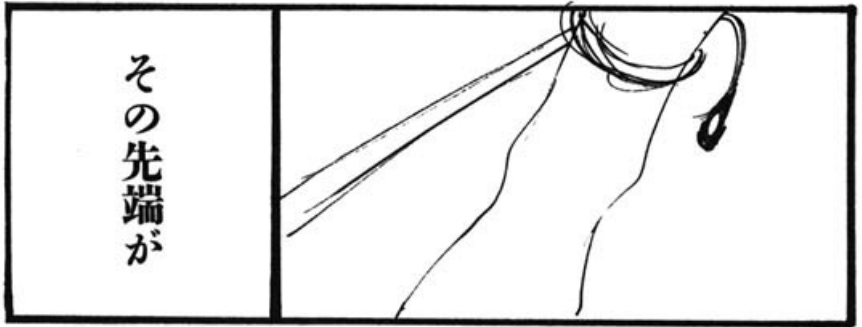
触手が
片足に巻きついた
と思うと



と
環状に膨張し
足首を通すと
たちまち締まる

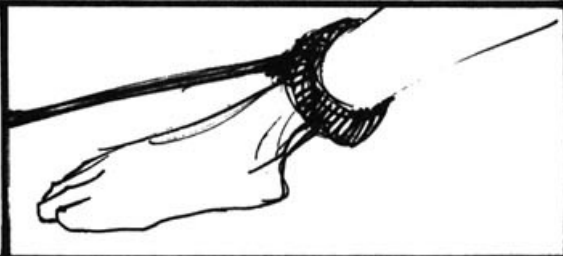


その先端が

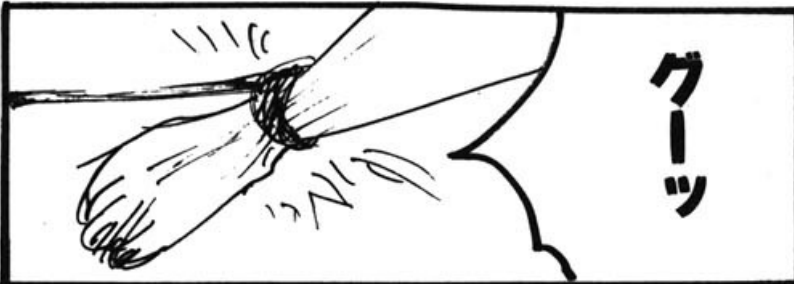


金属ゴム製孔鈕の
仕掛を知らない彼には
まったく
わけがわからない
うちに

触手は



グーッ



と
締め



片足を取られて
彼はすぐ
引き倒された



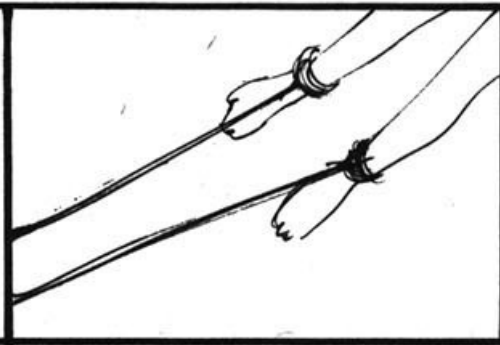
直ちに
もう一方の足首にも
輪が掛って締まった



この触手は
上半身は
問題にせず



両足首だけをねらう
鍛触手カウチウツテという
名を持つ奴であった



怪物が
四脚を縮めて
台部が低くなった
上方に
鱗一郎は
両足を開いて
立ち跨またった——



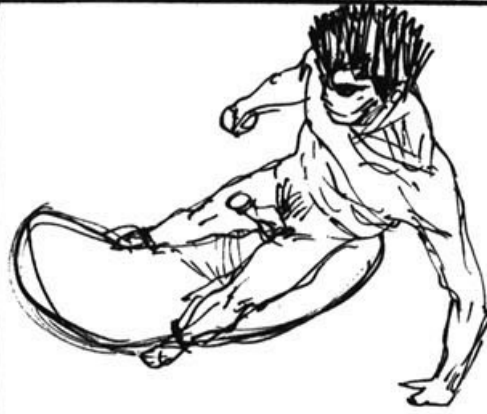
いや
跨またらせられた



自由な上半身を
どう動かしても
両腕で触手を叩たたいても
まったく無益で



触手は
捕捉した彼の両足を
思いどおりの位置に
持って行き



いきなり
台が下から
飛びついて来た



彼は
否応なしにその姿勢を
取らされてしまったのだ



—と
思った
ときには
もう
跨らせられて
いた

台は柔軟で
中ほどで深く凹みだし
左右にも反りを作り
極端な鞍形に
変形している



両足首が
鏡触手で下方に
引かれているために



内腿^{うちもも}で
ぴたりと鞍を
挟^{はさ}みつける
だけでなく



前は
臍^{へそした}下二寸くらいから
後ろは
腰椎下部^{ようつい}までを
結ぶ部分^{むすぶぶぶん}が

常の
乗馬鞍



鱗一郎自身も
半日前には
これに跨^{また}って
タウヌス山に登^{のぼ}って
きたのだが



よりも
座^まの前後の
曲線^{まげ}の反^{さか}りが
急^{いそ}いなので



鞍に前後から挟^{はさ}まれて
密着^{みせき}してしまっている



しかも奇妙なことに
前陰部^{ぜんいんぶ}には
何の圧迫^{あつぱく}もない



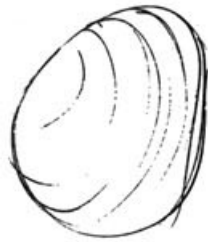
そのはずだ
鞍座の前部中央線上
ちょうど前陰部の
当る部位にばかりと
適当な大きさの
穴があいて



袋も筒も
そこに収まって
いるのだ



それが去勢鞍の
口だった



この怪物の正体を
知らない鱗一郎は
無理矢理妙な姿勢を
取らされただけで



予期していたような
死の苦痛が
襲わないのに
ちよつと拍子抜けの
気がしたが



それは
時間にすれば
ほんのわずかな
ものだった



中に
何か液体が
入っているらしく
彼は筒が
濡れひたって
いるのを感じた



間もなく
その穴の
細い縁が
締めまり始めた

袋も筒も
付根から
切断される



それも
一ミリ締めまり
一センチ締めまるごとに
だんだん
切られてゆくのだ

もちろん
麻酔はない



鱗一郎は
吼え猛って
両手で髪を
かきむしり

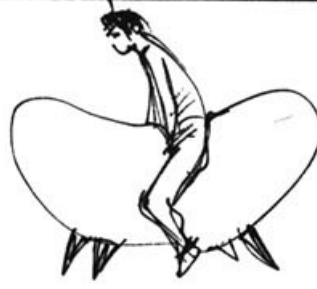
胸を叩いて
苦痛と格闘した

……
またもや
大拷問であった

去勢鞍の
行う作業が
どんなものか
説明しよう



鞍に乗せた
ヤプーの前陰部を
口にくわえて調べ

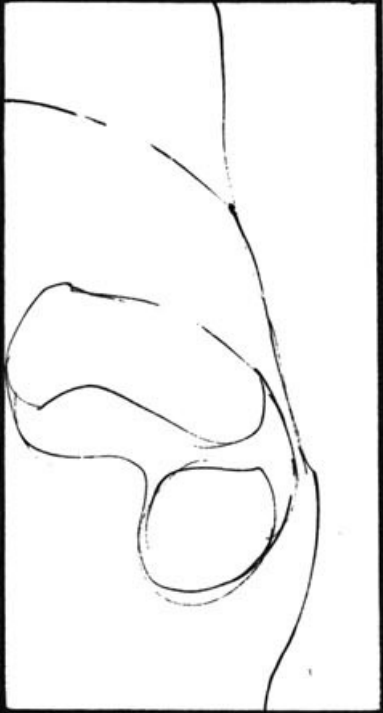
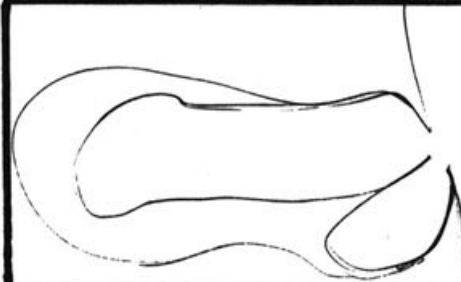


スキンタイロン
皮膚鋸で
プレスし



もしペニスの長さが
足りなければ
造肉刺激剤にひたして
充分な長さにする

その上で
袋と筒を
根元から咬み切る

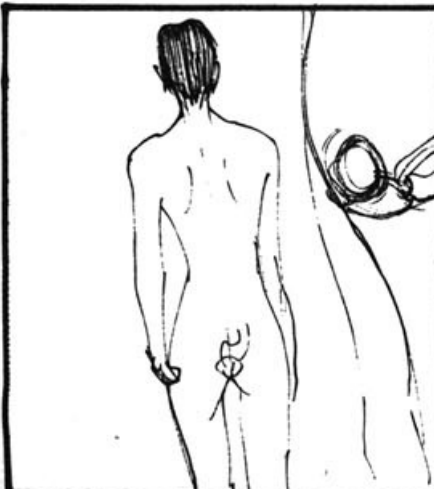
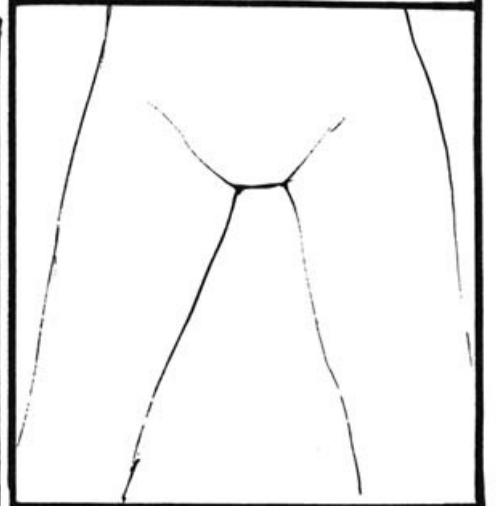


表面を
毛一筋
小穴一つない
滑らかさに
仕上げてしまう



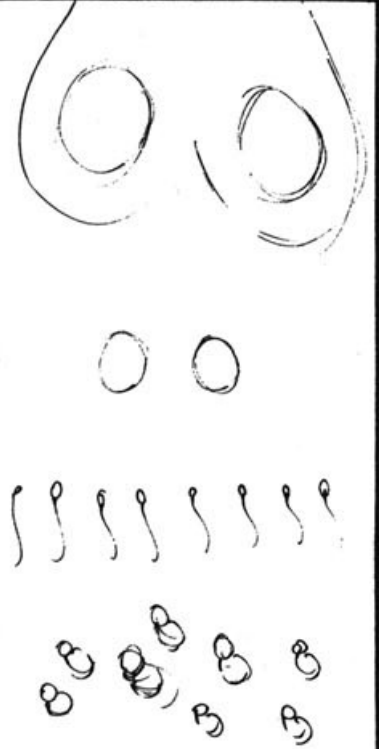
尿道は
塞がる事になるが
すでにエンジン虫が
体内にいれば

その体液分泌の効果で
水分が直腸部に
滲出してくるように
組織が変わってくるから
そのほうの心配は
いらぬのだ

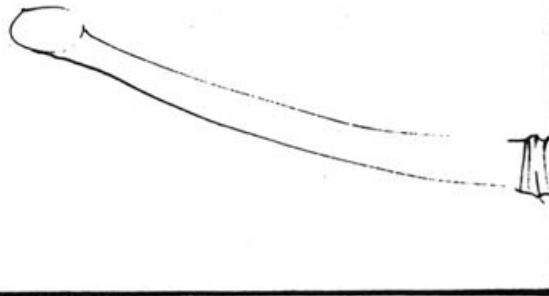


切除した
袋の中の玉は
精虫金庫に
畜籍登録番号を付けて
半永久的に保存され
子孫の作出に利用される

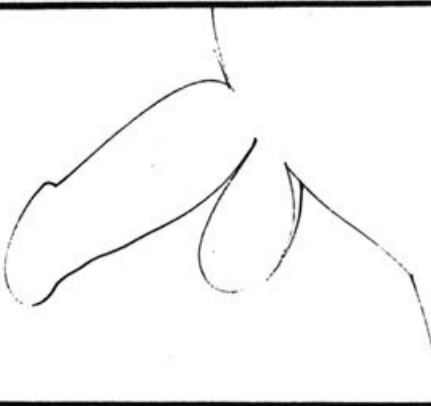
さて
ペニスであるが
なぜわざわざ
一定の長さにまで
したりするかというと



これから
鞭むちを作るため
なのである



切断のとき
急に切り落さず
徐々に切り離して
いくと

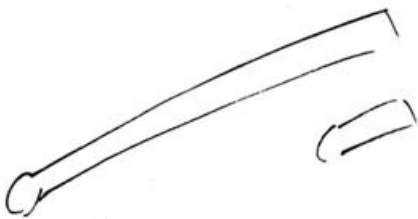


その苦悶くもんによって
苦痛素ドロロゲンが
体中に回り
海綿体の組織が
変化しやすくなり

直ちに
増長液に入れて
処理すると



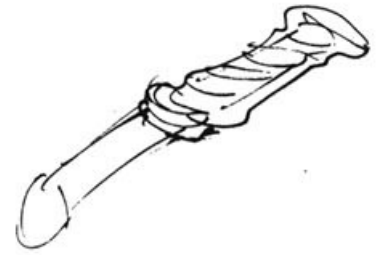
鞭海綿体フシクマシロシヤイと
伸縮率五倍の
きわめて能率の
高いものになる



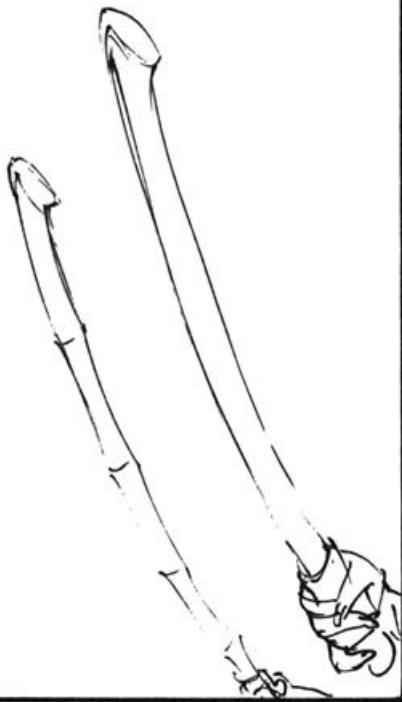
同時に筒自体も外革を伸延する処置をしておく



瞬時にしてピンと細く伸びて強く撓よう一メートルの竹策せち状の物体に変化するのてある



これを生体接せつご着糊のりで一定量の人口血液を含む握り柄に接続する



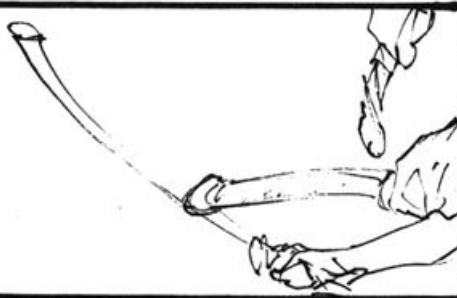
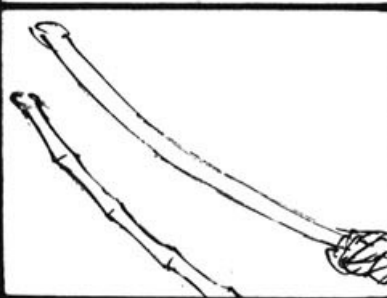
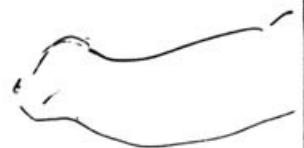
そうすると柄の握り方次第で平生ボケツトの中では二十センチぐらいの革バンド状の皺しわだらけの柔軟な物体に過ぎないものが



同じ
Denis-whip
でも
シヤムポクなどよりはるかに精巧なもので

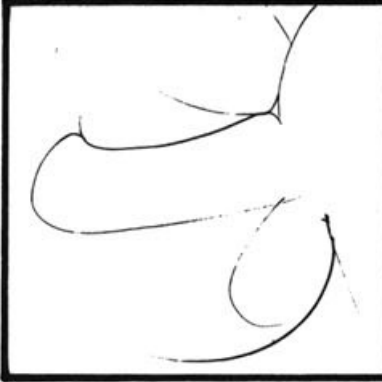
伸縮自在な点から如意鞭いじべんともいわれるが普通には珍チン棒ゴウと称よばれる

珍棒チンゴウが原ヤブー訓練の鞭としてどれほど性能を持つかは後章で明らかになるだろう



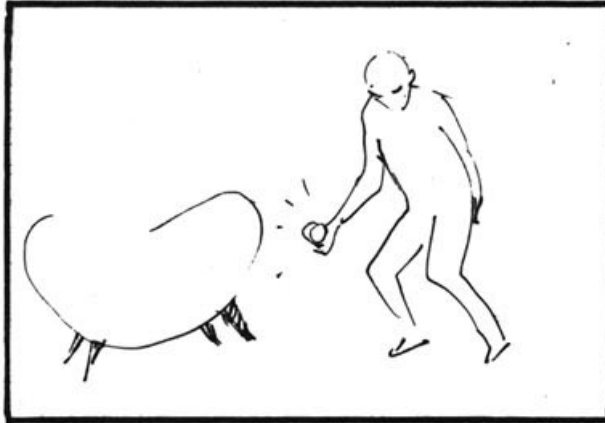
※チンポが家畜語でベニス自体の意となつてゐるのは逆時転訛である

人工動物
「去勢鞍」は
単に袋や筒の切断
だけでなく



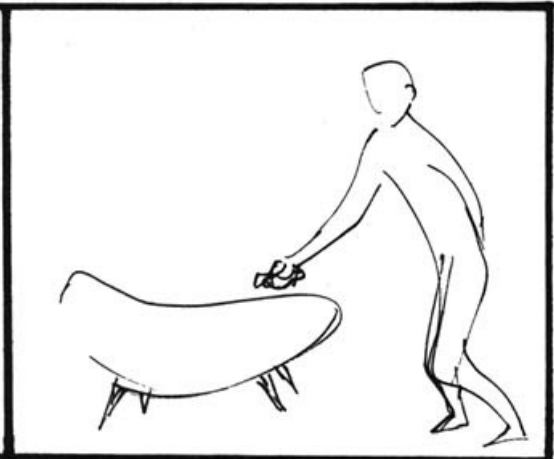
鞍の内部で
玉や筒を複製したり
処理したりすることも
その本能の一部に
しているのである

精虫金庫に
送る玉を
外で受け取ったり



その柄を
取り付けて
珍棒を仕上げたり
することは
この生きた鞍が
するのだ

鞭の握り柄を
渡してやったりする人は
別にいなければ
ならないが



苦悶の一刻ひとときが終つて
鞍上から解放された
鱗一郎は



突起物はおろか
毛一筋ない前陰部を撫なてつつ
屈辱感に耐えられずにいた



俺はとうとう
去勢されて
しまった



ふたたび
クララの寝室を
のぞいてみよう



まだ麻酔から覚めぬ
彼女の枕元では
一台の念波式言語学習機が
回転していた



……
次は褒貶詞です

ヨシ
タメ
モチヨット
の三語を知れば
充分でしょう



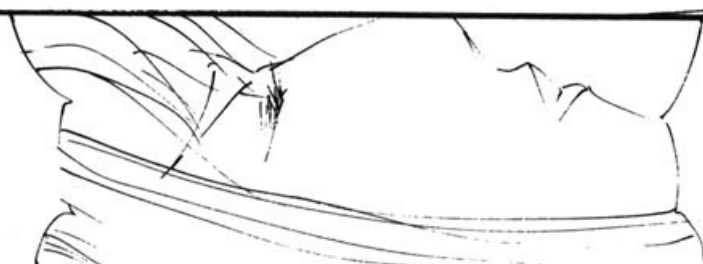
続いて命令詞
これはいろい
ろありますが
まず九方向詞から
覚えて下さい

ミギへ
ヒタリへ
ウエへ
シタへ
マエへ
アトへ
ソトへ
ナカへ
マワツテ



いひです
ね
今度は禁止詞

これは
イケナイ
ダメ
コラ……



ポーリーンの命令で
さつきA3号が
そつと置いていった
畜語音盤であつた



ソート・ウエーブ
思想波に乗って
最も能率的に
教え込まれていく

眠っている
クララの心の中で
ただここだけが
目覚めて
下意識



その座である
大脳皮質内の
言語中枢に対して
印欧語族の
白人向きの文法で
分析解説された
家畜語が



あす
明日の朝
クララは鱗一郎と話すのに
ドイツ語を使う
必要はもうないだろう



スミヤル・ペン
特別檻の
中では
鱗一郎が
舌を噛んで
自殺を凶つた



去勢されて生きる
屈辱に耐えかねたのか



彼は
扉が^{ドア}開いて
何人かの人が
はいつて来たこと

クララを失って
生きる希望を
喪失したのか……



しだいに
遠くなつてゆく
意識の隅^{すみ}で



自分が
抱き上げられた
ことを感じた



やれやれ
危うく死なれる
ところだった



二度とこんなことに
ないように
*
生体能原液
を一本注射しておこう
……



※これはネアンデルタールから
採集した精気エキスである

と
思いながら
彼は意識を失った



セシルの声らしい
……

クララ・フォン・
コトヴィッツと



瀬部麟一郎に
とつての



イース世界の
第一夜は
こうして
更ふけていった



YAPOO, THE HUMAN CATTLE 8 END



ミツク 化!!
作画 江川達也 原作 沼正三

発行・幻冬舎コミックス 発売・幻冬舎

BIRZ COMICS
POO, THE HUMAN CATTLE
gawa Tatsuya x Numa Shozo

家畜 子

かちく
じん

●①693円(本体価格360円)②～⑥620円(本体価格590円)

(一)～(八)

絶賛発売中

Y
A
P
O
O

衝 撃 の コ

西暦196X年、将来を誓い合った恋人同士であるドイツ人・クララと日本人・麟一郎。

二人が乗馬を楽しんでいたそんなある日、

突如見た事もない飛行物体が目の前に墜落する。

それに乗っていたのは、完璧な美貌を持つ白人女性・ポーリーン。

彼女は日本人が生体手術により、生体家具、肉便器などあらゆる「物」に加工され、

宇宙帝国イースを支える家畜「ヤブー」として生きる

二千年後の未来世界からタイムドライブしてきたのだった。

船内で気を失ったポーリーンを助けってしまったクララと麟一郎。

恋人同士の輝く未来は、この時を境にあらゆる方向へと流れ出す……！

**異才・沼正三が放った
戦後最大のタブーに
鬼才・江川達也が挑む!!**

ー テ イ メ ン ト !!

「Rozen Maiden」 **PEACH-PIT**

あきまん
「アクス・ネイクス」

ハラヤヒロ
「みこととみこと」

「幻影博覧会」
冬目景

原作 **奥瀬サキ**
作画 **志水アキ**
「夜刃の神つかい」

御船麻砥
「ヤオヨロズガール」

原作 **広井王子**
作画 **ヨザキユースケ**
「烏丸響子の事件簿」

「888 スリーエイト」
桑田乃梨子

高雄右京
「天然家族 みにつつめいど」

「薙破羅学園オカルト部 はうたま」
豊田アキヒロ

毎月 30 日 発売

幻冬舎コミックスホームページ <http://www.gentosha-comics.net>

※一部地域は発売日が異なります

加速するエンタ



極楽院櫻子
「カテゴリ:フリークス」

うめ
「大東京トイボックス」

「RED GARDEN」
作画 綾村切人
制作 GONZO

「BEAST of EAST」
山田章博

「おとめ妖怪ざくろ」
星野リリイ

斎藤岬
「DRUG-ON」

「ねぐるまねすく」 玉置勉強

月刊コミックバーズ

490円(本体価格467円)

発行・幻冬舎コミックス 発売・幻冬舎

バースコミックス

家畜人ヤプー⑧

2006年12月24日 第1刷発行

著者

えがわたつや
江川達也

ぬま しょうぞう
沼正三

発行人

伊藤嘉彦

発行元

株式会社 幻冬舎コミックス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6431(編集)

発売元

株式会社 幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6222(営業)

振替00120-8-767643

印刷・製本所

大日本印刷株式会社

検印廃止

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替致します。幻冬舎宛にお送り下さい。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

定価はカバーに表示してあります。

©Egawa Tatsuya, Numa Shozo, GENTOSHA COMICS 2006

ISBN4-344-80782-0 C9979 Printed in Japan

幻冬舎コミックスホームページ <http://www.gentosha-comics.net>

本作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには関係ありません。